

45-440

矢津昌永著

韓國地理 完

東京 丸善株式會社

明治 27 9 22 内交

韓國地理序言

韓國ハ實ニ我が最邇ノ隣邦ナリ本邦ト大陸トノ間ニ立テル我が藩屏國ニシテ又實ニ緩衝地タリ否寧ロ彼我兩邦同心一體決シテ外國ヲ以テ視ルベカラザルノ親邦タリ曩ニハ我國此ノ親邦ノ領土保全ノ爲メニ清國ト戰ヒ今又同問題ノ下ニ露國ト鐵火相見ユルノ止ムヲ得ザルニ至リ正ニ國力ヲ擧ゲテ雌雄ヲ決セントス我國ガ韓國ノ爲メニ力ヲ盡クスモノ實ニ至レリト謂フベシ韓國ハ決シテ外國ヲ以テ

視ルベカラザルナリ本邦人が韓國ニ就キテ知ラント欲スルノ情切々ナルモノ蓋シ宜ナリト謂フベシ

本書ハ元來高等地理第三卷亞細亞洲ノ部分トシテ發刊スベキモノナリト雖モ現下世人ノ冀望ト時局ノ進行トニ鑑ミ茲ニ別冊トシテ韓國地理ト題シ先ヅ發行スルコト、セリ次テ清國地理ヲモ亦將ニ續刊セントス

明治三十七年九月遼陽大決戰ノ捷報到ル日

著者識

韓國地理目次

韓國

境界.....一

位置.....二

廣袤.....三

沿岸.....三

島嶼.....七

地勢.....七

山脈

 南韓の山脈.....一

 北韓の山脈.....一七

水系.....三

氣候.....三

雨量.....三

生產物.....三五

植物產.....三六

動物產.....三六

礦物產.....三七

住、民.....三八

種族.....三九

扶餘族.....三九

沃沮族.....四〇

人口.....四三

常漢.....四七

風俗.....四八

交 通.....五七

道路.....五九

鐵道.....六一

郵便電信.....六五

海運.....六六

河運.....六七

產 業.....七二

農業.....七二

牧畜業.....一〇七

林業.....一〇七

漁業.....一〇八

商業.....一一〇

政 治.....一三〇

地方制.....一三三

軍制.....一三六

財政.....一三八

對外事情.....一四〇

處 誌.....一五一

京畿道.....一五二

忠清道……………一六三

全羅道……………一六四

慶尙道……………一六七

江原道……………一七四

咸鏡道……………一七五

平安道……………一七九

黃海道……………一八四

朝鮮の殖民的資格……………一八六

韓國風俗繪圖解……………二〇一

韓國地理目次了

韓國地理

矢津昌永著

韓國 は即ち朝鮮にして東部亞細亞の東南に突出する半島國なり即ち詳言すれば支那の滿洲より斜に黃海と日本海との間に突出せる半島にして日本支那露西亞三帝國の中間に介立する國なり而して此の半島の自然上の位置は日清露三國の航路を扼して海上權勢に關すること大なるを以て常に諸強國の覬覦する所となる故に世人呼んで『東洋の巴幹半島』と言ふも誣言にあらざるなり

國號は我明治三十年改めて自ら大韓帝國と稱す古は高麗と稱したれば西洋人は之を Korea or Koria と稱す又一に鷄林とも稱ふることあり昔は馬韓辰韓辨韓の三部に分れたれば三韓と稱したり

朝鮮なる名稱の起原は『東』を意味する支那の文學的名稱なりと云ふ説あり又鷄林の名稱も亦『東』を意味する支那の文學的名稱なりと云ふ

或は鷄林の名は今の滿洲吉林を以て一封地として朝鮮をも含みしが後朝鮮のみを鷄林と云ふは吉林(チーリン)鷄林(チーリン)の音相同じきより起れりとも云ふ

境界 東南は日本海に面し其南端海角は我が對馬と相對して海峡をなす是れ朝鮮海峡にして一に西水道と云ひ或はブロートン海峡 *Broughton Strait* とも云ふ幅僅かに二十二里(大浦、絶)に過ぎず對馬及九州間の水道を東水道と云ふ是を以て古來日本とは特に密接の關係を有し一時は我が勢力圏内にありし所謂藩屏國たるものなり又西は黃海を隔て、支那の山東、江蘇二省に對し北及北西方大陸に連る處は鴨綠江及豆滿江の天然的境界に依りて支那の滿洲及露領島蘇里地方と境を分つ

位置 地理學上の位置は濟洲島の南端は北緯三十三度四十六分にして殆ど我が佐世保と同緯度なれども半島の南極は北緯三十四度五十五分の全羅道の於西浦鎮とす而して北端は北緯四十三度二分(札幌)なる豆滿江右岸の一地點とす又東端は鴨綠江口なる東經百二十五度五分(八重山群島)にして西極は同百三十度五十八分(九州東部)なる豆滿江口とすされば全然北溫帶中を占めたり

廣袤 地形略ぼ伊太利に類似し東南に突出すること長さ凡百九十里あり幅は大陸部の最も廣き處に於て一百五十八里又半島の最も狭き處は僅に四十五里あり○面積(朝鮮)の面積は未だ實測を経ざるを以て諸家の計算區々一ならず一萬三千四百方里(八萬二千方哩)三十一萬八千六百五十方里に達し我國の半より稍大に我本州より東山道を除きたるものに略ぼ匹敵せり

沿岸 朝鮮は其地體構造上山岳高原は大率ね東海岸に偏倚するを以て地形は一般に東方に急斜し西方に緩斜す故に東海岸と西海岸との間には顯著なる差異あり東海岸即ち日本海沿岸は多くは古代層又は礫火成岩の斷崖海に迫り一般に出入屈曲に乏しく從て海灣良港に乏しく嶋嶼亦甚だ少なくして湖沙干滿の差も甚だ厓小なり即ち干滿の差釜山に於ては六尺餘なれども元山に至れば厓に一尺なれば日本海に於ては湖沙殆ど皆無と謂ふも亦可なり○之に反して西海岸即ち黃海沿岸は新成層の低平なる地にして出入屈曲に富み間々峽灣廣き河口に依りて切斷せられ島嶼は岩石性のもの頗る多く良好なる海灣碇泊場に富めども湖沙干滿の差頗る大に十尺乃至三十尺に達し京畿道仁川の邊に於て最も甚だしく處に依りては干潮の時は一里十里唯々泥土を視て潮水

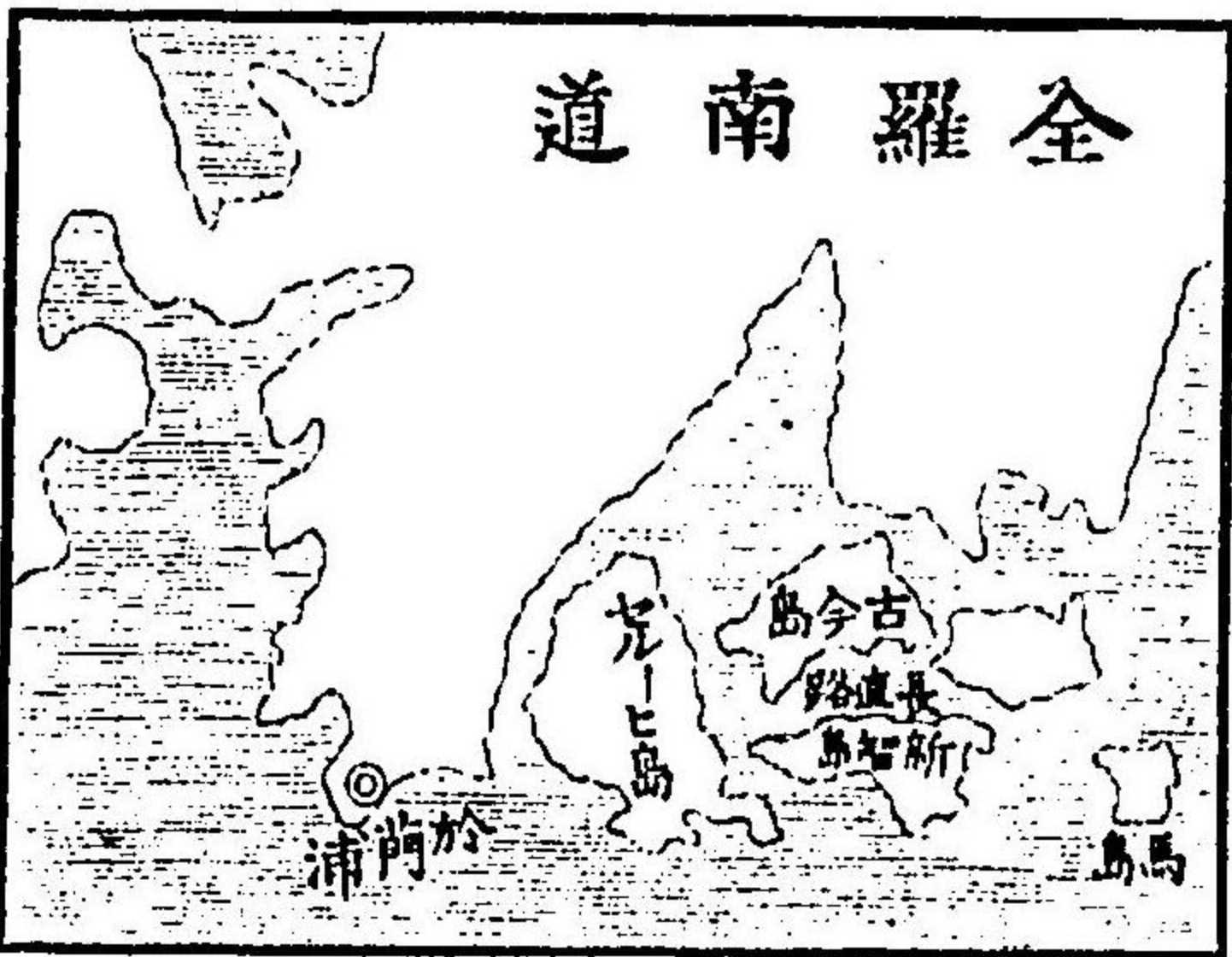
を視さる處あり、概して北部に甚しく南部に少なし、即ち木浦に於ては千満の差十三尺、なれども牙山は二十四尺、仁川に至れば三十三尺なり。○南海岸は半島地體の縦横の裂隙線によりて割断せられ且つ陥没したる遺跡なれば多くは斷崖絶壁をなし出入屈曲に富み海水深くして良好なる碇泊所あり、されば朝鮮の次第に開發するに従ひ將來の良港は必ず此海岸に開かるべし。○全半島海岸線の延長は總計一千七百餘哩に達す、但し此國の海岸には未だ燈臺の施設なし。朝鮮沿岸には暖流及寒流の二潮流あり、前者は黑潮暖流の支派にして濟州島附近に於て二派に分れ一は朝鮮海峡より流入し海峡に入る時は一時間三哩の速度あり海峡をすれば一哩の緩流となる、是より東海岸に近邇して北に流る是れ小派たり。○他の一派は黃海に入り著しく其西岸を洗ふ、是れ大派たり。○寒流はオホト海より來り露領の沿岸を洗ひて南する來滿流にして朝鮮海峡を過ぎて黃海に出づ。

東海岸に於ける海灣の重なるものを舉れば東朝鮮灣あり、東海岸唯一の大灣なり、是れ大陸的地體と半島的地體との接續間なり、此の東朝鮮灣頭更に陥落して灣入するを永興灣とし、灣内再び北に浸入するを松田灣とす、其南に德源灣あり

德源灣内に元山津あり、東海岸唯一の良港たり、港口には鹿島、新島、黃土島、牛島等島嶼散點し水路數條に分岐し港内水深くして大船も亦陸に近くことを得べし、其北には北青、端川、城津浦等の小泊地あり、皆日本漁船の泊所なり、露領との境に接して慶興灣あり、一時露亞西より占領せりとの噂高かりし所にして又良港たるを得べしと云ふ、東朝鮮灣より南の沿岸は著しき灣入なく遙南に迎日灣あり、冬外串、其南より出でて東北を指せり、其南に蔚山灣あり、日本海は沿岸の硬岩性なると潮汐の作用微弱なるとにより海水清澄なるを以て碧海の名あり。

西海岸には黃海道、半島狀をなして西方に向ひ、黃海に突出して支那の山東角と連絡を求めんとするに似たり、其北にある大灣は西朝鮮灣にして山東遼東の兩半島と共に卵形の海洋島海を擁す、是れ大陸地體と半島地體との陥落部なり、近海に破片の島嶼多く亦所々に淺堆あり、黃海半島の中間に大東河口の灣入あれども淺洲多くして船を通すべからず、大同江も亦大同灣をなし船舶十數里を廻り得べし、滿洲との境なる鴨綠江口は遠く大船を容る、を得、黃海道の南にある大灣を江華灣と稱す、内に仁川港及濟物浦あり、附近には大船を泊すべく數多の安全錨地あり、漢江口も亦船舶を容る、を得、江華灣の南は南陽半島突出し小部

島、雀興島、水深島等に連り其南の灣を南陽灣とす、内に馬山浦ありて良碇泊場たり、南陽灣の南には泰安半島、曲出し其南に安眠島横はりて内に淺水灣を擁す、淺水灣は北に灣入すること三十裡なり、錦江の吐口に庇仁灣あり、國內有數の良港



たり、其南岸に群山浦あり之より南下すれば全羅道の海岸には珍島、雙子島を始め島嶼散布し、灣入亦多くして良泊地を成形せり、北に新倉灣あり、南方榮山江口に木浦灣あり、南岸即ち半島南端は半島を縦貫する山脈と、横走する山脈とによりて縦横に切斷せらる、所なるを以て岬角、海灣の出入最も多く、一百有餘の島嶼其前面に横はりて海波を遮り、東洋稀有の良港灣も亦此間に存す、西角に右水營岬突出して珍島との峽間には朝鮮鳴門の名ある碧波亭あり、其の東に長直路あり、東口に馬山西口に莞島あり、其内に馬山鎮、古今島、鎰地あり、其東に興陽、左水營の兩半島出で、寶城、順天の二灣を作る、左水營と南海島との間は蟾津江口なり、巨濟島の蔭には有名なる鎰海

馬山の兩灣あり、何れも稀有の良泊地たり、鎰海灣は全世界の艦隊をも收容すべき廣さあり、東角に近き絶影島、陰の一灣は有名なる釜山浦なり

島嶼

前述の如く東海岸には顯著なる島嶼なし、只江原道沿岸を距る八十里我が隠岐の西北百四十裡に鬱陵島、松島あり、西海岸南海岸には島嶼頗る多し、就中京畿、忠清、全羅、三道の沿岸の如き群島羅列し、爲めに朝鮮多島海の名を博せり、而して此等の島嶼の多くは地味良好にして人民居住せり、今其重なるものを西海岸の北部より順次に列擧すれば、漢江口の江華島、仁川港前の月尾島、忠清道沿岸の安眠島、全羅道の西南なる珍島及同島より遙かに南方の沖に横はる濟州島、慶尙道の西岸に横はる巨濟島等にして、小島は擧げて數ふべからず、而して其詳細なる事は處誌の部に於て記述すべし

地勢

概言すれば朝鮮半島は到處山岳蜿蜒し、丘陵亦起伏して平原甚だ稀なり、佛人某曾て之を名狀して暴風の時海面に起伏せる波濤の如しと云へり、以て其一斑を卜知すべし、故に朝鮮内地を旅行せんとする者は必ず我が美濃の十三峠的山丘を踰すものと覺悟せざるべからず、是れ韓人の所謂峴なるものなり

朝鮮半島は南北兩部及東西全面に於て大に地勢を異にし、殊に南北兩部の如き各々特殊なる地形を有せり。此等の差別は一たび地圖を播きて河流の方向を検せば容易に之を認むるを得べし。○北部には西南西より斜に東北東に向て半島を横斷する山脈あり而して其東北部は東海岸に近接併行して延長せり、此の横斷山脈は支那の中部以北を組織する崑崙山系の餘波にして山東山嘴より一旦陷沒して黃海及西朝鮮灣の淺床を成形し、再び隆起して黃海平安兩道に亘り鴨綠豆滿兩江の共同の分水梁をなせり、此山脈は主として太古界の結晶片岩を山骨とし又片麻岩、雲母片岩等の最も古き岩石多しとす。

故に朝鮮北部の地體は其表面は東南に向ひて日本海及東朝鮮灣に面し、其一部は南部の地體該北端に接合せり、されば裏面は西北に向ひて滿洲方面を擁せり。南部の地體は以上の横斷山脈と斜交して北より南に向ひて半島を縦貫する數條の山脈によりて構造せらる、此の縦貫山脈は南に進むに従ひて漸く高度を減じ、極南に至り夷陵して岩石性の丘陵となり又地味礫礫なる平原となりて終る處なり、又此縦貫山脈と二十度乃至三十度の角をなして西南より東北に走りて其端黃海に陷沒する數條の山脈あり、此の南部諸山脈は横斷山脈とは其祖系を

異にせり、此の脈は即ち支那の南部を構造する支那山系即ち南嶺の餘波にして支那の錢塘江口に於て一旦陷沒して東海の淺床となりしもの始めて全羅道の西南角より起り東北走して彎曲するに従ひ次第に昂上隆起せるものなり。

此の縦貫山脈は半島の中央を駛走せずして東海岸に偏し且つ大率ね海岸と併行するを以て南韓を二個の不等なる部分に分割す、即ち縦貫山脈の東は此の山脈と日本海との間にある狹長なる條片形の地にして横斷山脈の東南の狹長なる地面と相合して朝鮮の八道（新羅道）中三道の一半を包含す之を總括して裏朝鮮とす、之に反して縦貫山脈の正面は緯度に併行して突出せる山嘴の間に横はり地味肥沃なる谿谷及傾斜地より成る、之を表朝鮮とす、表朝鮮は八道中の京畿、忠清、全羅の三道を包括し朝鮮の主要部分は大率ね此の内に包含せらる、但し東面に於ても慶尙道は獨り特色を呈し地域稍廣濶なり、蓋し此の地方慶尙道に於ては半島の縦貫山脈の一部大段落をなすを以て地域稍低平なり。

前述の如く朝鮮半島は南北の兩部に於て大に地勢を異にせり、之を詳述すれば北部に於ては咸鏡、平安兩道の共同分水界をなせる横斷線より水は西北及東南なる二個の反對方面に向て流下す、東南面即ち咸鏡道は分水嶺海岸に迫り地域

狹長なるを以て長江大河の發達を許さず短小の諸川直ちに並流して日本海に朝す之に反して北西面即ち平安道の諸水は一旦西北に向つて流下すれども北境には長白山脈の連亘するあるを以て其麓に於て相合し東半の諸水は豆滿江となり東北に降りて日本海に注ぐ其西半の諸川は豆滿江と反對の方向に降りて鴨綠江となり朝鮮灣に注ぐ但し平安道は其南に黃海道の突出あり是より連る山脈ありて其東南を限るを以て水系は威鏡道の如く直に海に注ぐを得ず横走山脈の狹間を走る二條の西流となる清川江及大同江是れなり要するに北朝鮮の山脈は西々南より東々北に向つて隆起し山軸之に従ふに依りて前述の如き灌域を形成せり

南部は前述の如く分水嶺東海岸に偏倚するを以て地勢東に高隆去西に卑く東岸の諸川は流域奥淺く且つ地勢險峻なるを以て水程短く直に日本海に注ぎ一も大流をなして交通機關を助成するものなし之に反して西面は山岳性を呈するに拘はらず諸山一も高峻なるものなく多少の平原を交ふ畿湖三道(京畿、全羅、濟南)にある牙山の野、金州の野、及羅州の野の如し之に伴はれ灌域も亦稍濶く之を灌漑する河流も亦従つて大なり北に在りては京城に沿て下れる漢江あり中部には

群山港に至りて黃海に朝する錦江あり西南に於ては木浦に注ぐ榮山江あり南岸にも二流あり河東に於て海に入る蟾津江釜山の西に於て海に入る洛東江是なり

以上五江は水量稍裕にして一部は交通機關の用をなす斯くの如く表朝鮮即ち西面は地勢西南に卑く且つ横斷諸山脈あるを以て各其峽間を西南流して稍大流をなして皆黃海に注ぐ但し洛東江は縦貫兩山脈間の間陷地の衆水を集むるを以て獨り南に下りて海峽に注げり

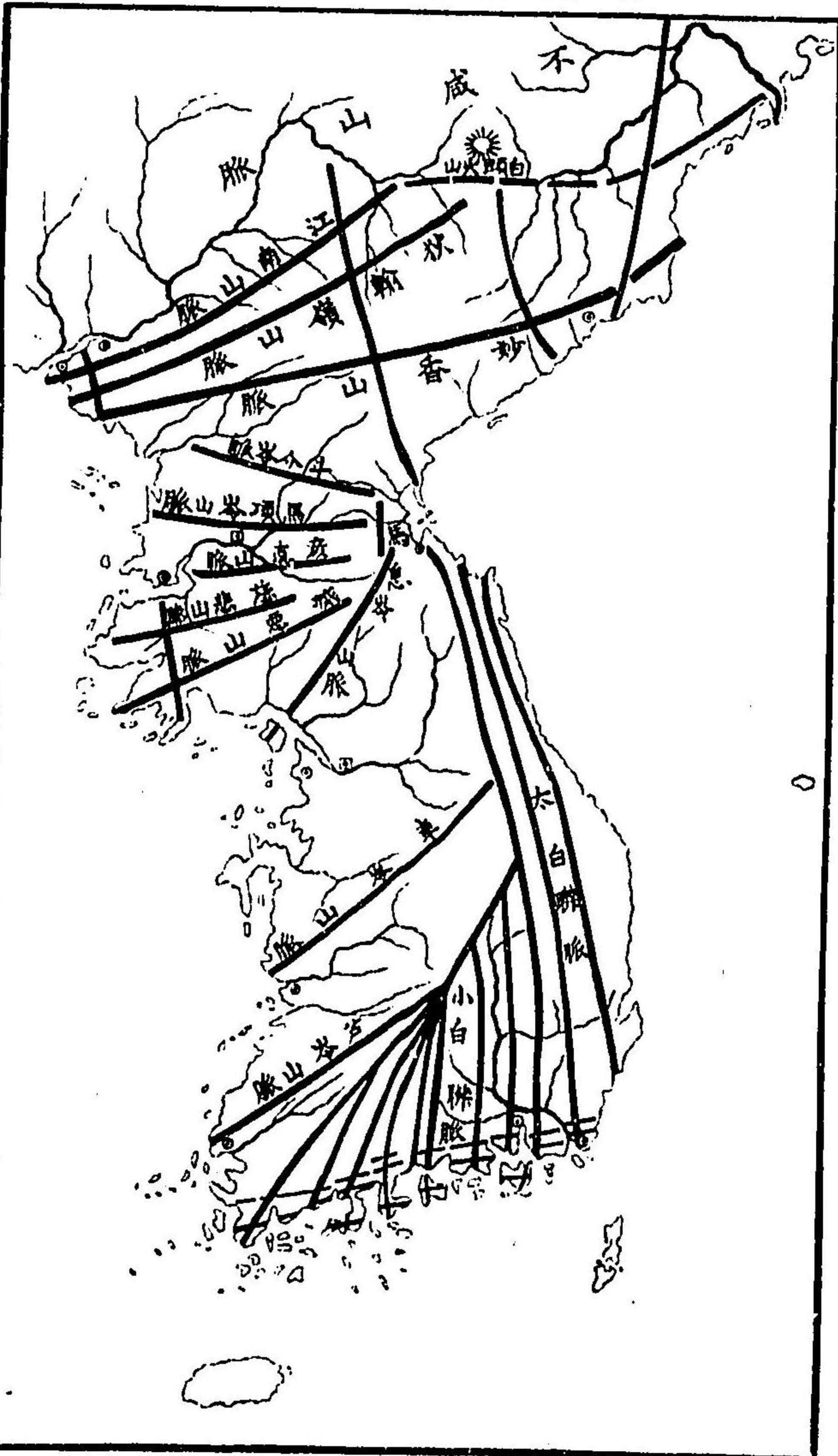
山脈

朝鮮の山岳系統并に地體構造は小藤博士の明治三十三年より前後十五閱月に亘る探險旅行によりて大に世に明なるに至れり故に今其概要を摘録して山岳系統を示すべし

朝鮮半島は其構造上南部と北部とに於ては大に差異あり朝鮮の地形は全體一頭の兎が對馬を後にして直立し將に遼東に向ひ飛ばんとする狀あるが東面の永興灣より西南の江華灣に至る假線を以て兎の頭部とし此の頭以南を南朝鮮とし以北を北朝鮮とす南朝鮮は主として半島部にして北朝鮮は重に大陸部な

り、南韓は京畿、江原、忠清、全羅、慶尙の五道を含み、北韓は咸鏡、平安、黃海の三道を抱く、而して此の南北兩部に於て面積稍、相均し。

韓國の造構の山系



南韓の山脈

南朝鮮地盤の骨格たるべきものは數條あり、第一は支那山脈の餘波にして全羅道の蘆嶺山脈、及忠清江原兩道に跨る車嶺山脈にして表朝鮮を西南より東北に斜行するものなり、第二は南北に貫行する太白及小白の聯脈なり、第三は韓山連脈にして南海岸に於て東西走の南岸連脈なりとす。

蘆嶺山脈は忠清、慶尙兩道の秋風嶺を起點とし、西南に斜走し、忠清道の東南隅に於て深林鬱蒼たる三峰嶺となる、京釜鐵道線は此の秋風、三峰兩嶺の中間を踰へ、尙ほ此の脈の北麓に沿ひて錦山(郡)まで達せり、全州府の南に於ける萬馬關は此脈を踰す京釜街道なり、次に本脈名の起る蘆嶺あり、其西南に笠岩及馬峙山あり、木浦灣の北邊に於て海に没すれども、餘勢海中に起伏して、雙子列島及朝鮮群島となり、黒山島まで其餘脈を存せり。

車嶺山脈は前脈の北に當り殆んど前脈と駢走せり、此の脈は江原、慶尙兩道の境上なる烏嶺を経て忠清道に入りて清州府の東南に峙つ車嶺となる、是れ本脈の盟主なり、是より夷陵して群山浦附近に於て西海に没し、餘脈隔音群島となる。以上の兩山脈は南清の廣東、江西、福建、浙江の四省を東東北より南南西に走る支那山系に連續すべきものなり、其理由は支那山系と此兩脈は其岩石に於て略、相

同じく又山脈の方向も同一にして或は背斜し或は向斜し其軸は山脈と符合し加ふるに同方向の斷層ありて小脈を造出する等支那山系との間に於て同一相なり此の兩脈共に地質時代の古きものにして半島古代の骨格を形成する古山脈なるを以て是を南韓の第一期山脈と名づく

南韓の第二期山脈は半島を略南北走する(甲)小白及(乙)太白の二聯脈なり此兩脈は朝鮮半島を東西に限界する要素にして何れも半島を南北走す然れども(甲)は少しく西に傾き(乙)は少しく東を偏走せり兩脈共に南岸の多島海を造る因縁なれども(乙)は東海岸を形成する主因たり

小白聯脈は慶尙忠清の境上に峙つ秋豊嶺を結節點として是より西南及南方に劈出する六個の小脈を總稱す(1)結節點より西南走し全羅を過ぎ長直路の筧島に達す(2)前脈と并走し風峙及獅子山となる(3)起點より徳裕山六十嶺金錢山となり巨文島に延びて陥没す(4)結節點の南より南走して南韓の著名山知異山となり三條の谿谷を作り谿澗頗る幽深なり(5)起點より南走して億窟峯となる(6)聯脈最東の脈にして其東部は直に慶尙の低地に臨むを以て地形風土著しく異にして山東は氣候溫和に物質亦豊なり是れ東部低地は此脈より地盤の東に陥

入して生じたるものにして急段落を成すを以て古より兵要上交通上の一要線たり洛東江の巨流此の線に沿ふて南下せり以上の六脈は花崗岩若しくは其類縁岩を以て組織せられ峻峯危嶺多く土質白砂多く頗る清潔なり
太白聯脈は朝鮮の東海岸に偏し亦之れに沿ふて聯走する六個の小脈の總稱にして火山岩若しくは其類縁岩にして土質泥土にして赫色を帯び全く小白聯脈とは其質を異にせり左に太白聯脈の各脈を擧ぐべし

(1)慶尙道に於て洛東江上流の左岸なる洛東山より起り鎮海普州の間を過ぎ海に入りて欲知島に終る(2)洛東江東半大谷山に起り南走して馬山浦と鎮海の間なる東田岬となり尙ほ延びて巨濟島の西邊に至る(3)慶尙道にありて安東より義城の東を過ぎ金海昌原間の靈峙となり續て天子峯及馬山浦の東側脈となり巨濟島に涉り其中軸を作りて海に没す此の脈の尙ほ北に延びるものは古竹嶺を過ぎ麟蹄(江原道春川府の東方にあり)に於て支那山系の餘波なる車嶺山脈と結合せり(4)第四脈は太白聯脈中の首脈にして東岸山脈の脊梁たるものなり此の脈江原道の直城灣西邊に起り危岩突峯聯列して海に迫り道路峻險なるを以て著はる此脈南走して奇峯峻嶽千態萬様遂に有名なる金剛山となる其最高點はアンムル峙

に於て一千四百米あり山中に寺院多く楓樹茂林をなし楓岳或は一萬二千峯の稱あり韓人は云ふ此山を見ざる人は韓國を知らずと以て其有名なるを知るべし此の脈南走して麟蹄の東を通じ五台山大關嶺を過ぎ太白山を経て釜山附近の九徳山となり朝鮮海峡に盡く(5)江原道に起り雪山を経て後鹽浦角に於て日本海に没す蔚山港は此岬によりて灣を成形するものにして慶州より蔚山に至る低地は本脈と第四脈との縦谷なり此の脈尙は遼南に延びて遂に對馬島に及ぶが如し(6)以上諸脈と稍趣を異にし京城附近の南漢山邊より起り北々東に走りて五中山鐵嶺を起し飛雲嶺より日本海に没す

以上を南韓に於ける第二期山脈とす南韓の第三期山脈は半島の南邊に偏し太小白聯脈を横截して東西走せり此山脈は數條の聯行斷層線に沿ひ地盤次第に切り下げられ南塊は遂に水下に沈み殘塊は或は半島となり或は島嶼となりて南海岸に特有なる岬角灣澳を作り又一種の多島海を成形せり此等岬角島嶼の骨格は第二期山脈と第三期山脈と互に相合して生じたる隆起盤たるに過ぎず此東西行山脈は數條あれども其著しきものは(1)全羅道の光州邊に起り東微北に走るもの(2)綾州の西より東微北に走り釜山鎮に盡くるもの(3)靈岩地方より

前脈と同方向に走り遂に前脈と合するもの(4)海南邑に起り慶尙道の鎮海灣の門口を横過するもの等あり

北韓の山脈

抑々北韓地體の幹線は蒙古鄂爾多斯或は河套の北にある陰山より北京低地の北邊を走り滿洲に入り遼東灣の北に峙つ醫巫閭山に於て斷たれて遼の大平原となり之を踰へて再び盛京の北なる鐵嶺に起り尙ほ東走して不咸山脈即ち通稱長白山脈となる此脈の主峯は即ち白頭山にして二千七百米に聳へ頂上に火口を有し輕石四邊を蔽ふて白し蓋し白頭の名の起る所以なり此脈の南麓には豆滿鴨綠の二大江の背走するありて清韓の境を限る此の兩江南地域は即ち北韓の幹部なり

江南には不咸山脈と殆んど並走する三條の山脈整然として西西南より東々北に駢走して一大臺地を作れり三脈とは即ち(北)江南山脈(中)狄輪嶺脈(南)妙香山脈是なり次に其系統を述べし

(1)江南山脈は豆滿鴨綠兩江の南に蟠まる脈にして走向は西々南より東々北に延び當地方標式的山脈の走向を有せり其起點は鴨綠江畔なる玉江鎮の北にあ

り、是より朔州の南を貫き緩頂嶺(六四〇米)より古站の北なる三稱嶺(八一〇米)に傳ひ江界の南にて尙ほ清峽谷鴨綠江支流の谷に穿たれ牙得山となる咸鏡道に入り芑鷹嶺となり衝天嶺にて鴨綠江の上流に斷たる、尙ほ豆滿江上流地方に延ぶるが如し

(2) 狄・輸・嶺・脈は前脈の南にありて其走向を同じくし其起點は義州の南なる龍川館の龍骨山城及西林鎮にあり、是より摩天山を経て金鑛ある雲山の於自嶺(五一〇米)となり東して車嶺(六三五米)に移り平安道衆山の盟主たる勿移山及崇積山に隆起して鴨綠江と清川江との分水嶺となり、江界街道の險たる突凡の白山及本脈の主山たる狄輸嶺(九七〇米)となり、咸鏡道に入れば益高く長津に於て岩骨を露はす蓮花山となり、又雪梅嶺(一四六〇)の高峯となり、漸次三水に向ひて高さを減じ鴨綠江上流に達す

(3) 妙・香・山・脈は前脈と並走して其南にありて平安咸鏡兩道の北部を串通し、其西部にありては大同、清川兩江の分水梁となり、咸鏡に入りては日本海及鴨綠上流の分水梁となる、本脈の起點は花崗岩たる宣川の劔山にあり直に東走して月林站に於て清川江に斷たれ檀君の祥地にして雄偉なる妙高山に至り是より廣城

峴六〇〇米及著名なる狼林山を経て咸鏡の險たる黃草嶺(一〇九〇米)に達す、是れ即ち咸興、長津間の街道に於て越過する所なり、是より千佛山、赴戰嶺を経て厚致嶺(一四〇〇米)に延び摩天嶺、大元山(一四〇〇米)に達し長白山脈に斷たれて餘勢江陵山に延び遂に漁大津泊地に至りて海に没す

以上三脈を以て北・韓・北部の台地を作れり、此の台地は北に緩斜して南に急斜す而して中部は隆起して分水梁をなし、北に下る水は豆滿鴨綠の二江に排水せられ、南下する水は東部は咸鏡沿岸に朝し、西部の水は清川江に入る

右の如く北方大陸と限るに此の三山脈の台地及兩大江ありて障壁たること恰も伊太利半島がアルプスの脈によりて歐洲大陸と隔離せらるゝに似たり、朝鮮が古來北方種族の南下を禦き免に角獨立せしものは此障壁ありて擁護せし地勢の特相を有せしを以てなり

北韓の幹部は斯の如く大台地を作すを以て南韓の如く平地を存せず、僅に鏡城の北に龍城の野及咸興の野あるのみ、且つ南韓にありては山脈殆んど南北走して地體は西面を表帶とし東を裏帶となしたれども、北韓の山脈は西を南より東東北走するを以て南位は表面にして北位は裏面たり

以上の如く南韓と北韓との兩地體相接合したるものなるを以て其間に介立する兩部縫合の地域あり。此の地域は北韓の南半たるものなり。縫合地域は其地勢に於ては南韓性を享有して東方に降り西方に卑し、即ち此の域の東には南北に走る馬息嶺の高峯ありて一千二十米に聳へ東麓は急斜永興灣に臨み西面は緩に平壤の野に降り然れども其山脈は北韓性にして東西に延ぶもの數條あり、其中黃海道の中軸たる滅惡山脈(綿岳)は長山串より山東半島に餘勢を引けり、其北に慈悲嶺脈ありて黃海道の名岳たる九月山に延ぶ其外小脈縦横に又行し地貌紛雜す、故に水流も屈折頻繁を極め其主なる水系は大同臨津、三江等あり、中にも大同江は深水の合同して西下する大排水道たり、此の南北兩韓性を供へたる縫合地域は殆んど半島の中央を占め全國を統治するに最も形勝の地たるを以て古より覇者は概ね此の地を占めて南北を制せり、其中心たる平壤府が尙ほ繁榮を維持するものは此の地利を享有するによるなり。次に小藤博士は朝鮮地勢の結章として左の如く結論されたり。朝鮮半島面積大略我本州に均しは掌の如き大滿洲に比すれば僅に一指に過ぎざる而已、從來白地圖なりし滿洲は鐵道布設と共に地質調査進行したるも長白

山一帯は清祖發祥の地として清帝用の人參採集の外は人の公に入るを許さず松樹叢鬱し道路なし、此清廷の公園神聖地ある爲めに之に接する韓國の三水、長津、厚昌及慈城の四郡は曾て住民を去らしめ之を廢四郡地方と稱す、此の地方の地理不明は主として人爲に歸するが如し既に掌にして地理地質不詳なる以上は一指たる朝鮮半島の山脈の大勢及構造の歴史を論ずるは大膽なり、矧んや北韓は僅に其一節骨なるに於てをや予は今左に數件を述べて局を了らんとす。北朝鮮北區の山脈は格子形の鐵架の如し南區は鐵網の振れたるが如し、北區は臺地を爲し南區は中山地なり、太白聯脈は南釜山より起り太白山、五臺山及金剛山に互り永興灣の大江島岬より更に興りて咸興と平安の疆界となる狼林山は其高點なり、北邊隆臺の平安道は平均六百米海を抜き西するに従ひ降り獨り勿移山は峻嶮なり、地盤は古岩に屬し花崗石類位の種大數を占む、咸鏡道側は眞の平臺多し高さ千米を平均とす然れども甲山以東の火山臺は千四百米平均の隆臺なり。

吉州より北は會寧に至る間、甲山臺地は落盤し六十里の急斜絶壁を呈す、是れ即ち韓人の稱する長白山にして金剛山脈を除き當國に類を見ず、咸鏡沿海の低地

は吉州鏡城會寧の如く第三紀層に褐炭あり北に延びて六鎮の以北に達す六鎮には其上に低き火山平臺の地貌を作り明川郡にも亦火山低臺あり流水峡谷を穿ち鬼門關の要害爰にあり

北韓は南韓と異なりて森多し材素は松樅及樅を主とす成川郡に既に多少の森林あり勿移山秋楡嶺四近は殊に森深く山人參を産す慈城厚昌及對岸の長白山は大窩集にして鴨綠江の木材を供給す咸鏡道甲山臺地には樅の大森あり豆滿の上流も其續林なり

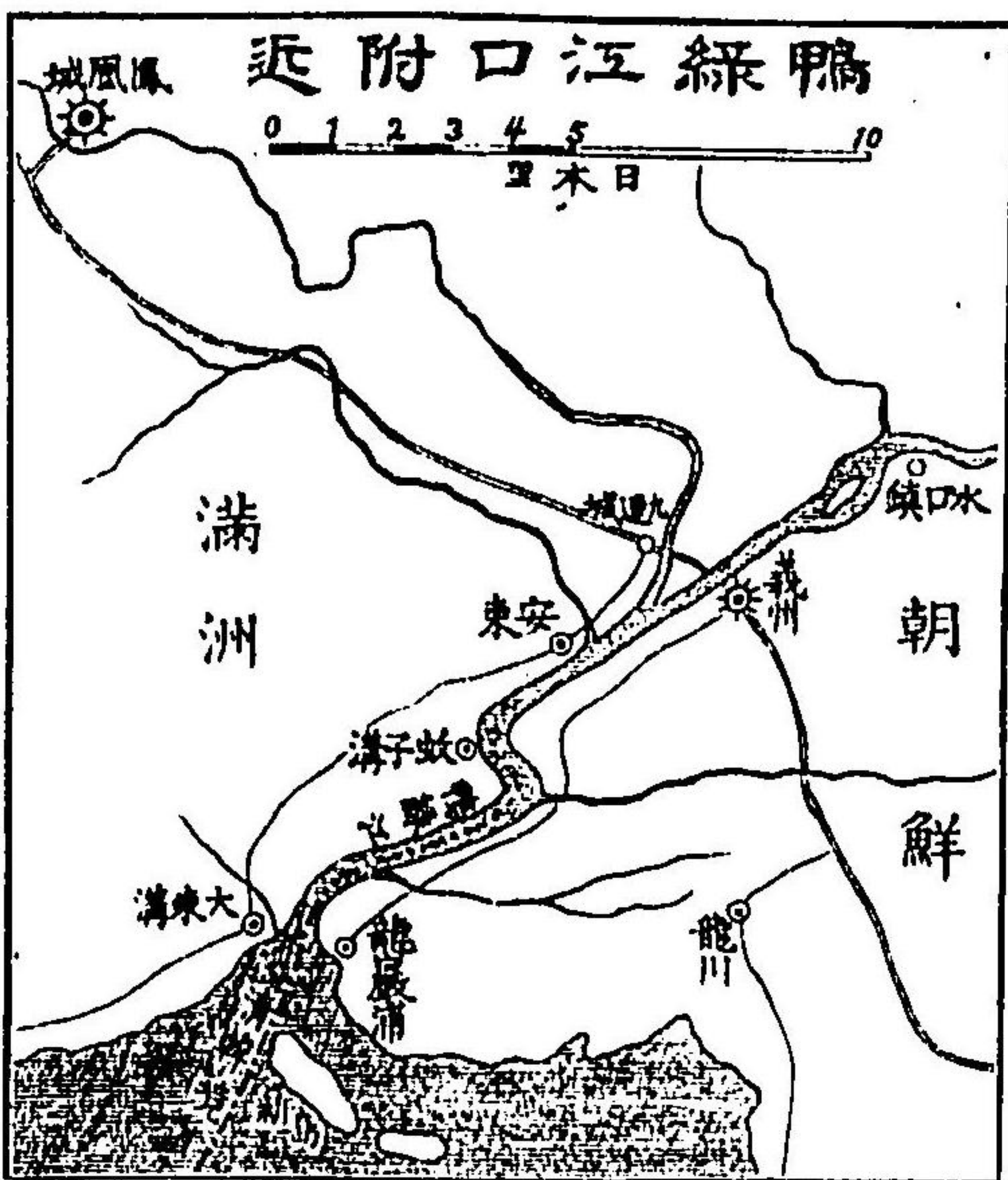
道路は沿岸の大道を除てきは險惡なり當國人は比較的能く路を作れども橋を造らず飛石を以て是に換ゆ後來鐵道線路とも成る可きは元山より鐵嶺を越え金城平康免山を経て平山に於て京義線に合すべきものあり京城義州線は京城より平壤を経て安州迄は平坦なれども清川江及博川江を過ぐれば義州迄は小山多し従て多少の勞あるべし東岸には城津港より北は會寧に臻る間に山勝なるも線路たるへし摩天嶺以南は困難なり北端會寧よりは姜八嶺三百六十米を避くれば慶興迄は平坦なり浦鹽線は之に聯結するならん
然り而して會寧より迂路を取り茂山に溯り豆滿上流を辿り惠山嶺を穿ち鴨綠

江水域に降り衝天嶺下を鑿り帽子山より盛京省通化縣を過ぎ遼東の滿洲鐵道に接す可き豆綠豫定大線路は頗る困難を免れざれども朝鮮半島の政治的死活を司とるもの之に過ぐるものなし此線路所有者は即ち半島の覇者たるべしと水系

朝鮮の地勢は南北に延長する半島國にして高臺其脊梁たる觀あるを以て分水線は此の脊梁高地にありて水は其左右に分配せられ日本海排水界と黃海排水界とに分る但し其南端の水は海峽に排水せらる故に水系は勢長大なる能はず然れども朝鮮の河は其地體構造に基づき地層の走向に沿ふて流るるを以て下流に至れば其峽間大に豁け河身比較的に濶大となり特に其河口は多く廣濶なる峽灣を成形すること稍々英國の河流に似たり是を以て上流の狹隘にして急流なるに似ず下流に至れば頓に緩流となりて水量潤澤可航水路として頗る價値あり只々河流は天然の儘に放任せられ少しも人工的設備なきを以て充分の効用を發揮せざれども若し相當の設計を施されば水系の短小なる割合には其効著大なるべし

鴨綠江 或は Yalu River 是れ韓國最大の河にして又最要の河なり此の巨流ある

が爲めに古來支那領土より區別せらる。源は白頭山の西麓より分水せられ豆満江と背流す。始め南下して咸鏡北道の甲山を経て北流し來る。虛川と三水附近に於て相合して漸く大となり。是より西流して咸鏡道北部の大河なる長津江を容



露役には第十二師團の渡河點たり。其の稍下流なる九連城に近き所に於て鳳凰城附近を流れ來る。驪河を容る。河流は九里島、於赤島、中江臺、黔定島等の沙洲の爲め三派に分る。朝鮮側の一派を通。天河と稱し。幅百米(時により)あり。中央を中江と

れて益々大となり。尙ほ西流して數多の小流を合し。下無路附近より西南流に轉じ。渾河口地名に至りて滿洲より來る渾江の大流と會し。水量大に増し。其下流昌城より以下支那船の航行に堪ゆ。河口よりこゝに至る四十里あり。至江鎮以下は河中。往々沙洲ありて平時は河水數派に分れ。其下流水口鎮は日清役に佐藤支隊の徒涉場にして日

云ひ幅四百米あり。滿洲側を三江。或は上江と云ふ。幅百米あり。此附近は日露役に我が第一軍が敵前に軍橋を架して渡河せし有名の場所なり。此三江は下流の安東縣沙河鎮に至りて相合して一江となる。以下潤大の三角江を成形するを以て汽船及び淺吃水の軍艦湖るを得。日露役に烏海、海門は湖江して安東縣の敵騎を砲撃せり。以下義州龍巖浦等の可泊根據地あり。貿易河としての價值は交通の編に於て鴨綠江水域貿易として述べれば併せ見るを要す。全長百四十里に達す。江の上流は有名なる大森林にして其富殆ど無盡藏と稱せらる。露國は曩に韓廷に迫りて水域森林伐採權を得。露廷を始め露國貴顯に出資者多く大資本を卸して其伐採に従事せしが我國よりの抗議によりて拋棄せざるべからざるの止むを得ざるに至りしを以て。日露開戦の一原因は此れにありしと云ふ程なり。其價值を知るべし。

清川江 此河は平安道の中央を西流して黃海に宗朝す。此流を以て平安の南北兩道の界とす。源は妙高山脈中の高山なる狼林山の西麓に發し。妙高山脈と狄踰嶺山脈との峽間を流れて其排水道となりて西走し。月林站に於て妙高山脈を横ぎりて其南側に出で。是より西南流して安邊と介川の間を過ぐ。日露役に露騎の

逆襲を以て著名なる安州は京義街道に於て本流を渡る所なり、下流は平安北道
 を南下する審江と併流して戰船浦に於て海に入る、河口は西朝鮮灣の最も深入
 せる灣頭にして稍廣き三角江をなす、此河は併行山脈の間を走り或は之を横断
 するを以て流域廣からずと雖ども、河域には稍農耕地を存せり

大同江 黄海排水系の主要なる巨流にして平安南道は普ねく其本支流により
 て灌溉せらる、源は狼林山の南麓より發し、妙香山脈の南側を西南流して三月江
 の名あり、斗介岑、馬項岑の山脈を横断して數多の支流を容れて南に下り平壤の
 平野に出で、緩流となり、大同江又は沮水の名あり、是より屈曲頗る多く、或は南
 に或は西に折れ、黄海道との界となり、鐵島に至り、黄海道より來る支流と會し、鐵
 島を抱き下流は著しく濶大となる、故に汽船も鐵島、鎢地まで溯るを得べし、是よ
 り西流して鎮南浦を過ぎ、漁隱洞に至りて河幅一里余深さ二十尋の大角江とな
 りて黄海に入る、全長七十里あり、斯の如き大江なるを以て古來、韓國の發達に資
 せること尠なからず、平壤は朝鮮に於て最も早く都を選定せられたる地にして、
 古今歴史上に著名なる事蹟を殘せり、其他鐵島の如き鎮南浦の如き漁隱洞の如
 き日清及び日露兩戰役に我軍用となりしこと人の知る所なり、且つ流域の平原

頗る廣く平安道主要の農産地たり、河水は冬期三ヶ月間(十二月、一月、二月)結氷すと雖も
 鐵島以下の三角江は幸に凍合せざるを以て貿易河として頗る價值あり

禮成江 是は黄海道に於て滅惡山脈の車輪嶺に發し、西南流して金川に於て京義
 街道を横ぎり、以下京畿、黄海兩道の境を成して碧瀾渡よりは濶大なる三角江を
 なし、臨津江、漢江の共同河江をなして、黄海南部の農産地を開き、流域
 に近く谷山、金鑛あり

臨津江 是は本源を咸鏡道の馬息嶺に發し、西南流して江原道の北西邊を貫て京
 畿道に入り、馬息嶺山脈より西南に分水せらる、小流を集め漸く大となり、坡州、
 長端の間に於て京義街道を横ぎり、以下濶大となりて漢江と共同河口をなし、江
 華島を抱いて、黄海に注ぐ、京畿北部の灌水道にして豆類を始め農産少なからず、
 朝鮮の古都開城、松都は禮成臨津兩江間の灌域にあり

漢江 是は朝鮮主要の大河にして、現在首府も此の下流畔に建てり、漢江は南北兩
 江ありて南江最も長し、源は太白聯脈の大關嶺西南麓に發し、江原道の山間を屈
 曲して南流し、永春より忠清道に入る、永春は小舟湖江の最上限なり、河口より五
 十里の上流にあり、是より一折一曲西流して忠州を過ぎ、是より稍北に曲り、京畿

道に入り、驪州を過ぎ、起頭院附近に於て北江に會す。北江は源を太白聯脈の鐵嶺（江原成鏡の境）より發し南下して春川に至り、五臺山より發する一支流と合して西南流し、起頭院に於て南江と會す。是より江流大を増し西流して京城の南を過ぎて北に向ひ臨津江の水を合せて益々大となり、河口は例に依り廣潤なる三角江となり、再び禮成江の水を容れ喬桐江華の兩島を抱いて黃海に入る。全長七十里に達す。河口自ら北、中南の三口に分る。北口は禮成江口にして中口は江華、喬桐兩島の間に於て南口は直に濟物浦、仁川港に至るべく、南口には永宗島を始め幾多の小島散在せり。汽船は南口より入りて京城に近き龍山に達すべし。然れども河口岩礁多く又潮流急にして航行頗る困難なり。今や京仁間鐵道通じて河運頗る衰へたり。仁川より京城に至るに永登浦（仁川側）と麻浦（京城側）との間に於て漢江を横れり。

錦江は忠清道第一の河流にして源を全羅慶尙兩道の間なる六十嶺に發し北流して錦山の東を過ぎて忠清道に入る。京釜鐵道は此地に於て江を横ざれり。是より大弧を畫して西南流となり、車嶺山脈の南麓を下る深水を合せ公州を過ぎて南下し、扶餘、江景、群山浦を過ぎて庇仁灣に注ぐ。江畔の灌域は農耕頗る能く行

はれ、豆、綿、米等の産あり。江景には爲め京釜鐵道の支線を導き以下江流によりて群山浦より各地に配送せらる。

榮山江は全羅南道に於て蘆嶺の南際の深水を導き光州、羅州を過ぎて稍大となり木浦に至りて廣潤なる三角江となる。光州、羅州の平野は此江城にして農産少なからず。

蟾津江は朝鮮海峽排水の一にして、蘆嶺山脈の萬馬關より發源し南流して求禮に至り東西走の韓山脈の爲めに妨げられて東に迂曲し、智異山の南と白雲山との峽間を出て東南流し、南海島と左水營半島との中間なる大灣に注ぐ。此江智異山の南を流る、を以て或は岳陽江と稱す。

洛東江は南韓の最大流にして又海峽排水の最大河なり。流系は慶尙道を縦貫し其支流道内に普ねく灌漑最も便あり。慶尙道が農産の富全國に冠たるものは主として此の河流の賜なり。本源は江原道の境に發ゆる太白山の南麓に發し南流して安東を過ぎて西に走り、小白山より發して南下し下る高坪川を合せて以來は南に流る。是れ即ち小白聯脈の以東分離せられ所謂慶尙低原の陥落をなせる其段丘の西側を沿ふて南下するものなり。地勢の編小白聯脈の(6)の條參看。是

より江は洛東山と尙州との間を過ぎ倭館に於て京釜鐵道を横ざり、是より大邱の西、星州の東に下りて大邱平野を灌溉して頗る水量を増し、數多の屈曲をなして營江地名に至りて東西走の韓山脈の爲め東に折れ密陽の南を流れ三浪津に至りて南に曲り、金海府に府りて數個の洲を抱き多太浦に至りて海峡に注ぐ。江口には加徳島を始め島嶼多し、江の全長七十里に餘り、下流は大船を通すべく、百噸の汽船は江口より十二里なる密陽に達し得べく、小舟は平時に於ても四十三里の上流にある尙州の東にある洛東驛まで溯り得べく、此の地に於て河幅三町水深六尺あり、若し水量増大する時は尙ほ十六里の上流にある安東に溯り得べし、故に舟筏の通ずる最上限は約六十里の上流に及ぶを以て航運の便亦全國第一と稱すべし、且つ冬期も氷結の憂なく、江畔の平野は地形南に向つて豁通するを以て溫暖なる海風自在に通じ、韓國中氣候最も溫和なるは此の流域なり、又江を下る貨物は營江より陸揚げして南に進めば直に馬山浦又は鎮海灣頭に出づるに最も捷路なり、何れの點より見るも洛東江畔は韓國中最も有望の地なり、今や鐵道此の江畔に沿ふて敷設せられたれば其開發速なるべし。

豆滿江（或は圖們江）日本海排水の最大なるものにして又東斜面唯一の大江なり。

り源は白頭山の東麓に發して正に鴨綠江と背流す、初め東北走し行く行く長白山脈と江南山脈より分水せらる、無數の深流を集め、茂山に至りて稍大となり、會寧以下滿洲吉林省との境となり、鐘城を經、穩城に至りて朝鮮版圖の最北點を畫し、是より南に曲りて東南流となり、慶源と理春との間に於て滿韓の通路を横ぎる、此邊に至れば河幅既に五町に達し水深十二尺乃至三十尺あり、是より良備地なる慶興を過ぎて以來は露領との境を畫し、造山灣と露領ボシエト灣との間に於て日本海に入る、江口は吐出する堆砂によりて次第に日本海に築き出し、併て三角洲たりし鹿島は既に大陸に連續して半島となり、其端をシスロ角と稱し、即ち右岸の端角たり、江の全長九十里にして江口の幅は七町に及び百噸の汽船は慶興に通じ得べく、韓國東北部の好水路たり。

以上の外韓國には許多の河流あれども皆短小にして記するに足らず、前に列舉せる十一江の内、鴨綠、豆滿の兩江は最も大にして朝鮮の兩大江なり、之れに南韓の大江たる洛東江を加へて朝鮮の三大江とし、尙ほ大同江、漢江を加へて五大江とし、錦江、榮山江を加ふれば朝鮮の七大江となる、何れも流域には農界を開き、河道は貿易河として運搬の便ありて朝鮮の開發に資すること尠なからず。

氣候

朝鮮は山脈の配列によりて氣候は著しく二部に區別せらる(一)は半島南部の山脈を略南北に走る地方にして海風の感化能く山脈の峡谷を通じて深く内部に及ぶ地方にして夏期氣候風を感ずる地方なり(二)は北部の山脈略東西走する地方にして南方の海氣感化を阻隔する地方にして主として北方大陸の氣候に感ぜし寒暑共に強き西伯利性溫帶地方なり而して其分界を北緯三十七度とす慶尙全羅忠清の三道は所謂氣候風帶に屬し氣候稍溫和にして略我西南地方に類すれども寒暑の懸隔は頗る大なり其他の五道は所謂西伯利性溫帶にして略我奥羽及北海道の氣候に似たれども冬寒夏暑の差は甚だ大に且つ頗る激變あり朝鮮の諺に三寒四暖と稱へ寒さ三日なれば暖氣四日ありと稱するも全く氣候の激變を代言するものなり要するに寒暑一般に強く冬期は北帶の寒烈の乾風吹き北部の海面は氷結し豆滿鴨綠の兩江は四五ヶ月間は人馬氷上を往來し漢江も十二月に氷合するに至る夏期に至れば暑氣意外に強し尙ほ寒暑の極端を示せば嚴寒には麥酒醬油氷結して容器を破り酷暑には室内に於て洋蠟彎曲するに至る

夏より秋に亘り西南氣候風の流行する間は南部は強雨頗る多く潦水道路を沮むに至る且つ此間は濕氣多く霧深く沿海は溟濛四塞して航行困難なり雨量は我國の同緯度地に比すれば一般に寡く其配布は東南岸(慶尙江原)に多く西岸は概して少なく北部に至れば漸く缺乏を告ぐ故に降雪は多からざるも冬期は常に積雪を見る南部は降雪頗る稀なり左に各地の氣候觀測表を示すべし

元山		京城											
東北緯 一三九度二〇分		東北緯 一三三度二〇分											
高距三米													
月次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
溫度	三・八	一・三	四・四	一〇・二	一四・八	一九・六	二二・八	二四・五	一九・七	一三・六	六・八	一・一	一〇・九
雨量	三・三	二・〇	二・二	七・七	四・四	二・六	一九・九	一三・三	四・五	四・一	五・〇	一六・〇	計 七・七
平均溫度	三・六	〇・二	六・〇	一三・四	一八・三	二二・七	二六・三	二七・三	二〇・七	一六・四	七・〇	一〇・三	一三・十
最高溫度	一・〇	二・三	一〇・一	一七・三	二二・一	二七・五	三〇・一	三二・六	二五・六	二〇・七	一一・五	四・四	一六・九
最低溫度	一〇・〇	七・八	〇・一	五・六	一〇・〇	一六・四	二二・四	二二・五	一四・二	八・一	一・三	三・二	六・五
溫度較差	九・一	一〇・三	一〇・〇	一六・六	一三・一	一三・一	八・六	九・一	一三・三	一三・六	一〇・三	七・六	一〇・三
雨量	一・九	二・五	二・九	七・〇	五・三	二・九	二六・一	一六・六	五・八	三・八	五・〇	一八・〇	計 九・五

仁川		馬山		釜山	
東北緯 一三二度、五五分		東北緯 一三二度、五五分		東北緯 一三二度、五五分	
高距 一四米七		高距 一四米七		高距 一四米七	
雨量	二五〇	二七〇	二二〇	二五〇	二七〇
平均最高	二二・七	二二・七	二二・七	二二・七	二二・七
平均最低	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七	〇・七
平均	一一・二	一一・二	一一・二	一一・二	一一・二
最高	二六・八	二六・八	二六・八	二六・八	二六・八
最低	一四・九	一四・九	一四・九	一四・九	一四・九
雨日	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二	一〇二
雪日	三	三	三	三	三
合計	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五

但し此温度ハ午前八時ノ平均トス
八月 最高温 三二・五
一月 最低温 一六・二

以上各地に於ける氣候を本邦に比較せんに先づ平均温度に就ては元山は我が山形に類す然れども冬の寒氣山形は一月(一七)と夏の暑氣山形は八月(二四)とは山形よりも酷烈にして一月は壽都八月は奥の温度に似たり京城は我が水

戸に同じく而して寒暑の酷烈なるは遙に水戸に超へ一月は壽都八月は熊本の温度に比すべし仁川の平均温度は福島に比すべく而して一月は殆んど青森八月は銚子に似たり馬山の平均温度は多度津に同じく一月は名古屋八月は那覇の温度に似たり釜山の平均温度は廣島高知に等しく一月は岐阜八月は新潟に類す故に朝鮮の平均温度は我が奥羽乃至中國の温度に等しと雖ども冬は頗る寒く其温度は北海道乃至東海道の北部に類す而して夏季の温度は中國乃至琉球に似たり即ち寒暑我に比すれば懸隔せり是れ半島地なれども亞細亞大陸の寒暑酷烈地に近きを以てなり
雨量は我邦に比すれば一般に少なく多き地京城の九一五も我が最寡雨地方たる北海道の極北部の量に等し其他の地方は我が邦に於ては斯る寡雨の地なし雨雪日數も極めて少なし故に朝鮮の農耕上の憂は旱魃にあり而して雨量の多きは七八月なり

生産物

植物産 朝鮮の位地は亞細亞の南部森林帶に屬するを以て樹木の發生は良好なるべき所なり故に其植物景は大概我國に同じく南部は暖帶林に屬す即ち其

限界は同温線十度以南にして西岸は錦江口より南方に灣曲してU字形をなして内地を包み東岸は海岸に沿ふて元山の南に至る此の一線以南は暖帯林にして此帯中には黒松、櫟を生じ、其他の常緑闊葉樹を生ずべしと雖ども、奈何にせん朝鮮の人口多き所は業已に盤伐盛に行はれて喬樹は殆ど全く伐り盡くして其跡を留めず、故に建築燃料共に甚だ缺乏して僅に草を以て燃料に充つるに至る。唯農業植物は暖帯に固有なる米、麥、豆類、綿、煙草能く生茂す、然れども茶、甘蔗は之を見ず

北半同温線十度以北に至れば植物景は所謂温帯林の特相を現はし、山毛櫸、樅等漸く多く北邊に至れば人口も漸く減するを以て柏、松、落葉松、白檜、楊、槭等の喬樹密林を成す所ありて南部とは大に風景を異にせり、菓樹には梨、桃、農用植物には麥、粟、豆、蕎麥、稗、人參等を産せり

動物産 朝鮮は大陸の一端にして移住自在なるを以て動物は我島國よりも種類多し、野獸は我國に住む種類の外虎、豹、棲み熊は頭に白斑ある朝鮮熊あり、家畜も我國に固有ならざる驢、騾、馬、牛、犬も亦多し、鳥は鳧、鴨、鷄、其他本邦に棲むものは盡く棲み又本邦には稀なる鶴、鸛、鷹、鷂等多し

魚類は沿海に頗る多く、鯛、鱈、海鼠、鮑等最も多く、特に日本海には鯨多く咸鏡道大海には大口魚に類する明太魚を産す、朝鮮近海の漁業に従事するは殆ど悉く日本人にして日本船毎年二千隻漁夫一萬人に下らず一隻の所得二百圓乃至四千元に至る

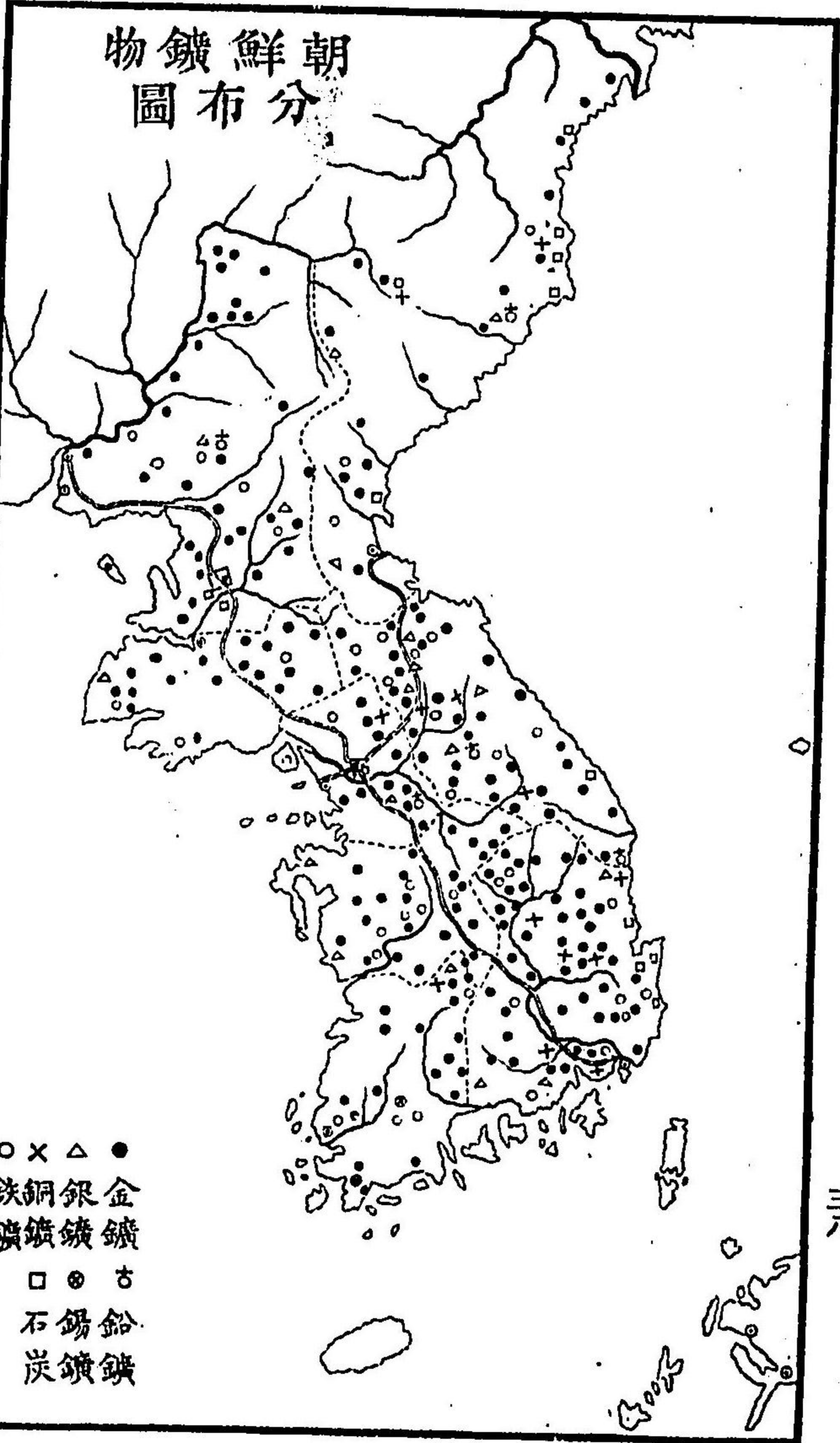
鑛物産 鑛物の富は頗る豊なりと稱すれども採掘方法拙劣なるを以て何れも産額多からず、今産鑛の著はれたるは砂金、銅、鐵、石炭なり、其他水銀、鉛も埋藏するが如し

金は咸鏡平安二道に多く、花崗岩及片麻岩中の石英脈又は之を被ふカムブリア系に産し、又砂金となりて産す、砂金は米粒數十斤に達するものあり、著名の金産地は雲山、永興、端川、咸鏡道、昌厚、稷山、殷山、柴里院、金城等にして、其外百六十鑛あり

鐵鑛は頗る多く處々に産するも掘採未だ盛ならず、著名地の産地は价川、龜城、文川、北青、鐵峴、洪原、慶州、江華島、殷栗、瑞興等なり

銅は頗る乏しく、只甲山に豊良なるものあり、又端川江界にも銅鑛あり

石炭は大同江、及清川江沿岸、吉州、慶州に産し、無煙炭なれども其質不良なり、而



して朝鮮は第三紀の生成岩層に乏しきを以て日本炭とは異なり又燃料乏しきを以て精練上甚だ不便なり

住民

種族 本邦よりの汽船先づ釜山埠頭に着すれば最初に旅客の眼に著くものは白衣韓人の個々群を成し或は長管の烟を喫し或は土上に蹲踞し喃喃々として蕞爾たるを視ん次に仔細に彼等の容貌骨格を視來れば殆ど我邦に異なざるを疑ふべし故に直に起るは彼等の祖先は曾て吾々の祖先と同一の天幕中に棲みし時代はなかりしやの疑問なり

朝鮮の種族に就ては我日本種と同じく學者間に幾多の疑問あり或は朝鮮人を以て蒙古種の支派となすものあり或はキーン W. H. Keane 氏ブリンントン Brinton 氏の如く西伯利種と同族となすものあり或は元と印度種にして緬甸を経て來住したる者と認むるものあり朝鮮の原住種族は果して何種に屬すべきや明ならずと雖ども朝鮮は元來受動的邦國にして人種も幾千年來諸方面より殖民移住したるものにして現今に於ては血脈の混合頗る甚だしく到底單一の種族と見るを得ず今各種に就て概要を述ぶへし

扶餘族は曾て半島に於て最も優勢を占めたる種族なり此種三千年前滿洲より來住して咸鏡道及平安道に移り遂に高句麗國を建て、臨津禮成兩江の間なる開城松都に都し其後此種の後裔益繁殖して黃海京畿忠清の各道に及び京畿道

に於て百濟を建て廣州に都し、種族愈々繁榮して南は全羅に及び、北は咸鏡を併せ、遼地方にも延びたり、故に半島の大部は此種の領有する所となれり、而して此種の文物頗る發達して、朝鮮後來の中心となり、從て半島種族の骨子となれり、然るに此種は唐の爲めに滅され、或は日本に逃れ、或は支那の江淮の間に移されたる者も多かりしが、尙ほ亡國民として半島に殘留せしものも頗る多かりし。扶餘種の殖民前半島には已に各種の原住民ありて土着したり、即ち穢貊或は夷貊(エミヤク)は其一種にして、江原道附近は其原住地なりしが如し、穢貊は一種にあらずして穢(エ)と貊(ミヤク)此種燕の衛滿の子孫の爲めに其領土を蠶食せられ、遂に遼東に追はれたり、此種は愚直にして農耕を能くし、奴隸として調法なりしを以て處々に輸出されたりと云ふ。

沃沮種(ヨクソ)も亦土着民の一種にして、主として咸鏡道に住めり、之を東沃沮と云ひ、今の咸興府は其中心なり、滿洲に住めるを北沃沮と稱したり、沃沮は言語風俗略扶餘に同じく、骨格違くして忍耐力に富みしと云ふ、或は扶餘の一派ならんとも云ふ、其外數多の土着民の小種族ありしと云ふ。然るに支那戰國の末より前漢の初に至り、大に漢人種の殖民を受けたり、周の世

に箕子は數多の一族郎黨を引率して遼東に移り、次第に東南侵して其子孫遂に王儉城(今の平壤府)に都し、大に勢力を振ひたり、秦代に至りて國內大工事の苦役に堪へず、之を避けて半島に逃れ來りしもの甚だ多く、彼等は山東山嶺より海を渡りて全羅に來り、遂に慶尙道の洛東江上流に其居を占め、秦韓即ち辰韓を建てたり、又南浦地方より山東角に移れる所謂齊東野人なるものありて、平安道に渡り、遂に慶尙道に移りて、卞韓即ち辨韓を建てたり。

燕人衛滿、遼東より鴨綠江を渡り來り、箕子の子孫を逐ふて平安道を領し、遂に京畿、江原、黃海、咸鏡の諸道をも占領したり、是に於て箕子の裔は海を航して全羅道の益山に上陸し、原住の馬韓族を滅して、更に馬韓を建てたり、其他北方種族の機會あれば境を越へて侵入したること、少なからざりし、即ち高麗の代には契丹入寇して、遂に雜居し、又蒙古兵を蒙ること、前後二十年の間に、大に其血脈風俗を混せり、今の婦人の服裝及び小兒の頭髮の風等は、蒙古の遺風なりと云ふ、其他靺鞨、女真等をも侵入したり。

日本も一衣帶を隔てたる朝鮮には、亦日本人種を混せざる筈なし、太古兩國人の來往は逸たりと雖も、新羅建國、我崇神天皇の朝以前既に我が日本人が半島南

部に殖民して相當の勢力を有したる事蹟あり、新羅國第一代の王赫居世の如きは日本の名族なりしならんと云ひ、又第四代の昔脱解も日本の肥後或は丹波の人なりとの説あり

當時半島南部に二個の邦國あり今の慶尙道東部を占領し慶州を首府とせるは新羅國にして慶尙道の南部に割據して金海府を首府とせるものは加羅國なり、此兩國は最も我國と親密なる關係を有したり、新羅國は日本人を基礎として建たる國にして、後世大に隆興して版圖を擴め遂に半島大半を占領したり、高麗の王朝を経て現李朝に至る迄で連綿として續ける名門は多く新羅より出たり、即ち新羅の王統は朴、金、昔の三姓にして、其内朴氏は卵生と稱して其出所明ならざれども、金、昔の兩姓は確に日本の出雲派種族の後裔なるべしと云ふ、新羅と日本との交通船は迎日灣より鬱陵島(松島)を目標とし、隱岐を望みて出雲の松江灣に至りしものなり

加羅國は洛東江畔に於ける出雲派の殖民地にして其建てたる國なり、加羅には金、任、許の三名姓ありて同じく日本種族の後裔なり、加羅と日本との交通線は洛東江口より船を發し對馬(即ち津島)を寄港所とし山陰道の西端に至りしものなり

り、此線路によりて兩地の交通は頻繁に行はれ盛に殖民したりと云ふ

神巧皇后に至り半島南部を征服し給ひ任、那、加羅國の位置の金海に日本府を置かれて統治し給ひしを以て日本人の來往を繁かりき、降て高麗の代に至り彼の倭寇は到る處の海岸を侵し百八十年間の久しきに亘れり、此間に我種族の血脈及風俗習慣を輸入せしことも少なからざりき

韓人の容貌骨骼は前にも述べたるが如く、日本人と殆ど差別を見ず、現に東京市中幾多の朝鮮學生が洋服を着け帽を戴く者を見れば行人は決して其朝鮮人たることを識別する者なし、只一般に容貌閑雅にして絶へて森嚴の風なし、顔面は卵形に近く所謂日本の上方型に似たり、日本の或る地方の如く顔骨秀でたる者少なく、又髭鬚は一般に少なし、女子は榮養充分にして體格逞しく姿勢甚だ正し、地方に就て云へば咸鏡道人は鼻低く平安道人は身長稍大なりと云ふ

人口 朝鮮は人口調査不完全なるを以て人口に對する詳細なる材料なし、日清戰役後は其影響によりて稍信憑すべき調査をなすに至れり、其調査によれば全國の人口は一、千、五、十、三、萬にして男、五、百、三、十、一、萬、女、五、百、二、十、二、萬あり、一方里に對する平均密度は七、百、八、十、六人なれば我邦よりも稀疎にして我邦平均密度の

半に及ばず、而して住民は南端は稍密にして西部之に次ぎ、東北部最も稀疎なり、戸数は二百三十六萬戸なれば、一戸平均四人四六に當り、家族の数は我邦の五人〇六に比して少なく、又男女の差は僅に九萬の男性超過なれば、殆ど百分の一の男性超過にして我國よりも其差少なり、人口の増殖率は詳ならざれども、種々の調査によれば、近來は増加せざるのみならず、漸次減退の傾向あるが如し、斯く人口上不詳の結果あるものは其原因二種あり、(一)は生活の程度の低きこと、即ち懶怠より生ずる貧困及び不潔より來る病、(二)は政治の不良、即ち收税法の不完全にして官吏の賄賂を貪るより、家々相合して戸數税を免かれんとする結果によると云ふ、各道の明治三十三年末調査の人口戸數を擧ぐれば、左の如し、表中の數は戸、人とともに前に擧げたる數よりも大に小なく、是れ必ず調査漏によるならんも暫く之を掲ぐ

地方別	光武六年度(明治卅五年)戸口		光武二年度(明治卅一年)戸口		五十年前調査戸數
	戸數	人口	戸數	人口	
京城	一六六、七六八	六五三、六五六	一七二、二二四	四二、四五四	一九六、八九八
漢城府	四二、九三六	一、九七二、二二四	四二、四五四	一、九六八、八九八	一六六、九二五
忠清北道	七五、九〇〇	二、九〇、五一八	七三、八三四	二、七五、八八二	二一九、七六八
同 南 道	一三三、一一三	四、五〇、六八〇	一三三、一一三	四、三三、六〇八	
全羅北道	一〇七、二一八	四、一八、八二一	一〇七、一四六	三、八六、一三三	二八六、五九八
同 南 道	一八、一七三	四、五、〇五四	一八、一三九	四、三、七六〇	
慶尙北道	一六〇、九五九	六、〇六、五三六	一五八、八七九	五、〇九、六〇二	
同 南 道	一三〇、九三二	四、九、一八七	一三〇、二七四	四、八、三六六	三八八、六二九
黃海道	九四、三九五	三、七三、〇八三	九三、三二二	三、六、九〇二	一一六、一五一
平安北道	九六、五五九	四、〇九、九九七	九五、五八三	三、九、九七三	
同 南 道	一〇二、九九八	四、〇三、二九二	一〇一、二一一	三、九、〇二九	二一八、〇一九
江原道	八〇、六七七	二、八五、六九五	七九、八三七	二、七、七三六	六、七、〇二二
咸鏡北道	四四、三六四	二、八八、〇三八	四四、五九一	二、〇五、〇二八	
同 南 道	五九、八二四	四、五〇、〇三五	五九、二七四	四、三、七〇九	九三、五八三
總計	一、四〇、五一六	五、七、八、〇六六	一、三九、七、六三〇	五、六、〇、八、二五一	一、五、五、六、六、七五

以上の外、在韓日本人の戸數三千五百餘、人口三萬九千六百ありて、在韓外國人總數の八割二分を占め、年々増加の勢なり

又在韓清國人の戸數は二百餘人口五千六百五十にして在韓外國人の一割五分餘に當る、其他は米人二百二十五、英人百五十八、佛人百三十九、獨人四十四、露人六十六等にして其他は僅少なり

注意すべきは近來、我が國民の半島に於ける著しき播殖なり、各港各市に於ける我が專管租界に増加する人口は我國勢が膨脹の趨勢を示すものにして、京釜鐵道工事により線路附近には日本の新村落建設せられつゝ、あり、此の人口増加の原因は韓半島に於ける我國地位の強大なることを世界に認識せられたると共に我國自らも其強大なる地歩を確有したることを自覺したること及び我國が韓廷より獲得したる權利が事實となり現はれつゝ、あると、韓海漁業の著しく發達し恰も我領海的經營の確立したると、鐵道經營に伴ふ商業及農産の企圖大に勃興したる等によれり、

朝鮮人の間には古來の階級制。今尙は嚴なり其階級は兩班、常漢、奴婢にして社會の上流に立つ豪族を兩班(ヤンバン)と稱す、兩班は東班、西班に別れ、東班は文官たるべき家格にして、西班は武格たるべき家格なり、兩班の子孫は生れながらにして文武官たるべき資格を有し、社會の上位に居り遊悠徒食して贅澤を極め一般

人民に衣食を供給せしむるの特權ある一種不思議の種族なり、當時兩班中にても金、崔、朴、李、鄭、安の六姓及び閔、趙の二氏は政治上及び社會上最も權勢あり、兩班は各道に亘りて住めども忠清道最も多く、全道人口の半數を占め、京畿道之に亞ぎ、漢城には人口二十分の一の兩班ありと云ふ、故に此の兩道には高位高祿の輩多く、咸鏡道には兩班最も少しと云ふ

常漢(シヨハン)は農工商等の家にして國民の大多數を占む、此族は官吏たるべき資格なく、近來此の制を廢したれども實行せられず、只兩班の壓制を受けて唯命を奉じ甚だ卑屈にして國家の事與り知るなく、隨つて愛國思想等あることなし、奴婢は公賤、私賤の二種あり、公賤は官の使用する驛夫、官奴の類にして、私賤は兩班以下に隸する奴婢にして、其身を買收されたる者にして、終身其主人に使役せられ、其子孫も亦私賤に陥り同じく使役せられて、其一生を終る隣むべき種族なり、以上各階級の別甚だ嚴にして互に結婚せず、又交際せず、全く別種として待遇せらる、且つ戚族の關係甚だ親密にして同姓相集まりて一族となり、窮戚互に相救ふの義務あり、例へば族中の一家榮達すれば一族相集まりて寄食するが如き風あり、結婚交際は専ら同姓間に行はる、故に朝鮮の姓は頗る少なく、僅に百四五十

に過ぎず

朝鮮人の國家思想は一般に薄弱なるものにして愛國心の如きは甚だ缺乏せり、古より強國の間に介立するを以て勢自國を措いて他國に頼るの心あり、事大主義と稱して大國に事ふるの風、痲疾となり、勢力盛なる國の補助によりて立たんとするの依頼心多く、常に強國の鼻息を窺へり、此の風個人の間にも行はれ巧に人意を迎へ言語辭令の巧なるは頗る驚くべきものあり

言語は日本語と同じく動詞助動詞を名詞の下に置き、形容詞は必ず名詞の上にあるもの多し、あり、故に滿洲蒙古土耳其芬蘭の語と同じ、朝鮮の語原は新羅にありと云ふ、新羅は日本人の殖民地にして今日も名詞の中には日本と全く同じく或は頗る似たるもの多し

風俗 朝鮮の風俗は幾多の變遷を経たり、中古支那の文物輸入によりて唐宋の風に據り、或は蒙古の侵入によりて其の風に化せられ、又近古に至りては支那崇拜によりて支那風となれり、然れども其古俗に就ては我が奈良朝風と大差を見す、衣服は常漢以下は四季を通じて木綿製の白衣を纏ひ洗濯能く届いて頗る清潔



韓國地理

なり、兩班にあらざれば有色の絹衣を着くるを得ず、其制男子は支那の古製にして、女子は筒袖なり、男子は頭に馬毛製の綠廣き帽子を戴き、足には男女共織物製の靴を穿つ、食物は米或は豆飯を食し、魚類牛、犬蔬菜を副食物とし、甚だ葷類を好み、又甚だ烟草を好み、長さ三尺に及ぶ烟管は止むを得ざる場合の外終日手を離さず、朝鮮は飲料水甚だ乏しきを以て悪水を飲用するは他國人の驚く所なり、家屋は多く泥土、石片を以て四壁を疊み、其高さ大概五六尺、藁を以

て之を被ひ二三の窓を設く家の大き三四坪を普通とし之を客房内房釜房に分つ故に一室僅に二三疊に過ぎず内房は婦女の閉居する所にして決して他人の入るを許さず釜房は庖厨にして竈の炊火は各房の床下に通じて床を蔽ふ板石を温め冬期温を取るの製とす之を温突と云ふ然れども夏期尙ほ温突の製なるを以て矮屋の暑氣當るべからず要するに朝鮮の家屋は冬寒を凌ぐを主とするの製なり但し貴人の家又は官舎は日本の奈良朝式にして頗る寺院に似たり室内室外を問はず一般に不潔なるは一見驚く所なり朝鮮人は衣服の清潔を貴ぶの外飲食物家屋の不潔は毫も意に介せざるの人民なり

朝鮮人は早婚の通弊あり男女十四五歳に至れば既に婚す而して婦は夫より二三歳を長ずるを常とす男の婦を娶れば書房と稱し髪を束ねて冠を戴き大人に列す其未婚者は總角と稱して甚だ輕侮せらる故に争ふて早婚の弊に陥る然れども婚禮には過分の費用を要するを以て貧者は勢結婚するを得ず又朝鮮人は甚だ祖先及び墳墓を重んじ墳墓を汚すものあれば死を以て争ふ然れども其墳墓は平人は只一坏の土にして貴人にあらざれば石碑を建つるを許さず

教育 韓人の教育とは支那の書を讀み支那の字を寫すに過ぎず兒童の句讀を

習ふものは千字文童蒙先習小學等の類を暗誦し稍進んで四書五經又は支那の歴史書類を習讀す而して上流の子弟は教師を家に聘し中流の子弟は我が昔の寺小屋風の塾に通學す下流の子弟は全く學ばず此等誦讀の目的は科擧に應ずるにあるを以て進んでは詩賦文章を講習するを以て従來朝鮮の教育法とす其他の學科に至りては全く顧みざるを以て教育なしと云ふも可なり朝鮮には諺文と稱して綴り方頗る巧なる我が假名に似たる文字あり此の文字は母音十一子音十四を結合して百五十四音となす又我假名の如く漢字の間に交へ綴ることを得るなり諺文は寧ろ一般韓人の思想を僅に現はす具にして婦女下民も諺文は略解すれども卑んで正式には行はれず左に諺文及其組合せ方並に文例を示す

		子音	母音	
ㄱ	나	가	아	카
다	나	가	아	카
다	나	가	아	카
더	너	거	어	커
더	너	거	어	커
도	노	고	오	코
도	노	고	오	코
두	누	구	우	쿠
두	누	구	우	쿠
드	누	구	우	쿠
드	누	구	우	쿠
디	니	기	이	키
디	니	기	이	키
디	니	기	이	키

교	에	은	우	하	오	스	스	남	모	리
파	차	타	카	하	아	자	사	바	마	라
파	차	타	카	하	야	자	샤	바	마	라
피	치	티	키	히	어	저	서	버	머	러
피	치	티	키	히	여	저	셔	벼	며	려
포	초	토	코	호	오	조	소	보	모	로
표	초	토	코	호	요	조	쇼	보	묘	료
푸	추	투	쿠	후	우	주	수	부	무	루
퓨	추	투	쿠	후	유	주	슈	부	뮤	류
프	츠	트	크	흐	으	즈	스	브	므	르
피	치	티	키	히	이	지	시	비	미	리
포	초	토	코	호	으	즈	스	브	므	르

又漢字と諺文とを交へ綴れる恰も我假名交り文の如く綴れる文例左の如し本

願寺布教旨趣書

眞宗說教

大低이眞宗教法中에 두가지이되第一은眞諦門이요第二는俗諦門이라고
眞諦門이란거슨다문阿彌陀如來님이허신말씀을김피一心中에밧고疑心
업시念佛하는거시요俗諦門은今上에잇는똥안은三綱五倫之道를隨順할
거시라우리이佛道는貴國의잇는佛法과드르니末世사릉根機에相當하야
戒行을아나가지고도極樂世界에男女업시往生하는佛法이라엇던고하니
밧그로는나라命수를爲重하야님군의게는忠誠하고父母의는孝養하고夫
婦의는相親하고兄弟스랑하야朋友의는和順하고親戚의는和意하고隣里
郷洞의和親을至極키하야바로人道를行하고안으로는내심으로부레되는
種子를시무지아니하고또호내惡한口음을버리지도안고다문農事하랴만
農事하고山獵노릇하랴면山獵하고海夫노릇슬하랴면海夫하고이런노릇
만하다가空然朝夕으로罪만짓고잇놈을斗護하야주마허신阿彌陀佛本願
말씀이계시니듯고반갑다깃겁다諸佛菩薩이버리신우리等を斗護하야주

마히신말슴을갑피心中의밋고두마음업시호生覺信心이眞實하면반드시
 阿彌陀如來斗護를니남으리라이후의는엇단말음을머고念佛헐고하니往
 生極樂은그信力으로斗護를니부니그恩惠를갑기를爲하야今世上에이실
 동안은念佛하야佛供을받이요이를眞宗의念佛行者라하오이런故로조심
 어도렵지아는일이니모든사람들은음은生覺을내야조흔因緣을낫지마옵
 쇼셔

이러헌우리眞宗에大意를解說히셔모든사람의게주논거슨다름아니라
 우흐로는닌구부터아리는萬民에니르러佛法을들니고함기極樂世界에
 가고져하오니렛케말을하야도아지못헌사람은우리說敎場을츠자와셔
 이세이듯고아옵쇼셔

辛巳五月 大日本 眞宗 大谷派 本願寺

近來は韓國開發の運につれて教育法も大に面目を改めんとしつ、あり先づ小
 學。は全國の要地に凡そ四十校も設置せらるべき計畫にて既に設置したるも

のもあり、其外京城には中學校、漢城師範學校、外國語學校、武官學校、醫學校、商工學
 校、礦務學校、宗人學校、貴族子弟教育所等の官立諸學校あり、特に外國語學校は最
 も盛大にして日露英佛獨漢の諸語を教授す、韓人は語學の材能に長じ其進歩甚
 だ速なり、其他外國人の設立に係る學校は頗る多く、日露戰役前には露人は韓人
 撫附の一方として學校を設け生徒を優待したり、日本人の設立に係る學校は
 全羅道に三南學堂及本願寺の實業學校、慶尙道に釜山學院、密陽開昌校、大邱達成
 學校、忠清道に韓南學堂、京畿道に安城學校、其他日語學校は處々に設置せらる我
 が帝國教育會に於ては韓國教育を調査し大に施設する所あらんとす
 新聞紙は始め日本人の手に成れる漢城旬報を嚆矢とし、現今京城に漢城新報あ
 り、釜山に朝鮮時報、仁川に朝鮮新報、木浦に木浦新報あり、又韓人の手に成る新聞
 は京城に皇城新聞及び帝國新聞の二種あるのみ、又圖書の發刊の如きは殆ど皆
 無の有様にて偶之あるも幼稚にして見るに堪へず
 宗教。世界宗教の分布圖に於ては朝鮮は佛敎國の範圍に入れども、現時朝鮮に
 於て佛敎の行はれざるは事實にして佛敎は社會上何等の勢力をも有せず、又何
 等の形態をも存せず、只朝鮮旅行中眼に著くものは處々の山上又は谿谷に壯大

なる廢寺、高壯なる大伽藍の廢頽に委するものあるを散見して此國にも往昔は佛教の盛大なりし時代もありし事を想像せしむるに過ぎず、又山間の廢寺を訪へば乞兒に類せる貧僧が錢を乞ふを見る、寺院には經文あるにあらず、佛具あるにあらず、僧侶は人の冥福をも祈るものにあらず、僅に小田を耕し或は魚鳥を獵して其生を送るのみ、故に今日は朝鮮には佛教存せずと云ふも可なり、然れども歴史の示す所によれば、古は佛教甚だ隆盛にして我國に佛像經文を傳へたるは百濟國なり、又此國の諸王も或は佛に歸して僧となり、王妃も亦尼となる者あり、或は國內に令して奉佛創寺を以て國憲となせし王あり、然るに現李朝に迫んで佛教を以て邦家に害あるものとなし、大に佛教を排斥し、僧侶は人間の最下等のものとなして一切城内に入るを禁止し、又僧侶を以て葬送の司導者となすことを禁せられたり、是より佛教は大に衰退し僧侶も亦存在を許さざる有様となれり、

儒教は朝鮮人士の理想たるが如しと雖ども、其道義は何等の感化をも朝鮮人に與へず、朝鮮人は孔孟の經書を講習すれども只科擧及第の豫備に空誦するのみにして、決して其道徳の主義を考究するにあらず、況んや實踐をや故に韓人は儒

教主義にもあらずと言ふべし

基督教の入韓せしは一千七百九十一年佛國宣教師の朝鮮に入りしを第一とすと云ふ、而して一時は宮廷に於ても西教を奉じ上流者中にも信徒少なからざりしと云ふ、現今も宣教師等の熱心なる布教によりて信徒國內の各所に亘りて多く、次第に増加するの傾向あり、且つ外國宣教師は各地に於ける有力者なるを以て、韓人は其力に藉りて種々の利便を得んとするの一方、便として籍を教徒に列するものも少なからずと云ふ

今日朝鮮人の最も多く歸依するものは固陋の鬼神説にして、山嶽河海其他奇異獸類蟲類等を本尊とし巫女なるものありて神の宣託をなし、人の吉凶禍福等を豫言するを以て唯一の信仰とし、上下皆之に歸依せり、故に巫女の勢力あるものは勢政治上にも容喙するに至ると云ふ、其他儒佛道の三教を混同せる東學黨の如き又社會平等主義を唱ふる活貧黨の如きもの勢力ありしを見れば朝鮮の宗教界も想像し得らるべし

交通

朝鮮の交通は未開國の常として交通機關の未整備なると、旅舎の設け無きが爲

め旅行は甚だ困難なり。道路も大幹線二三條の外は殆ど道路と名くべきものなし。道路は破壊に任せ會て修繕を加へたることなきを以て、凸凹崩壊殆ど通じ難き所多し。且つ河流に橋梁を架せず小川は徒涉し大河は舟渡しとす。故に河水漲る時は渡るべからざること我が昔日の大井河に異ならず。川身も堤防等全く之を設けず、自然の崩壊横流に任せ、修築浚渫等をなさざるを以て、大雨に遭へば河水氾濫して道路田圃を浸し交通全く杜塞す。若し霖霖の候に際すれば數週日に亘りて交通往來杜塞するの不便あり、又旅舎の設備は殆ど之を缺ぎ旅客一夜の勞を慰むべき所なし。只處々に酒幕チムカと稱して、魚酒イサ魚食を販く店あり、旅客は之れに就きて酒食を求め、且つ一夜の宿を請ふ。然れども倭屋枕席の餘地なく、又寢具なきを以て僅に雨露を凌ぐに過ぎず。加るに途中は劫賊往々出沒して旅行安全ならず。

朝鮮の旅行は徒歩の外馬ウマ背に依るを專とす。朝鮮馬は體格小なれども能く勞に堪へ礫石多き惡路を彼の小き蹄にて辿り、能く長途の旅に堪ゆ。且つ馬は大概何地にても供給に堪へ頗る廉直なり。然れども馬背旅客の注意すべきは、馬主は會て馬に浴を與へざるを以て、河流を徒涉するの際、中流に至れば馬は旅客を乗せ

たる儘急に水中に横はりて旅客を河流に投ぎ不意の滑稽を演ずることあり。馬の外都會地には橋あり然れども甚だ遅々たり。又開港場には人力車の便ある所あり。朝鮮草鞋は其製法礫多き惡路に使用するに適し頗る便利なり。○朝鮮には河流少なからざれども修繕を加へざるを以て舟筏を通ずる所なく。二三大河の下流を除く外殆ど舟行に堪ゆる所なし。(水系參看)

道路の幹線は京城を中心として數條あり。第一線は京釜街道にして又數條あり。(一)即ち京城より東南に廣州を経て忠清道に入り、忠州を經、鳥嶺の嶮を踰へて慶尙道に入り、尙州、大邱、密陽、東萊を經て釜山に達する。九十一里三十二町(里程は皆本邦制に改算せり以下同じ)なり。此線は途中忠州の南に於て鳥嶺の嶮あれども比較的難路少し。京釜鐵道も釜山より大邱までは略、此線に沿へり。(二)京城より前線の西に沿ふて陽智竹山を經て忠清道に入り、清州、永同、星州、靈山、金海を經て釜山に達するもの。扶桑驛より永同までは京釜鐵道は此線に沿へり。(三)第一線の忠州より東南に岐れて清風より小白山の西に沿ふて慶尙道の安東に出で、義城、慶州、蔚山、機張を經て東萊に於て第一線と會するものあり。又南海岸(即ち朝鮮海峽)に達するに京順街道の一線あり。京城より直に南して果

川水原振威を経て、忠清道の安城渡、成歡驛等の古戰場を経て公州に達し、恩津より全羅道に入りて礪山、金州、南原、求禮を経て、南海岸の順天に達する六十八里、十六町間なり。此線は南海岸に通ずる直徑的路にして南方より京城に至るには途中より此線に據るもの多く、京釜鐵道も公州以北京城迄は全く此線に沿へり、京仁街道は京城より西に永登浦、梧柳洞、石川院、石岩里を経て仁川に達する四里十六町間なり。此線は交通最も便にして今既に京仁鐵道線の往復するあり。京義街道は京城より北に高陽、坡州、開城を経て、黃海道に入り、瑞興、黃州を経て平安道に入り、平壤、安州、定州、宣川等を経て、義州に達する九十六里間なり。此線は昔支那の使節往來の道路なるを以て之に對して稍、修繕を加へたるを以て朝鮮中第一の良道路と稱すれども、本邦の縣道に及ばず、明治二十七八年の役に砲車を通ずるに頗る困難したる所ありしが、日露の戦役に砲車を通ずる爲め再び修築せり。

京元街道は京城より東北に抱川を経て、江原道に入り、金化、金城、淮陽を経て、鐵嶺の嶮を越へて咸鏡道に入り、安邊より元山に達する四十九里なり。此線は山路多く甚だ困難を免れず、此線元山より北、海岸に沿ふて露境の慶興に達す。即ち元山

より永興、咸興、北青、端川、城津、吉州、明川、鏡城を経て慶興に至る百五十六里間なり。朝鮮に於ける鐵道敷設の弊は日清戦役後にして各國は其利益線を韓廷に交渉して其權を獲得したり、今日まで鐵道を敷設すべき線路として傳へらるゝは京仁、京釜、京義、京元の四線路なり。

京仁鐵道は我明治二十九年三月米人モールス氏が韓廷より其敷設權を得たるものにして、同三十一年十月を以て本邦人の「シンヂェクト」に於て其讓與を受け、資本金二百五十萬圓餘を以て三十二年四月起工し、三十三年七月全線二十六哩餘の開通を了し、當時營業中なり。此線の中途には漢江の横はるありて合計二千七百尺の鐵橋、木橋を架し、京仁間の交通は非常に便利を享くるに至れり。明治三十年京釜鐵道に合併せり。

京釜鐵道は日清戦役後日韓條款に基づき我國の得たる敷設權にして、此線は我國の軍事上及び通商上に大關係を及ぼす至要の線路なり。正式に韓廷と我京釜鐵道發起人との間に京釜鐵道合同條約なるものを訂結せしは明治三十一年九月なり。該條約によれば鐵道敷地は韓國に於て供給し、支線の敷地は外國に許可せざること、鐵道竣工より十五年の終りに韓國に於て鐵道專有の意ある時は

買收すること、鐵道の株主には韓人も加はり得ること、該株券は日韓人の外讓與することを許さざることを規定せり

斯くて三十三年九月我政府の命令書に據り資本金二千五百萬圓と定め開業より十五ヶ年間六分利子の補給とし京城、釜山の兩方面より工事に著手せり、其線路の延長は二百八十七哩にして四十二停車場を置き勾配は六十分一より急なる所なく、土工總計三百八十一萬五千坪隧道の總延長四萬七百八十八呎、又橋梁總延長は二萬一千九百九十九呎なり、此線路の通過する所は國中最も人烟稠密なる三南忠清、全羅慶尙及京畿地方を通じ、此線に據るべき戶口は全國の十分の七弱を占め、耕地は全國の七分の五強に居り、錦江洛東の二大江は三南平原を繞り、土地肥沃氣候溫暖にして、農業最適の要區にして、現時輸出入の總量七分の五は此線路範圍に於て産出し又消費せらる、而して其輸出入品は殆ど全く我邦との關係あるものなるを以て日韓貿易上至大の便益を得て其運搬は宛も我内地の往復に異ならざるに至るべく、加るに此線は京仁、京義兩線路に連絡するは勿論尙進んで西伯利、東清の兩鐵道線と連絡する曉に於て歐亞縱貫の大鐵道と爲るべき有望の線路なり。

京釜鐵道線路の概況を述べれば、先づ京城を發して二十五哩にして水原に至る此地は嘗て我が大島混成旅團の牙山に進みたる道路なり、五十哩にして屯浦あり、是より南三里にして稷山、金鏡に達すべし、七十二哩にして全義縣あり、九十哩にして公州あり、百十哩にして連山に至る、是より支線を出して西方七哩にして江景に至る、此地より河を下れば群山浦に至るべく、群山浦連山の間は十哩に過ぎず、而して本線は連山迄は平坦なれども、是より以南は漸く山地となり、道路も峻惡なり、百五十哩にして錦山に至る、錦山は人參の名産地なり、次に永同縣あり、即ち京城、釜山の中央驛なり、進んで秋風嶺を踰へ京城より百九十五哩進めば倭館あり、錦山と倭館の間八十哩は最も難工事の所なり、二百十五哩進めば大邱あり、此府より青道、炎陽二府を経て洛東江に沿ふて釜山に至る、全線二百八十七哩にして、一時間の速度は平均二十八哩七分にして釜山京城間十時間乃至十二時間を費すの計畫なり、而して停車場は總計四十二ヶ所にして其主要なる停車場は左の如し

- (一) 京城
 - (二) 永登浦
 - (三) 始興
 - (四) 水原
 - (五) 屯浦
 - (六) 全義
 - (七) 公州
 - (八) 魯城
 - (九) 珍山
 - (一〇) 錦山
 - (一一) 永同
 - (一二) 金山
 - (一三) 倭館
 - (一四) 大邱
 - (一五) 昌寧
 - (一六) 三浪津
 - (一七) 釜山
- 是なり、又魯城、珍山兩驛の中間なる論

山より支線は西に分れて江景に至る。此京釜鐵道工事は日露開戦及朝鮮經營等により頗る急要を告ぐるに至りしを以て速成工事となり明治三十七年八月に於て京城方面は永登浦、水原、振威を経て屯浦に至る五十二哩は竣工せり。○釜山方面は草梁、龜浦、密陽を経て大邱に至る七十二哩間は竣工せり。全線開通も遠きにあらず。

京義鐵道は明治二十九年七月一旦佛國人に敷設權を與へたれども起工規約期限を經過して著手せざりしを以て敷設權を韓廷に返納したれば韓人組織の國內鐵道會社と稱する無形の會社に敷設權を允許したりしが日露戰役に及んで我が兵站線の北進に隨ひ此の鐵道の必要を感じ、又將來も益、此の鐵道の必要なるべきを以て韓廷より我が政府に於て讓與を受け、明治三十七年五月以來急に敷設に著手したり、此の鐵道は最近に於て我が國が着手せる義營鐵道、義州營口間と連絡し、京釜線と相待ちて將來歐亞縱貫線となるべきものなり。

京元鐵道は其敷設權は元の京義鐵道の如く無形の國內鐵道にあれども有名無實にして其計畫も行はれず。

電氣鐵道は當時京城内にあり、該鐵道は米人の合名會社なる漢城電氣會社の設

計に成り其線路は西大門より清凉里を経て楊州迄總延長二十五哩間敷設の計畫なり。

通信機關は概ね我が勢力の下にあり、郵便は全國の開港場開市場には日本政府の管理に屬する日本郵便局ありて日韓間の郵便事務を司れり、且つ各開港場開市場間の通信をも司る。又朝鮮と外國との間の郵便事務をも司るを以て以上の各地は日本内地と同じく郵税額其他も同様にして甚だ便利なり、韓國の郵便事務は通信院の司る所にして各地に郵便司(郵便局)を置き一般書信の配送を司る。電信は明治十六年始めて丁抹の大北電信會社の手によりて肥前の呼子村より壹岐及對馬を経て釜山に至る海底電線を沈設し、翌十七年二月より通信を開始せり。其後呼子對馬間は本邦に於て之を買収せり、十八年七月清國は韓廷と訂約して京城、仁川間及京城より義州を経て鳳凰城に至る間を架設したり、此電線は日清の役に我軍之を占領して韓國に讓與せり、二十年韓國は京城釜山間の電線を架設し、二十四年には京城元山間に架設せり、二十七年には我陸軍によりて京城釜山間及京城仁川間に架設せられたり、此の線路には六七里毎に我が憲兵屯所ありて電線を保護せり、故に今日の通信は以上各地間は電信に依ることを得

海運は陸路に比して一層幼稚なり、韓國には船材となるべき巨材に乏しきを以て小舟も頗る少なく、漁業にも差支ゆる程なり、韓船は支那の「ジャンク」に似て席を以て帆とす、韓國に船籍を有する汽船は少數の小汽船あるのみ、韓國所有の汽船會社は曩に利運社なるものありしも幾くもなく廢絶し、當時は仁川に韓國郵船會社ありて三四隻の小汽船を以て仁川平壤間并に仁川北關間等の航海に従事するのみ

故に韓國今日の航運業は多くは外國人の營む所にして、特に日本は其覇主たる地位にあり、先づ外國人の航運業を記すれば獨逸人の經營する世昌洋行は北關浦鹽間、仁川上海又は芝罘及仁川、長崎馬關の不定期航海あり、次に露國は日露戰役前にはセベリヨフ會社の汽船は浦鹽に本社ありて元山釜山に代理店を置き、浦鹽、元山、釜山、長崎間を航海し又露國義勇艦隊の汽船も同航路を往復す

我國が韓國に有する航權は最も強大なるものにして十中の九は我船に依る、郵船會社、大阪商船會社は其主なるものにして郵船會社は神戸釜山、仁川北清線には四週に一回の船を出し、神戸釜山、元山浦鹽線には二週に一回及往航の際、仁川に寄港する、四週一回の長崎香港線あり、商船會社は大阪仁川線は毎週一回雙方

より發著し、大阪鎮南浦線も一週一回發著す、馬關釜山線は隔日に發著す、大阪釜山元山間は二ヶ月五回の割を以て往復す、其外韓國各開港場に居留する本邦人の經營になる小汽船會社は數多ありて、仁川釜山、元山等を根據として定期若しくは不定期に韓國沿岸及島嶼にも航行する汽船あり

次に韓國は前に述ぶるが如き豆滿、鴨綠の兩大江ありて屈強の交通水路たり、之を利用せば其效益實に尠なからざるべし、豆滿江は其開通を見るは頗る遠かるべしと雖ども、鴨綠江は滿韓の交通上最も切要なる水道たるを以て曾て大阪商船會社に於ては社員を派して鴨綠江下流水域地方の狀況を視察せしめたるが其大要は左の如し

鴨綠江は水源地の高き割合に流れの短き河なるが従つて河床の勾配急に水淺く激湍奔流の箇所頗る多きより舟航の便に富めりとは言ひ難く、輕吃水にして彈馬力の小蒸汽船ならでは下流數里の間にて容易に汽船の航行を許さざる程なれば、水流の海に注ぐ所は龍岩浦を除きては支那側に於きては朝鮮側に於いても開港場として適當の地殆ど皆無なりと云ふも差支なし、即ち義州及其下流六七哩の威化島附近若しくは威化島の對岸なる安東縣砂河鎮附近は吃水四

尺以上の船舶の航行頗る難く、尙ほ沙河鎮より義州まで六七哩の間には一尺六寸以上の吃水を許さざる所二箇所あり、左れば鴨綠江水域に於て開港地に値するは龍岩浦のみと思はる、尤も龍岩浦とて良港とは云ひ難く、水淺く投錨水域狭く、附近の水流も淺洲にして潮時を利用して小形の船にても出入容易ならざる時あり、但し潮時を利用して五六百噸位までの船舶は自由に出入し優に貨物の揚卸を爲し得べし。

鴨綠江水域の貿易は從來支那側の地に盛んにして、商權も支那人の掌中に歸し居れるが、之に反して朝鮮側の貿易に至りては寔に微々たり、故に龍岩浦を開港するも支那側に於ける商業上の中心とも云ふべき安東縣と聯絡を通ずるに非れば折角の開港も無意義となり、終はらんのみ、即ち安東縣と龍岩浦との間は小蒸汽船を以て聯絡を附け、安東縣より輸出するものも安東縣に輸入するものも皆龍岩浦を経由して貿易を營むことに依りて龍岩浦開港の價值始めて生ずと云ふも妨げなし。

鴨綠江水域に於ける重要物産を擧ぐれば材木、山繭、大豆、苧麻、人參、砂金、鴉片、雜穀の類にして其の精確なる産出高は知るを得ざれども、材木のみにて一ヶ年約一、千萬兩以上の輸出あり、山繭の輸出高も材木に譲らずと云ひ、大豆は支那側に於ける渾江の水域のみにて一、百萬石以上の産出ありと云ふ、兎に角鴨綠江水域地方よりの輸出高は一ヶ年二、千、五、百、萬圓内外と見て大差なかるべし、輸入品は北清地方に於て見る所のものと略同じく、綿布、綿糸、煙草、燐寸、石油、雜貨は其主要なるものにして尙ほ食鹽の輸入も少しとせず、其統計は詳かならざるも輸出額と略同じきが如し、左れば鴨綠江水域地方の外國貿易額は五、千、萬圓内外にて朝鮮八港の貿易總額の約二、倍半に該當すと見るを得べし。

初め支那人が鴨綠江水域の富源に著眼したるは今より三十年ばかり以前の事にして此富源開發に伴ふて新に勃興したる都會は乃ち安東縣と大東溝なり、大東溝は材木留置場として安東縣は商業地として現はれ尙ほ此兩地と密接なる商業關係を有するは芝罘なりとす、鴨綠江水域に於ける支那人の多くは山東省よりの移住民にして、年々伐木等の爲め出稼するもの萬を以て數ふ、大東溝は鴨綠江を隔て、龍岩浦と相距ること十四五哩の地におりて、其附近は一帶に沼地にして市街より三四哩の間は如何に輕吃水の小蒸汽船と雖ども航すべからず、唯だ材木留置場として颯強なるのみ、安東縣は大東溝に比すれば開港場として

の價值優れるも是とて淺洲の岸にありて好箇の開港場とは云ひ難し、次に朝鮮側に於ては龍岩浦の外に義州あれども義州は極めて輕吃水にして強馬力の小蒸汽船すら航行に難きを以て開港場としての價值思はしきものにあらず、却て義州龍岩浦間の陸路(九里内外)こそ道路頗る平坦なれば河運よりも交通便利なるが如し、要するに義州龍岩浦と云ひ安東縣大東溝と云ひ開市場若しくは開港場として矚目せらるゝも孰れも獨立して發達せんことは到底六箇敷く、唯だ互に相待つて始めて一箇の開港場たるを得べきのみ

鴨綠江下流水域の朝鮮側に於けるを龍岩浦、義州と云ひ支那に於ける安東縣、大東溝と云ひ開港場若しくは開市場として矚目せられ此等互に聯絡を通ずることによりて始めて始めて開港場たるの價值を生ずる所なるが、尙ほ以上各地の位置及狀況に就て其の概要を左に記すべし

龍岩浦 鎮南浦より龍岩浦に至る航程は約百二十五海里にして鴨綠江口よりは二海里なり、江の中流には淺洲の箇所多く、干潮の際は露出すれども潮盈れば喫水七八呎の小汽船の航行に適す、露國が龍岩浦經營を始めてより高さ平時の滿潮面より七尺ばかりなる土堤は築かれ二箇の棧橋設けられたるが規模は小

なり、露人は尙ほ附近なる一の細流を改修して溝渠を造り龍岩山下の小澳と共に木材の貯留場となせり、露人の使用する汽船は大小三艘ありて大なるは大連灣との交通を取り、小なるは安東縣と往來しつゝ、あり、要するに龍岩浦は元來良港とは云ひ難けれども鴨綠江の水域地方中にては此處に勝るの地なし

安東縣 是開港場としての價值は龍岩浦に若かざれども、開市場としては遙かに勝れり、龍岩浦より江を廻りて行くこと約十五海里にして此處に達すべく、支那側の三道浪頭と稱する海關所在地は恰も其中位にあり、龍岩浦、三道浪頭間の水路は船舶の航行に左したる障害なけれども、三道浪頭より安東縣までは水の深さ僅に四呎程にして河底砂礫多く従つて此間は曳船を用ふるか又は極めて輕吃水の汽船にあらざれば通行し難し、安東縣は支那戎船の宿泊する所にして水の深さ二尋程に過ぎず、其沿岸には材筏一面に連り又は鴨綠江水域の支那側に於て貨物の集散最も盛なる所なり、然れども市場としての價值あるに止まり開港場としては價值なし、されば龍岩浦と聯絡を通ずること最も肝要なり

義州 安東縣よりの水路は約八海里に過ぎざれども、途中三個の難所ありて頗る航行に難し、此處に於ける繫船場は九龍浦と稱する所にて義州の市街を距る

我が半里程なり、此より上流は殆ど船舶の航行に適せず、唯戎船は通航し得べきも是とて多くの時間と困難とを経ざるべからずと云ふ、尙ほ此附近河水の結氷期は大同江に比し十五日ばかり早く其の融解も十五日程遅しと
 大東溝 鴨綠江の川尻に位し龍岩浦より江を斜めに下りて約八海里の處に在り、汽船の碇泊する所は陸を距ること頗る遠く交通の不便少からず、且つ沿岸は一帶の淺洲にして干潮の時は廣大なる沙泥を露出し大東溝とは此間に於ける泥流にして兩岸無數の材木船を以て滿され眼界一望皆材木ならざるはなし、今後龍岩浦の盛に發達するも大東溝に於ける材木集散の繁榮は俄に衰ふべからざるべし

産業

農業

韓國の地體は古代の水成岩及び結晶岩等を以て其大體を構造せられ、水蝕に抵抗する度強きを以て、褶爛的土壤地域狭く、到る處丘陵山岳溝波狀をなし平地乏しきを以て農耕地域極めて狭小なり、然れども其土壤は決して農耕上瘠薄にあらず、故に平地を存する所は農産物乏しからず

國內大河少なからずと雖ども河道の修理を缺き灌概の法を講せず、自然の儘に放置するを以て、河水は農耕上充分の用をなさず、然れども河水自然の灌概に利ある所は農産物に富めり、又田地を作るに用水の設けなく又溜池なし、故に數々旱魃の患あり、併し全羅慶尙兩道の境には大澤の設けあり、要するに韓人は農耕法は古法を墨守して改良を加へざるのみならず、却て退歩の實なきにあらず、即ち國內を縦横せる大小の河川は自然に放置し、山林は荒廢して水源涵養の途絶へ、堤防は破壊して河水の氾濫に任せ、肥料の如きも厩肥、青草、塵芥、糞類を撒布するに過ぎず、若し日本の耕作法を輸入して農業の法を改良、一新し更に荒蕪を開耕し未耕地を拓墾するに於ては其收穫高は著しく増加すべきは疑ふ所にあらず

我國民が韓國經營の最良手段は第一著に勤勉精勵なる我農民を彼國に移して荒蕪せる田圃を耕耘せしむるに在り、故に今専門家の最近調査に係る韓國農業の現状と題する一篇を左に掲げて韓國農業の現況を示さんとす
 韓國の農作物に關し先づ其の耕作面積を按ずるに六典條例に掲ぐる所は二百九十一萬餘結なり、一結は我が九反〇二十八歩許に相當するを以て之を換算す

れば二百六十餘萬町歩となる然るに光武三年即ち我が明治卅二年に於ける韓國政府地稅一覽表に據る時は全國の結數僅かに九十九萬餘結にして之を我が段別に換算すれば漸く八十九萬餘町歩に過ぎずされど是れ固より信用すべきものに非ず如何となれば腐敗せる韓國の地方官吏は各々其の私囊を肥さんが爲に實際の結數より若干を減じたる數を上司に報告し遞次斯の如くして以て中央政府に至るものなれば中央政府の統計は實際と大徑庭あるを以てなり此に就き著しき一例を擧ぐれば全羅道光州府の附近柳林藪と稱する所あり其の面積約七八百町歩とす元是れ數百年前此地に存在したる柳林寺と稱する巨刹の境域にして同寺の廢滅するや叢林に委し由て柳林藪の稱あるに至れり爾來人民漸次之を開拓し今や其の過半即ち四百町歩以上の地は良好の稻田と化し居るなり而して此地の租稅は地方官吏の所謂役得に屬し中央政府にては今猶之を叢林地と認め居れり斯る類例全國に尠なからずとせば光武三年の地稅表に掲ぐる所の耕地積は實際に比して遙かに少なきを想見し得べし從來我が邦人が韓國現今の耕地積を推測せしものを見るに或は百數十萬町歩と爲すあり又二百數十萬町歩と稱するありて其の見る所に大差ありと雖も今種々の點よ

り考察し約二百萬町歩を以て實際に近しとす可し而して其の約三分の一即ち七十萬町歩許は稻田にして殘餘を畑地と推定すべきなり作物の種類は畧々我國に於けると同じ耕種の方法は概して粗雑にして畑には混作を行ふこと多く肥料の用量少く灌溉の法備はらず洪水の豫防行はれざるを以て一定面積に對する作物生産の量少く又種苗の改良を行ふことなきを以て生産物の品質概して劣等なり以下各種作物の實況に付詳述すべし

一、稻作

全國各道稻作の行はれざるなく殊に南部地方に於て隆盛なり今全道の稻田反別を七十萬町歩と見積り一箇年の産額約七百萬石と推定するに韓國内地の米價は我に比すれば甚だ低廉なるを以て平均八圓と假定するも猶一箇年五千四百萬圓の産額なり又最近の統計に依れば全輸出品額價の約八割を占むる農産物輸出金額は七百五十餘萬圓にして其中四百十八萬餘圓は即ち米の輸出額なりされば米は韓國に於ける絶大の生産にして韓國の命脈は主として米に依て繋がる、を知るべし

全國中産額の最も大なるは全羅慶尙の兩道にして忠清黃海京畿の諸道之に次

ぎ平安、江原、咸鏡の三道は最も少なし
 稻田の位置は我邦に於けると同じく主として河川の流域に接せる沖積地にありと雖も又山間傾斜の地をも利用し所謂棚田を設くるものも少なからず
 田地區劃の大小に就ては大體に於て著しく我邦と異なることなく甚だ小なるは數歩に充たざるものより大なるは數反歩に及ぶものあり、されど有數地方に於ては區劃頗る大なり例へば忠清道江景より論山に至る間に於ては一般に稻田の區劃廣大にして區の廣さ七八反歩に亘るも稀なりとせず就中大なるは二町歩に過ぐるものあり、區劃は一般に不規則にして畦畔の屈曲せる狀尙我邦の未整理地に於けるが如し
 排水溝は勿論灌漑溝の設備甚だ不完全なり、故に水の供給は單に降雨にのみ依頼す而して適々河水を灌漑するも溝渠の設けなきを以て田地より田地に傳ひて遠く十數丁に達するものあり斯る場合には最下方の位置にある田地より先づ植付けを始め順次上方に及ぶの習慣あり排水溝の設備なきが爲に容易に乾田と爲すを得べき田にして周年潤濕なるもの甚だ多し
 韓國にて栽培する稻種に粳と糯とあり又各地に早、中、晩の區別あり而して概ね

有芒種に屬す品種は夥多あり數地方に老人種と稱する長芒のもの廣く行はれ又全羅南道にては梳頭租、チャグメン租、タルグ租、オニヤグ租、サル租、陰陽サル租等あり就中サル租は良種と稱せらる、又倭租と稱するは日本より傳來せるものにして全羅北道全州地方にて廣く傳播し十中四五は此種を作り全羅南道榮山浦附近にても明治二十七八年頃よりし傳播し十中二三は本種を作るといふ
 稻作法は概して疎なり而して地方により多少の差異あるは勿論なり今各地方に於て見聞したる所を綜合して其の梗概を述べれば左の如し
 一、直播と移播 韓國の稻作は概ね移植法に依る古は専ら直播法に據りたりしに豊公征韓の際日本駐屯軍より移植法を習得し爾來此法は全國に傳播せりと云ふ、されど北部地方に於ては今猶直播法を採り種子を撒播するもの少なからず而して現に直播法を行へる所は氣候の上より考ふる時は寧ろ當然の方法たらんか
 二、苗代 苗代は播種に先だちて土地を耕起し水を灌ぎ之に原野の雜草の乾燥せるもの堆肥等を踏込み表面を平かならしむる爲には方三尺許の篋の四方に繩を附したるものを用ゐ人其上に在りて凸起せる部分を踏む所あり、又均板を

用ゐて均らす所もあり、但し其の均らしたりと稱する苗代面も亂雜にして施したる乾草の一部露出せる等のことあるは勿論なり所により多少人糞尿と灰の混合物を用ふる所ありと雖も之は極めて少量にして苗代に於ける主たる肥料は乾草及び堆肥の類なり

三、播種 播種期は地方に依りて多少の差異ありと雖も多くは五月初旬なり、播種に先だちて五六日間種子を水に浸し菰に包みて室内に入れ温突に依りて温度を加へ少しく發芽せしめて播くもの多し播種量は所謂一斗落の本田に對し一斗を播下すること古來の定例なりと雖も一斗落なる面積及び一斗なる容量共に不規則にして一定せざるのみならず正しく此の定例を實踐するもの殆どなし一定面積に對する種子の量は概して多量にして我一反歩に對し七升以上一斗を要する所多きが如し而して之を播下すべき苗代の面積は甚だ狭小にして僅かに四五歩に過ぎざる所あり故に苗代一步に對する播種量は極めて多量にして二升に及ぶもの少なからず粗と粗と相重るの狀を呈するもの稀ならざるを以て苗の纖弱なるは推して知るべきなり

四、本田の整地 本田の整地にも所に依り精粗の差あること勿論なるが稍々丁寧なる光州地方の一例を擧ぐれば耕鋤には牛を用ゐる冬期より耕起し置くなり而して一度に全面積を耕起せずして第一回には先づ一畦隔てに耕起し若干日を経て第二回耕鋤を行ひ此際前に耕起せざりし各畦を耕起す、其後移植期に近づきて肥料を施し更に二回耕鋤を行ふなり次に粗製の馬糞に依りて土塊を碎き併せて田面を均らし又エブリの類を用ゐて更らに田面を平らかにす

五、本田の肥料 肥料の種類は青草、厩肥、人糞と灰の混合物等なり、用法は概ね原肥として一回に施すを常とすれども稀には七月頃一回追肥を行ふものあり

六、插秧 插秧期は五月下旬より七月に至る插秧期の斯く長時に亘るは全韓國内氣候の差異に依るのみならずして一地方に於ても亦然り之れ大に注目すべき事實にして其原因は蓋し主として灌漑水の不自由にして或は降雨を待ち插秧し若くは遅延せる稻田の最下方より插秧を始め順次上方に及ぶの止むを得ざるに由るものなり、即ち韓國に於ける稻の插秧は何れの地方に於ても最も適當なる期節に實施するは一部分に過ぎずして多くは此の適期を去る數日以上二三十日に於てするなり此の事實なる收穫の上に多大の影響あるや必せり插秧に規矩を正すが如きは勿論皆無なり各株の距離甚だ不規則にして一田面

の一局部には頗る密植し他の局部には甚だ疎植する等のことあるは稀ならず而して一步に對する株數は平均に於て少なきは二十四五より多きは七八十に至る要するに韓國に於ける稻の植方は密植に過ぐる所よりは疎植に失する所多きを認むるなり之れ亦頗る注目すべき事項なりとす蓋し稻作に對する季節の短き地方に於て插秧疎に失する時は稻は貴重なる時日を分蘖繁茂の爲に消費し完全なる登熟を遂げざる前に早く已に寒氣の爲に成熟作用を止めざるべからざるに至るを以てなり韓國の米に青米死米等を混すること多きは插秧の疎に失せること亦其の一原因たらずんばあらず而して此の事實は亦收量の上

に影響あるや勿論なり

七、插秧後の手入

除草は自作の精農は四回迄行なふ例へば忠清道江景地方にては移植後約二十日を経てホミジと稱する鎌の刃全體の横に振れたるが如き器を用ゐる株間の土を耕起すること恰も我雁爪打を行ふが如し而して抽穂前十日迄に適宜三回ホミジ及び牛を用ゐて草を除き併せて田土を攪拌す之れ韓國の農事に於ては稀に見る所の精密なる手入なりされど斯の如きは拔群なる精農に於て始めて見る所にして一般の小作者は一二回の除草だも行はざるもの

多し故に收穫期に際して水稗及び雜草の混交するもの甚だ多し韓國米に稗を混すること多きは著しき事實なり

害虫驅除の如きも全く行はれず螟蟲の如き浮塵子の如き往々大害を逞しうするが如しと雖も其蟲だも知らざるもの比々皆然り

八、收穫 韓國に於ける稻の適當なる收穫期は概ね十月下旬以前なり蓋し氣候の關係よりして十月下旬迄に成熟する稻を栽培すべきを以てなりされど怠慢なる農民は往々收穫すべき時期に收穫せずして時日を經過し稻は寒氣の爲自ら枯死し倒伏して稈の折るものあり斯の如きは亦米の品質と收量とに影響する所なくんばあらず但し木浦地方にては一般に早刈の習慣あり收穫の方法は鎌にて刈取り小束に結束し田畔に積並べて乾燥せしむるを普通とす而して結束するに豫め束藁を用意することなく新たに刈取りたる稻稈を用ふるものとす斯の如く刈取りて後能く乾燥せずして堆積するが故に稈は自ら蒸熱を醸し品質を劣損すること著し

九、籾の分離 我邦に於けるが如く稻扱を用ふることなし最も普通に行はる、籾落法は束の下部を藁にて簡單に縛し之によりて穂の部を石、木製臼等に打付

くるなり此の法は仕事の功程頗ぶる迅速一人一日三百束即ち粃八石許を落し得とにして同時に芒を落すの作用をも兼ねるの利ありと雖も米質を損するの不利あるや必せり我邦に廣く行はる、稻扱器の輸入せられしことなきに非ずと雖も韓人等は其の使用に習熟せざるを以て其の功程遠く在來の法に及ばず従て此器を實用せるもの未だ殆どなし粃落は單に路邊庭上等に於てし藎の類を用ふることに稀にして落ちたる粃は箒にて掃集むるものなるを以て土質に依りては砂礫を混ざるを免れず此等の事は米の價格に大に影響するは勿論なり小農は上述の打落法に依らず別に極めて迂拙なる方法を採りて粃を分離す之にはホルテイと稱する最も簡單なる器具を用ふるなりホルテイとは小なる竹片と鐵線と各長さ七八寸なるを一端に於て結びたるものにして婦女老人等座側に稻束を置き右手にホルテイの結びたる一端を握り他端を少しく開き僅かに三四本宛の稻穂を其間に挿入し開きたるホルテイを閉ちて穂を抜き以て粃を落すなり其の功程の遅緩なること想像するに難からず一人一日の功程通常粃五斗内外なりと云ふ

十、**粃の調製及粃磨** 穂梗折斷し粃の分離完からざるものは連枷を以て打ち之

を分離し又芒を除くにも之を用る藁屑塵埃の數を除くには唐箕及び箕を用ふること總て我邦に於けるが如し但だ其の器具の著しく拙劣なるのみ粃磨には從來極めて簡單なる木製の臼を用ゆ直徑一尺二三寸許にして高さ三四尺許上臼の相對する所に木製の柄を附し之に依りて上臼を左右に廻轉するのみ其の功程甚だ緩慢なり又較大仕掛の方法としては粘土を固めて直徑四五尺の圓形なる臺を作り邊線を設け中央に軸棒を建て此軸に依りて直徑三尺許厚さ二尺餘なる石臼を驢馬の力によりて上記粘土臺上に廻轉せしめ而して此の石臼の通過する所に粃を撒布し置き其の壓力に依りて粃皮を除くなり米と粃殼とを分離するにも亦唐箕及び箕を用ふ

十一、**俵装** 粃及び米を入れるには甚だ粗製の俵を用ふ其の形我邦のものとは大に異り弧を縫合せたるものにして側方に開くものなり小なるは三斗許を入れるべく大なるは五斗許を入れるべしされど之は到底輸出用に不適當なるを以て輸出米は日本製の以に換ゆるなり

十二、**一反歩に對する玄米收量** 地方に依り又氣候の如何、肥料の多寡等に依り大差あるは勿論なりと雖今參考の爲各地に於て見聞せる平年の收量を我一反

歩に對する玄米に改算すれば大凡左の如し但し粗二石より玄米一石を得るものと見做しての計算なり

地方別	上作	中作	下作
忠清南道江景	二五〇	二一〇	〇八〇
忠清南道公州	三〇〇	...	一五〇
同上(別説)	一三〇	一〇〇	〇七〇
京畿道京城開成間	一二〇	一〇〇	〇七〇
平安道祥原	一二〇	〇九〇	〇六〇
京畿道富平	二〇〇	一五〇	〇八〇
全羅南道羅州	二四〇	一五〇	一〇〇
同榮山浦附近	二八〇	一五〇	一〇〇
同光州	三〇〇	一八〇	〇六〇

十三、收穫計算 忠清道に於ける稻作收支の一例を擧ぐれば大略左の如し但し土地は韓人等が中等とする所天候平年にして稍精農の場合とす數量は我一反歩に對し我貨幣に換算したるものなり

收入

籾米	三石(一石四圓)	十二圓
蕪	百束(一束一錢)	一圓
合計		十三圓

支出

苗代消費	七十錢
本田整理費	一圓
插秧費(三人)	六十錢
除草費(四人)	一圓二十錢
灌溉及施肥費(三人)	六十錢
收穫及調製費(四人)	一圓二十錢
種子代(一斗)	四十錢
肥料	一圓
小作料(籾一石五斗)	六圓
合計	十二圓十七錢

自作の場合には小作料を要せず租税六十錢許を納むるのみなるを以て益金五圓七十錢となる

二、大麥及小麥

大麥は飴及び食用に供し小麥は主として各種の用途に充つる外酒類の醸造に用ふる麴を製す産額は明かならざれども全國を通じて多少栽培するが如し主として畑地に作り亦少しく稻田の裏作となす黃海道及び平安道に於て麥を畑地に栽培する事は多く幅二尺五寸乃至二尺七八寸の大畦を設け其の低所に條據するなり畦幅斯の如く大なるは間作を行ふの目的に出づることありと雖も亦然らざる場合あり蓋し此の地方にて畑地を耕起するには牛二頭立の極めて疎大なる犁ゴシヤンを用ふること多し此の大犁は大畦を作るに便利にして小畦を作るには不便なるより便宜に従て大畦を麥作に用ふるが如し小犁を用ふる忠清道以南の地方にありては幅畦二尺許なるを多しとす整地は極めて疎にして土質の如何に係らず僅かに犁を以て耕起するのみにして土塊を碎く等のこと概してなし又稻田の裏作を爲す場合の整地は巾三尺乃至五尺の畦を設くるを普通

とし全面を耕起せずして只三尺乃至五尺を隔て、溝を耕起し其の土壤を耕起せざる畦上に散布するのみ則ち乾固したる田面に少許の耕土を散布したるに過ぎざるなり此の畦上に麥類を播下するには或は條播法に依り又は撒播法に依る肥料には牛舎肥料、乾草と人糞とを混合せるもの、藁稈の灰に人糞の混せるもの(農家便所の構造に依り自から斯る肥料を生ずるなり)及び人糞等を用ゐ一定面積に對する其の分量は極めて少許なり播種量は大畦の場合には一反歩に仗五升乃至七升の割合又小畦の場合には八升以上を播下するもの多し大麥の收量は一反歩に付少きは一石許にして多きも二石を越ゆること稀なり小麥は六斗乃至一石許なり品質は概して宜しからず

三、蜀黍及粟

平安道及び黃海道に於ては蜀黍の栽培盛にして粟は全國多少之を作る何れも食用に供し蜀黍は亦燒酎を製するに用ふ

四、豆菽類

豆菽類の中産額最も多きは大豆なり其の數量明かならずと雖も約四百萬石内外ならんとの説あり明治三十四年の輸出額は約三十七萬餘石にして其の輸出

先は専ら我が日本なり韓國に於ける用途は米に混じて食用に供し又豆腐味噌醬油等の製造に消費すること巨額なり又豆芽菜として副食物に供す最も多額に産するは黃海平安慶尙江原咸鏡の諸道とす種類は淡黄色種最も多く黒色種之に亞ぎて遙かに少し品質頗る見るべきものあり大豆に次で産額多きは小豆なりされど其の産額は大豆に比すれば甚だ少なく黃海道平安道を主たる産地とす主に米に混じて食用に供し米の産出寡なき韓國北部の地方にては日々の主食物我邦の所謂小豆飯と異ならざる所多し此他綠豆亦た多少栽培せらる之は主として豆芽菜として用ふ豆菽類の栽培は我邦に於けると著しく異なる所なく生育は一般に良好なり肥料としては少許の灰を用ふることあるのみ

五桑

韓國にては養蠶業極めて微々たるを以て桑の栽培も亦従つて僅少なるが平壤附近に於て見る桑園は稍良好なり從來韓國にて栽培せらる、桑の品種は主として魯桑にして韓國の蠶業先進者は此種多く韓國の如き乾燥なる氣候の養蠶に適せるを信するもの、如し桑樹の仕立方は從來は専ら高木造にして全羅道以南に於ては紙剪蟲の害甚しかりしが近來根刈法を行ふものあるに至れり

六蓼藍

韓國の俗主として白衣を著し藍染は唯僅に婦人の下裳に用ふることあるに過ぎざるを以て藍の需用寡く随つて蓼藍の栽培も甚だ微々たり而して就中較多量に産出するは全羅南道に於ける榮山江の沿岸にして榮山浦附近及び南平附近最も多きが如し同道の南部にある同福寶城長興附近にも近年に至り多少之を産出す

榮山浦及び南平附近は其の地質土性共に我邦の蓼藍最大產地たる德島縣下吉野川沿岸の地と同一なる所多きを認む栽培法は概して粗雑にして移植直播併び行はれ肥料を施すこと少く僅に人糞尿を用ふるに過ぎずと雖も生育は可なるが如し而して第一回刈取の後更に發芽せしめて第二回收穫を爲すは我邦と同じきも製藍の法甚だ幼稚にして生葉に水を加へて瓶に入れ其の醱酵するを俟ち石灰を加へて藍分を沈澱せしめ其の上淨を去り所謂泥藍の如きものとなして貯藏し必要に應じて之に熱湯を加へ以て染汁を製するなり染色鮮麗ならず又容易に褪色す

七苧麻

韓國にては苧麻をモシと稱す而して我邦に於て韓國をカラと稱せしより考ふれば我邦にて苧麻をカラムシと呼ぶは蓋しカラモシより轉訛したるものなるを知るべし苧麻は錦江の流域に近き忠清南道及び全羅北道に産出するもの多し而して天然野生に係るもの多く又若干を栽培す其の法素より粗にして肥料を施すこと亦少きを以て收量品質共に劣等なり苧布の製織は専ら農家の副業に屬し忠清南道韓山郡は古來其の産出を以て名ありされど産出の實況は極めて疎放拙劣にして原料を晒すには水を加へて屋背に擴げ以て日光に曝露するか又は冬期には霜と日光の力に依りて自然の漂白を俟つのみ斯くして手を以て纖維を分離し指に依りて紗を施し以て細糸となし我邦の所謂地機チキの如き織機を用ひて布と爲すに過ぎざるなり

八、棉

東國通鑑に依れば棉種の韓國に入りしは洪武廿二年即ち我が紀元二〇四九年足利義滿の時なりしと爾後其の栽培盛ならず綿布として廣く實用するに至らざりしが豊公の駐韓軍は屯田の組織に依り自然に農法を傳へ棉の栽培も此時に隆盛に趣けりとの説あり今や棉花は一大産物にして棉の栽培區域は南部よ

り北は平安南道に亘れり蓋し韓人の衣服は主として木棉なるを以てなり我邦及び英米等より近年綿製品の輸入多く年々五六百萬圓に上るに至りしより韓國の棉作は幾分の打撃を受けたるや必せりと雖も尙實棉の産額は四百萬貫を下らず全國の中全羅道の産額最も多く殊に該道に屬する島嶼及び羅州郡は其の主産地たり是れ蓋し氣候と土質が最も適當せるに依らずんばあらず品質に於ても全羅道の産最も優り纖維比較的細長にして純白に縑綿の歩止は二割五分乃至三割あり全羅道の棉花は多く忠清道に供給し又綿布として京城及び元山地方へ輸出す即ち明治三十四年度に木浦税關を通過したる棉花及び綿布の總價額は二十八萬二千七百七十六圓に上れり黃海道の重なる産地は黃州鳳山載寧諸郡にして平安南道にありては平壤江西諸崗三初祥原永柔順安肅川三登の諸郡を主産地とす

栽培は疏放にして多くは二尺餘の畦に條播すれども開城附近にては幅六七尺の大畦を設け其の中央に二尺を隔て、二條に二尺宛の間隔を以て輪播せるものあり各輪の直徑六寸許にして一輪に七八本を成育せしむ一般に摘心剪枝等を行ふことなく又灌水及び施肥も之を行ふこと稀少なり故に成育好良なる地

方若くは降雨多き歳に於ては棉の高き三尺を超へ又成育不良の場合には一尺に満たざるなり一反歩に對する實棉收量少きは十貫目より多きは三十貫目位なるが如し今參考の爲め全羅南道に於ける較丁寧なる栽培法の梗概を述べし

三月下旬より四月上旬頃整地を行ひ畦を設け灰に人糞を混ぜるものに種子を交へて條播し木製の土ならしを用ゐて土を破り二三週目にして發生す六月下旬に至り二三寸に成長せし時第一回除草及び間引を行ひ其後一二回除草と間引とを併せ行ふ外別に手入を施さず七月下旬より八月上旬に至れば開花し八月下旬開絮を始め十月に至り棉圃には胡麻大豆等を共作すること多し
九楮

韓國に於ける製紙の原料は専ら楮なりと雖も特に畑に楮を栽培するにあらずして山野圃邊等に生長せるものを採收するなりされど其の繁殖には多少注意し取木法等に依り其の繁殖を計ることあり通常九月の比良幹を撰擇して伐採す之より製紙の原料を調製するの法は甚だ原始的にして先づ適宜の地を擇み楮莖を入れる、に足るべき深さ六七尺の穴を穿ち又之に接近して深さ三四尺の

穴を掘り此の二孔を連結して一細溝を設く而して深き穴には楮莖を充たして其上を密閉し淺き穴は其の上面を石にて塞ぎ又側面に一口を設くること竈の如し斯くて此の淺孔内にて火を燃し上面の石の紅熱するに及び之に水を注入す此の沸湯は細溝を通じて深き穴に流入し孔内は爲に蒸氣充滿して數時間の後楮莖蒸熱す此に於て之を取出し皮を剝離し乾燥するものなり之より紙を製するには粗皮を水に浸し小刀の類にて茶褐色な外皮を除去し之を灰汁にて煮沸し日光に晒し石上にて棒を以て打ち纖維を分解したる後水に混じ之に糊を加へ簀を用ゐて漉くこと略我邦の方法に同じ紙は概して粗厚にして巾二尺五寸許長さ三尺許なる大幅の儘販賣す其の價甚はだ高貴なり

十、蔬菜

一、白菜の栽培は全國に普く秋季の蔬菜は大部分白菜にして之に亞ぐは菜菔なれども其の量遠く白菜に及ばず白菜は主として鹽藏するものにして多くは湖を混じ又水蕪、生姜、魚肉等を交ゆることあり白菜の生育最も良好なるは開城府にして同地方人には開城府を以て全國第一の白菜産地と考ふる者あり栽培法は巾三尺許の大畦を作り其上に四列に點播す播期は七月下旬にして發芽後約

十日宛の間隔を以て人尿を施すこと四五回又乾燥なる地にては毎夕灌水し十月に至り漸次收穫す京城東大門外は亦白菜の一大栽培地にして其の生育開城府に亞ぐ栽培法は略開城府に於けると同く八月上旬下旬十一月月上旬を以つて收穫す採種は收穫の際生育不良なる株を残し其の上部を切り去り根株を屋内に貯藏し翌春畑に植えて開花結實せしむるものなり採種用として不良なる株を用ふるは要するに良株を吝むに依る以て栽培上智識の幼稚なる一端を伺ふに足るなり

二、菜・蕪は到る所多少之を栽培し或は漬物となし又煮て食す採種栽培法粗にして且肥料を施すこと少なきに由り概ね形小にして殊に丈短く質硬し

三、清國白菜は在留の邦人通常之を支那菜と稱す清國農民の専ら栽培する所あるを以てなり仁川京城鎮南浦に於ては品質良好にして外形輕氣球の状を呈し葉は堅く充實し外葉二三枚を除く時は内美麗なる白色を呈し生の儘食するを得べく味甚だ佳なり之は主として氣候の適應せる爲にして郡山以南の産は大に劣れり栽培法は頗る周到にして約二尺平方に一株を植う仁川にては八月下旬十月下旬より葉の地上七分目の所を葉にて結束す或は毎夕之を結束し毎

朝之を解くものあり又降霜の害を豫防せんが爲に頂上に葉片二三を覆ふ等のことをなすあり人糞尿を多量に施して肥料とす種子は年々本國より取寄するなり蓋し韓國にて採種せば容易に雜種となるに依るものならん而して是れ實に清國白菜の栽培が清人の専占に屬する原因ならずんばあらず十一月中より收納し屋内に逆まに立て、貯藏す

四、水蕪は各地にて栽培し就中盛んなるは京城東大門外の低地なり東門外の地たる京城の汚水が流入する所にして自ら水蕪の栽培に適せり十月頃より採收を始め翌年三四月に至る繁殖用としては其の一部を残し置き六月に至り高さ二尺許に達して開花するに及び之を拔取りて栽培せんとする低濕地に散布し置くなり然る時は舊莖の關節より根を生じ新莖發生す八月に至り一度之を拔取り栽培地を耕起して雜草を除き更めて之を植付くるなり肥料は更に施すことなし

十一、果樹

韓國の風土は概して果樹の栽培に適するを認む然れども現今韓國人の營業に屬する果樹栽培は尠も見るに足るべきものなし

一、梨 韓國在來の果物中元山方面に於ける梨には甚だ良好なるものあり通常元山梨と稱せらるゝもの其の産地元山に非らずして咸興及び安邊郡なり即ち咸興梨及び安邊梨一名水香梨の稱あり就中咸興梨は形丸くして小に味最も美なり此れ専ら風土の然らしむる所なるが如し鳳山の梨亦た稍有名なりと雖も深く賞するに足らず而して京畿道黃海道及び平安南道の諸地方に於ては概ね硬細胞の著しきを覺え一も賞すべきものなし

二、柿 柿は概ね澁柿にして優良と稱すべきものなく又小許のキザ柿ありと雖も一も見るに足るなし又澁柿の澁を除くにも専ら自然の變化に依るものなるを以て殊に味の俗ならざるを致すが如し

三、桃 桃には天津水蜜桃に類するものあり又開城府附近には九月下旬より十月に及んで收むる一種の桃あり形小にして徑一寸に充たず外形不良なりと雖も粘氣ありて味佳なり

四、栗 栗は又平安道に於て一種の好良なるものあり形小にして長さ及び幅共に六七分を超へずと雖も皮薄くして所謂澁皮は外皮と共に剝脱するの特質を有す味亦佳也熬炒して用ふるに宜し産出の季節に際しては平壤の市場に於て

多く販賣せらる

五、棗 棗には稍良好なるものあり開城附近に於ては長さ九分直徑八分許なるものと長さ一寸許直徑七分許なるものとあり何れも味佳也

六、椶櫚 には忠清道公州附近に頗る良好なるものあり形大にして長さ五寸許直徑四寸許に達し重量二百匁に近きものあり香氣芳烈にして韓人は之に蜜を加へ煮て菓子とし又薬用に供す但し其の産額は頗る僅少なり

七、葡萄 には開城附近に於て本邦の如く棚作と爲せども剪枝等の事を行ふことなし而も猶結實の頗る好良なるを見る

八、觀賞植物 韓人の觀賞植物に對する嗜好は甚だ幼稚なり京城に於てすら本邦人の經營に係る花卉園唯一あるのみ同園主の談に依れば韓人が觀賞植物を愛玩することは甚だ稀にして適觀賞する盆栽類の如きは單に華美之れ貴び風致雅趣は毫も其間ふ所に非らずと

十二、藥用人蔘

人蔘は韓國の一大物産なり其の總産額詳かならずと雖も必ず十萬斤の上にあるべく價額二百萬圓を下らざるべし明治三十四年に仁川港より輸出したる紅

蔘の數量は一萬八千四百三十一斤にして其の價額五十一萬五千九百五十五圓なりしが三十五年度に於ては同港の輸出額六萬三千九百一斤に達したり全國各道皆人蔘を産出すれども京畿道開城府及び附近九郡を以て主産地とす而して全國に於ける其主なる集散地は京畿道開城府及び龍仁平安北道江界全羅北道錦山忠清北道忠州にして就中開城府は全國中の主産地なるを以て集散の量常に總産額の大部分を占む

韓國の人蔘は大別して紅蔘、白蔘の二とし紅蔘は一度蒸し然る後乾燥したるものにして價甚だ貴く又白蔘は之を蒸すことなく直に乾燥したるものにして紅蔘に比すれば其價廉なり開城府に集散するものは概ね紅蔘の製造に供するものにして其他の産は概して白蔘となす、されば韓國の人蔘産地は各道に散在すと雖も之を價額の上より見る時は開城府并に其附近は殆ど韓國唯一の産地たるの觀あり仍て専ら該地方に於る人蔘業の狀況を述べし

開城府附近の産地とは同府を中心とせる九郡にして長湍、黑川、豐德、鬼山、新河、平山、端興、鳳山及び金川是れなり、明治三十六年度に於ける此等地方の人蔘總面積は約六十萬間と稱せらる一間は人蔘栽培の爲め特に設けたる底面約四尺五

寸幅畦の長さ約五尺乃至五尺八寸を云ふ各蔘圃の面積多くは數反歩にして大なるは二三丁歩に及ぶものあり、周圍に籬牆を結び盜採を防ぐこと頗る嚴重なり人蔘は種を下してより第七年目に於て始めて採收するものにして明治三十六年の採收面積は約二十萬間と稱せらる今一間の生蔘産量を一斤とすれば總量約二十萬斤にして之より紅蔘六萬六千斤を得べく一斤の價平均二十圓とすれば總價額百三十二萬圓に達す

紅蔘の製造は全然官業に屬し宮内府に蔘政課あり吏員を開城に派して之に従事せしむ即ち採取に適せる蔘圃には番兵を附し以て密賣を豫防し採掘洗淨したるものを專賣して製造を行ふものとす、之が販賣は明治三十二年迄は當局官吏之を司りしが三十三年以降三ヶ年を期し我が三井物産會社に一手販賣を委ね其後更に五ヶ年を期して之を繼續するに至れり

人蔘需要者は清韓兩國人にして清國の需要殊に大なり、其の實質の如何は今措て論せずと雖も價格の高下は單純に品質の如何に依るものに非ずして亦た大に需要者の迷信的思情に關係するものとす、即ち人蔘の價格は大小色澤組成分の外其の形狀人體の各部を具備するの不完に依りて高下あるなり、而も此の

形状の良否は到底常識に依りて判別する能はざるものとす、而して人蔘の産出は韓國の外、北米合衆國、滿洲及び日本ありと雖も韓國の産は常に大小色澤等に於て此等諸國の産に優るのみならず又其の形状の整備せるに由りて價格遙かに高きなり韓國の産地中、開城地方の産に於て殊に然り

開城地方の人蔘が斯の如く需要者の嗜好に適するは其の氣候土質の適之に適應せること其の主因たるべしと雖も、又一方に於ては古來韓廷の需要は専ら同地方より供給せしに依り専心栽培に精勵したるの結果たらずんばあらず則ち其の栽培法の周到なる韓國中他に其の比類を見ざるなり而して人蔘の生産上苗の栽培は一の分業に屬し専ら開城府内に於て行ふ所とす

人蔘栽培法

前述の如く開城府地方の人蔘栽培は實に韓國唯一の精巧なる作物栽培法なるに依り稍詳細に涉りて之を記述すべし

一、苗圃の構造 苗圃は花崗石の崩壊によりて生じたる砂土に設く畦の方向は東々北より西々南に走るを見る畦は底面四尺五寸高さ一尺三寸上面三尺五寸を劃し砂土を盛りて固む畦と畦との距離は底面に於て二尺五寸なり是則ち通

路にして韓人は之を路擴と稱す畦の長さは圃場の大小に應じ適宜に之を定む畦の上面の周邊より五寸宛を残して石板石の薄片長さ一二尺幅四寸許なるを幅一寸五分許畦面上に露はる、様埋めて以て栽培面の邊縁となす斯の如く石板石片にて形成したる緣邊より内部を盆内と稱するなり次に盆内の土壤を深さ五寸除去し此所に豫て調製したる作土を充滿す此の作土は韓人の所謂黃土二分(容積)に對し土葉の腐熟せるもの約一分を混じたるものなり所謂黃土とは花崗石の風化に依りて成れる新土壤にして丘腹等より採掘するものなり作土は年々新製のものを容入するものとす

二、播種及び覆 播種は秋季に行ふことありと雖も多くは三月下旬に行ふものとす其法は約一寸三分平方に一本を生育せしむる様點播し一間の苗數約千二百本を得るものとす播種終れば畦の周圍に覆を設く其の法は畦の北邊に沿ふて一間毎に畦上一尺五寸の高さを有する柱を建て南邊には畦上一尺五寸の高さある柱を同じく一間毎に建て柱の上端に横木を架し之に依りて南方に傾斜せる屋根を形成するなり、屋根は二重の葦簾より成り下面のものを初簾と稱し上面のものを加簾と云ふ畦の南方及び兩側面も亦た葦簾を以て圍み北面には

舒卷自由なるべき様態を取付け之を面籠と云ふ面籠は平素は之を卷上げ置くも風雨の際には舒垂するなり

三播種後の手入 播種後晴天に際しては少くとも三日毎に灌水を行ふ灌水器は頗る奇にして水を容るゝには素焼の甕を用ゐる之を四輪付の臺上に結び付け以て畦間を行るに便にす又水を施すには大なる球狀の瓢を縦断し之に無数の孔を穿ちて各孔に小管を挿入し之に柄を附したるを用ふ即ち如露の作用を爲すものなり發芽後は別に追肥を行ふことなく専ら灌水及び除草を力め又害虫に付注意す斯の如くして秋に至り最大部の直径一分許全長四寸許多少分岐を有する白根成る莖は三寸許にして其の頂端に二葉を有す此莖は初冬に於て枯死するものなり

四苗の移植 播種して第二年目の三月に至り莖根を掘取り移植を行ふ其の苗床は前述せる所と毫も異ならず作土の調製亦た同じ但し通常行はるゝ如く根を横臥せしめて植るには作土の深さ三寸許にして足るなり而して根は床面下一寸五分許の深さに植ゆるものとす縦列の距離を五寸三分許とし横臥列の間隔を二寸五分となす移植後の手入亦前に同じ此年の秋季に至れば莖根の最大

部は直径三分に達し根の主要部は三寸許となる此時莖の長さ三寸許にして多くは葉柄一寸五分許なる二葉を有す一葉は三小葉を有するあり又五小葉を有するあり而して此莖葉も亦初冬に於て枯死するものとす

五本圃 第三年目の三月頃に至り根を掘取り之を本圃に移植す本圃に於ける畦の構造は略苗圃に於けるものと同じく而して特に肥料を施すことなく只前作として小豆を栽培することあり又本圃に於ける一間の長さには多少の差異ありて四尺八寸乃至五尺八寸位を普通とし一層長きもあるが如し一間に付約八條一條に五本の苗を植う時としては本圃に於ても一回移植を行ふことあるが如し

六移植法 苗圃に於けると本圃に於けるとに論なく移植法に直植と臥植との別あり直植は普通に行はるゝが如く根を直立せしめて植るものにして臥植とは根を少しく斜に横臥せしめて植るものなり開城地方に於ける經驗に據れば横臥せしめたる方成績良好なりと

七收納 通常播種より第七年目本圃に移植してより第五年目の秋季に於て採掘すさたど生育良好なるものは第六年目に採取することあり收納の時に於て

蔘根の大なるものは要部の長さ七八寸に達し最大部は直径一寸許あり一本の重量三十匁内外に及ぶ

紅蔘の製造

採掘したる蔘根の鬚根を除き丁寧に洗淨し大小によりて類別し次で蒸熱するものとす既に述べたる如く紅蔘の製造は全然蔘政課の業務に属し其の製造場には土を以て築きたる二十有餘の大甕あり甕上には鐵釜を置き之に水を入れ而して釜の上に陶製の甑を置き柳製の籠に類別したる人蔘を入れて之を甑内に置き蓋を施して蒸熱するなり斯くして適當に熱したる後之を取出し平かなる笊に入れて冷却せしめ次に之を爐火の乾燥室に移す室内には棚を架し之に温突乾燥室に移し數日にして十分に乾燥するなり蔘政課の作業に属する紅蔘の製造も斯る舊式の方法にして寒暖計に依りて温度を検す等のことなく唯勞働者の熟練に依頼するのみ

人蔘の價格

人蔘の價格は一種の迷信に基き形狀の如何に依りて大に高低あるは前述の如

し而して大小輕重は亦大に價格を左右するものとす開城府に於ける紅蔘の一斤は百五十匁なるが十五本にて一斤となるものを第一等とし之を十五本物と稱し以下二十本物三十本物四十本物五十本物六十本物等の區別あり一本の重量輕きに随つて價廉なり明治三十六年秋季開城に於ける相場の一例左の如し

紅蔘一斤の價格	
十五本物(實際八十八本迄)	四十圓
二十本物(同 二十八本迄)	三十圓
三十本物(同 三十八本迄)	二十圓
四十本物(同 四十八本迄)	十二圓
五十本物(同 五十八本迄)	六圓
六十本物	四圓
七十本物	二圓

人蔘の密賣

前に述べたるが如く紅蔘の製造は全く官業に屬し一般人民の之を製造するを嚴禁し又民間に於ける生蔘の賣買をも禁せりされど韓國の法則禁制等は到底

嚴格に行はるゝものに非ず何となれば當局の官吏は賄賂に依りて容易に左右せらるゝを以てなり見よ從來生人蔘の賣買が如何に盛んに日韓人の間に行はれたるかを開城府に在留せる日本商人は三百人許此等の商人は種々なる商業に従事すと雖も又其の餘業若くは本業として人蔘の取引を行はざるは少なきなり素より外國人が人蔘を買ひ又は之を製造するは韓國法律の間ふべき限にあらすと雖も外國人が之を買ふは即ち韓國人が禁を犯して之を賣るものなるに山らすんばあらず信夫惇平氏は其の取引の盛況を彼して京城の我商業は輒近に至る迄殆ど開城に於ける人蔘賣買の餘徳のみに依りて維持せらるゝと云ふも過言に非らざる程の盛況なりしと韓人が危険を冒して斯く盛んに之を外國人に密賣する所以は參政課が交付金遲滞して一年以上に及ぶこと重税を課せらるゝこと等なるに依るものにして則ち此等の不利を避けんが爲に外國人に密賣せんことを欲するなり猶他に一ツの事情あり夫は開城地方の人蔘作人も一般韓人の性習に漏れずして金錢の借用を希望するもの多く而して人蔘を以て之を抵當とし返済期に及んで多くは辨償するを得ずして人蔘を提供するあり蓋し韓國に於ける金利は一般に甚だ高歩にして殊に開城に於て日韓人間

の借貸には月一割の利率に依るもの稀ならず廉きも月七朱を下ることなし故に負債の返辨を完ふするは十中の一二に過ぎずと明治卅六年には人蔘の密賣買の禁制を勵行し採掘に適せる蔘圃には兵士を附して密掘を防ぎたるより從來の營業者に多少の打撃を與へたるは事實なりされど之に依りて密取引を杜絶するには至らざりし

○牧畜業

●牧畜は農業の副業として行はれ牛馬豚の三種最も能く飼養す牛は韓人の貴重する畜類にして耕作に使用し其肉は主要の食にして皮骨は輸出品となる我國に牛皮の輸入する額明治三十三年に於て四十一萬圓三十四年には五十四萬圓あり馬は所謂朝鮮馬にして體軀短少なれども能く勞に堪ゆ豚は北韓地方に飼養す

○林業

朝鮮南部は悉く秃山にして寸青なき有様なるを以て韓國は山林業に望なしと云ふは誤なり北韓は森林漸く茂り北進するに従ひ益々深林となる特に有名なるは鴨綠江畔の大森林とす即ち義州の上流四五十里より二三百里間の本支流沿

岸は一面深林に富み、數百千年來曾て斧斤の入らざる處多く、近年清人の木殖公司及清韓人の義盛公司の兩社専ら伐採に従事せしも、水路に近き一小部分に過ぎず尙ほ無盡藏と稱すべし、日露戰役前露國は此有利の事業に著目して韓廷に強請して伐採權を得、盛に伐り出せり然るに滿洲を還付する時は此有利業をも放棄せざるべからざるを以て是も日露開戰の一原因となりしと云ふは前述の如し此等の木材は江を下して大東滯に集むるを常とす、若し巧に之を伐出す時は北清一帶に木材を供給して餘あるべく、眞に東洋に於ける木材の一大富源となすに足るべし、其林種は既に生産物の條に於て述べたり

○漁業

韓國は半島國にして領海面積廣く且つ其東岸にはリマン寒流通するを以て水族に富めり、然れども當國には漁舟乏しく従つて漁民甚だ少なく、漁業法拙劣なるを以て、韓人の漁獲高は甚だ僅少にして漁業の利は多くは我國漁民の壟斷する所に任す

咸鏡道沿岸は最も魚族に富み、漁獲の盛なるは海參、鯨及當國の特産なる明太魚等なり、海參は本邦人の潜水器船を以て捕獲するものにして毎年三月より十一

月までを該漁期とし、五、六の兩月を以て最も盛なりとす、漁場は豆滿江口附近より江原道の江陵注文津の海面に亘れり、毎年元山港より出獵する潜水器船三十隻あり其漁額は十七萬斤價額六萬二三千圓内外に達す、鯨は韓名を青魚と云ひ、咸鏡道一帶の沿海に産すれども元山、文川、永興雄基の四灣及遮湖を主産場とす、漁期は陰曆正月より四月迄とし、専ら韓人の従事する所なりしが近來我邦の來漁者漸く増加し將來有望の業たり、明太魚は韓國の特産にして我佐渡、越後、能登附近に於て捕獲する助、藤、鱈と稱する魚の類なり、其名稱は咸鏡道、明川の漁民太氏の發見なるを以て名くと云ふ、或は、北魚とも稱す、北海に産するを以てなり、産地は咸鏡道洪原郡の遮湖までを主場とす、其延長八十五哩に及び尙ほ北明川邊にも回游すと云ふ、漁期は十一月より翌一月に至る間にして、漁季には魚群の回游すること實に濃厚にして一たび網を下せば漁獲せざることなし、或は釣を以て得たるを上太と稱し品質良好とす、捕魚は腹を開き氷雪の裏に凍氷乾燥せしむ、其上品は黃褐色、劣品は暗灰色を呈す、而して二十尾を以て一聯とし、百聯を以て一駄とし、毎年九萬駄、乃至四萬駄の漁額とす、價額は一駄六貫文乃至六貫五百文なり、明太は太祖李成桂氏好んで食せるを以て韓國に於ては、之を吉兆魚と

し主に冠婚葬祭等の儀式用に飲くべからざる物とせり

江原道沿岸に於て重要なるは鱈、鱒、鮭、海鼠、鮑等とす。就中海鼠、鱈を以て主要産とす。慶尙道沿岸に於ては鱈、鯛、海鰻を主要とし次に鰻、鮑、魚鼠とす。其漁場は鎮海灣内より延ひて南海島と全羅道左水營の海峽に及ぶ。我漁船約百隻、漁夫五百人あり。其漁額は相場の低廉なるに均らず。例へば一尺五六寸乃至七八寸の鯛取り交せ韓錢四十文、我五錢六厘一ヶ月平均一萬三千二百圓を收むと云ふ。

其外我漁民の好漁場として有名なるは濟州島沿海、群山沖の竹島及七山灘(全羅道光州)等にして此等の漁場は我漁船の群集する所なり。

「リマン」寒流に傳ふて南下する鯨の多きは著しき事實にして、咸鏡江原、慶尙三道の沿海は捕鯨の好漁場にして、捕鯨業は從來日露競争の姿なりしが、本邦人は日本遠洋漁業株式會社を組織し三隻の捕鯨船を以て従事し、明治三十五年十月より翌年六月までに百三十七頭(七十尺の巨鯨あり)を捕獲せり。其漁場は迎日沖、松島附近を主とす。露國人は汽船三隻、帆船三隻を以て一隊を成し新浦(咸鏡道)、長箭(江原道)、蔚山を根據とし三十五年十一月より翌七月までに九十六頭を捕獲せり。

○商業

朝鮮の商業は未だ頗る幼稚なる状態にあり、是れ經濟事情の不進なると、從來通貨の不便なると、交通の困難なる等に基すべし。内國商業は殆ど全く不振の状態にして國內著名の都會と稱するも店舖の見るべきものなく、商品の仕入あるもの稀なり。若し旅客一たび足を都會に入れんか茅屋累々たる一村落たるに過ぎざるを見ん、只朝鮮には定まれる市日ありて毎月二六三八四九の如き日を期して近郷より物品を齎らし來りて之を販賣すれども多くは物品の交換なり而して是によりて屋に有無互に相通せり。故に其市日には頗る雜沓繁榮すれども平日は寂寥として街上人を見ざることあり。

外國貿易は最初本邦の開發によりて之を始め、近來亦漸く諸港及び諸市を開きて互市場と定めたるを以て貿易額も漸次増進の勢なり。開港場及び開市場は左の如し

京城 <small>(開市)</small>	平壤 <small>(開市)</small>	釜山	仁川	元山	鎮南浦
城津	木浦	馬山浦	群山	龍岩浦	

以上兩開市場、九開港場とす。尙ほ左記の各地は將來開港場又は開市場として適當の地と指定せられたる地なり。

- 雄基灣(咸鏡道) 咸興(上同) 鏡城(上同) 原州(原江) 金城(上同) 鐵原(上同)
- 大邱(尙慶) 晉州(上同) 密陽(上同) 金泉(上同) 全州(全羅) 羅州(上同)
- 南平(上同) 光州(上同) 公州(忠清) 江景(上同) 忠州(上同) 水原(畿京)
- 開城(上同) 海州(海黃) 黃州(上同) 安州(安平)

此の貿易場に於ける最近(三十五年)の貿易總額は約四千三百八十萬圓にして輸入は常に輸出に超過せり、即ち四千三百八十萬圓の内、輸出額は一千八百萬圓にして輸入は二千六百萬圓に達す、重要な輸出品は米を首位とし、砂金之に次ぎ其他は大豆、牛皮、牛骨、麥、海草等なり、又輸出品の重要なものは綿糸、金巾を首とし、綿織、食鹽、陶器、燐寸、卷烟草、日本酒其他の雜貨なり

韓國貿易は日本最も優勢を占め全貿易額の六割乃至七割は日本との取引額にして、遂に清露兩國の上にある、日韓貿易も時に一進一退ありと雖も漸を追ふて發達し來れり、最近に於ては日本の貿易上より視れば我が韓國に對する貿易は第八位にあり、尤も明治三十三年頃は第四位に在りたれば日韓貿易は稍々萎靡せるが如くなるも、是れ他の諸國即ち印度、香港、獨佛の四國との貿易が著しく發達し來りて韓國貿易額を超過するに至り日韓貿易の發達が比較的以上四國の

發達よりも遅々たりしによれり、今や韓國との貿易額は我が全貿易額の三四分の間を占めつ、あり左表の如し

	三十五年	三十四年	三十三年
日韓貿易額	一八、五二、二七 <small>(圓)</small>	二一、四二、八九 <small>(圓)</small>	一八、五七、〇七 <small>(圓)</small>
日本貿易總額	五三〇、〇三、三三	五〇八、一六、一八七	四八五、三三、五九 <small>(圓)</small>
割合	三分六	四分一	三分八

而して日韓貿易と言へど其實は阪韓貿易とも稱すべく、韓國貿易は主として阪神地方の商人によりて行はる、所なり、次に各貿易場に就き其現況を記すべし

京城
京城は當國の首府にして、一大消費地なれば商業も多くは輸入に傾くは自然の勢なり、然れども此府より金地金の輸出額多きを以て此一品を以て輸入額を償ふて餘あり、京城は實に黄金の一大輸出地と云ふべし、輸入品は都人士の消費する紡績糸、金巾にして其他は雜貨なり

三十	四十	平	輸	入	輸	出	合	計
				一、一九、二〇、五九 <small>(圓)</small>		二、五三、三三、五九 <small>(圓)</small>		三、七二、五四、一八 <small>(圓)</small>

年	輸入	輸出	合計
三十五年	1,030,691		
三十六年	1,114,103		3,254,894
三十七年			

京城貿易は右表によりて年を逐ふて次第に進歩するを見ん前に述ぶるが如く輸出品は金地金を以て其多分を占むるにより京城輸出の消長は金地金にありと云ふべし、即ち三十五年に於ける總輸出額二百二十二萬餘圓の内金地金二百五萬圓を占む、故に其他品は僅々十七八萬圓に過ぎず、牛皮、牛骨、牛蠟又輸入の消長は紡績糸及金巾にありと云ふべく、總輸入額一百三萬餘圓の内紡績糸二十萬圓、金巾三十二萬圓なり、即ち此二品を以て過半を占む、其他は卷蓆、砂糖、燐寸等なり、而して京城の貿易額の八割は本邦の占むる所なり、輸入全額百三萬圓の内七十七萬圓は日本産なり、又輸出額に至りては一層日本獨占と稱すべく、全額二百二十二萬圓の内二百餘萬圓は日本に向け輸送する金地金なり、以て京城商業に本邦が深き關係を有するを知るべし

平壤は韓國第二の都會にして、北韓商業の中心地たり、互市開場以來貿易も稍増

進せんとすること左の如し

年	輸出	輸入	合計
三十四年	337,442	506,662	844,104
三十五年	489,203	424,759	913,962
三十六年			
三十七年			

輸入品の重要なるは紡績糸、木綿、金巾を主とし、次に燐寸、石油、陶器等にして輸出重要品は米、大豆を主とし、次に黍粟等なり、而して貿易は日本との間を主とす

釜山は韓國最古の貿易港にして我國とは二百年前より貿易行はれ、明治十五年外國貿易港となる、爾來貿易進歩して韓國第一の貿易額を占め、又第一の輸出港なり、其貿易額左の如し

年	輸出	輸入	合計
三十四年	610,959	489,955	1,100,914
三十五年	624,967	488,845	1,113,812

三十六年		
三十七年		

重要輸出品は米を第一とし、三十五年の總輸出額六百二十五萬圓の内、百三十五萬圓を占む。次は大豆七十五萬圓、牛皮二十二萬圓、其他干魚、海草、小麥等にして、多くは日本に向つて輸送せらるゝものにして、日本は其七割を占む。而して輸入重要品は綿織物、紡績糸、食鹽、以繩、日本酒、燐寸、卷貫等にして、是れ亦日本産品の輸入を主とす。要するに日本は輸出入合計に於て五百七十萬圓に上り、全額に對する五割二分を占む。

仁川

仁川は位置に於て首府の外港と稱すべく、京城に入る貨物は多く本港を通過す。本港は明治十六年一月の開港に係り、明治二十年來貿易業長足の進歩をなし、貿易額は釜山に一步を譲れども、輸入額の多きは韓國第一たり。近年の貿易額次表の如し。

輸	出	輸	入	合	計
---	---	---	---	---	---

三十四年	二、八〇七、五二〇	九、一二六、二四四	一一、九三三、七六四
三十五年	二、七二八、三四二	八、〇六八、〇九一	一〇、七九六、四三三
三十六年			
三十七年			

輸出品の重要な米にして、三十五年に於て百二十二萬圓を出せり、而して其六十萬圓は日本に向へり。次は大小豆、牛皮、皮類、人參等なり。又重要輸入品は金巾、木綿、絹物、紡績糸、綿絹、寒冷紗、燐寸、石油、其他の雜貨なり。而して我國は仁川貿易の輸出に於て六割二分輸入に於て五割四厘を占む。

元山

元山は咸鏡北部の貿易港にして、釜山、浦鹽兩港の中間に位するを以て、明治十三年開港以來漸次に繁榮し、韓國第三位の貿易額たり。近年の貿易額は左の如し。

輸	出	輸	入	合	計
三十四年	四、〇七四、八六四	三、一三一、九三〇	七、一九六、七九四		
三十五年	四、〇五〇、二七七	三、一八五、七八六	七、二三六、一六三		

三十一年		
三十七年		

本港は常に輸出額は輸入額に超過せり、而して日本との貿易額は三十五年に於て日本輸出額は二百七萬圓にして全額の約五割を占め、日本品の輸入額は約百萬圓にして三割餘を占む

當港より輸出する重要品は砂金百三十萬大、豆四十萬圓、米、牛皮、水産物、明太、干鰯、海參にして、砂金は本港輸出貿易の消長に關す、而して砂金の八割は日本に輸出せらる。輸入重要品は白木綿、四十五萬圓、食鹽、燐寸、紡績糸、綿糸等にして、白木綿の消長は元山輸入貿易を左右する物なり

鎮南浦

鎮南浦は大同江北岸にあり、平壤を距る三十七哩にして平壤の外港と稱すべく、明治三十年十月開港以來次第に繁榮し、既に元山に次ぎて第四位の貿易額を占むるに至れり、近年の貿易額は左の如し

輸	出	入	合	計
---	---	---	---	---

卅四年	一、二四八、九二五	一、〇四五、七三三	二、二九四、六五八
卅五年	一、七三六、八五七	二、〇一五、五九九	三、七五二、四五六
卅六年			
卅七年			

以上の如く當港の貿易は韓國中比類なき長足の進歩なり、是れ平安、黃海の多産地を控へたるを以てなり、當港の重要輸出品は専ら農産物にして三十五年に於て米百二十萬圓全輸出額の七割を占む、次は麥五十萬圓、大豆十七萬圓等なり、重要輸入品は紡績糸、二十三萬圓、燐寸、石油、陶器、卷烟草等なり、而して當港に於ける日本の貿易は全額二百八十二萬圓(三十五年)にして全額の約七割五分を占めたり、且つ日露開戦以來此の港は未曾有の繁榮雜沓を極むるに至れり

馬山浦

馬山は韓國南岸の最良灣なる鎮海灣を控へ、洛東江水路によりて南岸に出づべき捷徑に當り、將來有望の商業地たり、然れども開港口淺きを以て貿易は未だ著大ならざるも、漸次増額の趨勢あり、即ち明治三十三年の總貿易額は二十四萬圓なりしが、三十四年には三十六萬圓となり、三十五年には五十萬圓に達せり、而し

て輸入は常に輸出に超過せり
 當港より輸出する重要品は米は其首位を占め大豆、鑛石、砂石、銅之に次ぐ、輸入品は紡織糸を主とし、金巾、酒、石油、燐寸等にして殆ど皆日本との貿易額なり、當港は前述の如く好位地を占め、且つ商業的範圍即ち米、豆の産域廣く好漁場を控へたるを以て將來甚だ有望なり

木浦

木浦は榮山江口に近き右岸の突角上にあり、碇泊安全の良港なれども港口に島嶼多く航路狹隘にして潮流急なる時は入港困難なり、然れども榮山江を下る貨物集散地を占め三十年開港即下貿易盛なりしが、近年群山浦の爲めに大に商勢を殺がれたり、然れども貿易額は二百四十二萬圓(三十五年)を保てり、輸出品は榮山江流域の農産物を主とす、米は其首位を占め大豆、海草等之に次ぐ、輸入品は綿糸を首とし、次は石油、燐寸等にして多くは日本との取引に係るものなり

群山浦

群山浦は南韓の大河たる錦江の下流左岸に位し、全羅忠清の農産地域を控へ江を下り来る貨物の集まる所にして又錦江流域に外來品を配達する所たり、故に

開港以來商業は長足の進歩をなし、明治三十五年の貿易總額は三百二十五萬圓(輸入百三萬圓、輸出二百二十二萬圓)に達せり、之を明治三十年の六十二萬圓に比すれば五倍の増加なり、當港の貿易も又日本を主とし、輸入貿易の消長は一に日本産の輸入高の増減にあり、當港より輸出する主品は金地、金にして三十五年に於て二百萬圓の輸出あり、大半は日本に送らる、又輸入品の重要なるは綿糸、金巾、石油、卷烟草、燐寸等なり

城津浦

城津浦は元山以北に於ける咸鏡沿岸の貿易港にして近年の開港場なれば商業未だ盛ならず、三十五年の貿易額は五十二萬圓にして内輸出二十二萬圓、輸入は三十萬圓なり、當港の輸出品は麻布、明太、牛皮等にして、輸入品は金巾、石油、燐寸、綿糸等なり、當港の貿易は殆ど全く日本人獨占の姿なり

韓國商業及び其他の企業の將來に就き参考の爲め左の一文を掲ぐ

商業上將來に於ける見込(山脇農商務書記官)

韓人衣食住の状態を觀察するに其生活孰れも單純粗野にして殊に其住家の如きは殆ど豚舎の如く、其狹隘なる殆ど家具を容るゝの餘地なし、飲食物の如

きも極て單一にして粗食を極め唯僅に衣服類に至りて稍々観るべきの状態なり、即ち上流社會は多く絹布を用ひ下流社會は綿布を用ふ、而して綿布は主として清國より輸入し、白綿布亦近年まで清國のみの輸入に係りしと雖も近來大阪より輸入するもの逐次増加するに至れり

抑々韓人殖産の状態を遠觀するに彼等は毫も産業的能力を有せず、日夕殆ど財産賣喰の状態にして遊惰放逸勞働を厭ひ生計の状態を改善するが如き念慮に乏しく自暴自棄以て益其貧困に陥るを甘んずるもの、如し、隨て將來購買力を増進するが如きは得て望むべからざる處なりとす、是に由て之を觀るに同國に於ける貨物の需要を増進するは殆ど絶望と云はざる可からず、只僅に兩班と稱する一階級の種類の財産を有するに委せ徒に身邊を裝飾し高價なる煙草を喫し不廉なる飲酒に耽るが故に一時奢侈的需要を見ることなきに非ざるも、彼等も亦生活の状態を改善し資力を増し自然に改良を圖らんとするものに非ざるを以て到低望を將來に屬する能はず、惟ふに彼等兩班の如きも遠からずして其滅亡を見るに至るは斯かなる事實なりとす、一例を擧ぐれば吾が商品除列館に於て奢侈的貨物たる金縁眼鏡、貴金屬指環、自轉

車等の類を試に輸入せしに彼等は乍ち競うて之を購入したるが如き、全く一時の奢侈心に驅られたるものにして甚だ笑ふべきことなり、故に商業上に於ける將來の政策は僅に白木綿其他二三の日用品を供給するに過ぎずして韓國の貿易は前途甚だ遼遠のものと言はざるべからず、惟ふに韓國に於ける現下の状態と本邦に於ける人口増殖の結果とに照査して考ふるときは我對韓政策としては將來漸次殖民政策を取るの必要な状態に歸すべきは自然の趨勢なりと信す

貨幣の共通を謀る可きこと

韓國通貨の状態を見るに第一銀行一覽拂手形の流通は益其信用を厚ふし現今の通用額殆ど七八十萬圓に達し、我補助銀貨の通用するもの又少なからずと雖も、韓人に對する取引には多くの場合に於て韓國白銅貨を用ひざるべからず、然るに此白銅の相場たるや絶へず亂高下甚だしく仁川海戦の三十日以前に於て我百圓に對し韓貨二百二十元なりしもの、海戦當時には二百元に騰貴し、其後我軍の上陸と共に韓貨の需用を惹起して盛騰貴し、今日に於ては遂に百四十元に達し、一小店に就き買物をなすにも當日の韓貨相場を諸方に聞

き合せて後ち初めて賣買を完了し得るが如し、之が爲め取引上殆ど一定の標準を得る能はず、貿易上の不便實に名狀す可からず、遂に本邦人間に韓貨取引所の設置を企圖するものあるに至れり、故に此際全然我國と通貨共通の制を採用するか、若しくは一層韓錢の濫鑄を甚だしくし地金相場に依りて取引をなさしめ以て韓貨を一定の基礎に置き其亂高下を制して彼我貿易上の障害を除却するを要す、現に韓貨相場の變動は本邦商人間に在ても京城仁川其地を異にするに従つて其利害同じからず、紛争常に絶へざる所なり、例へば仁川の商人は比較的卸賣商多く且つ米穀、牛骨、大豆等韓國産物を買収する者多きを以て韓貨の騰貴は彼等の不利益とする所なるに反し、京城の商人に至ては小賣商其大部分を占め且つ高利貸を業とする者少なからざる爲め、韓貨の騰貴を彼等の利とするが如し、彼我幣制を統一にして貿易上の障害を除去するは今日に於ける急務の一たるを失はず

特種金融機關の設置

現時韓國に於ける金融機關は第一、第五十八、第十八の三銀行に過ぎず、而して此等は内地に於ける普通商業銀行にして韓國に於ける金融事業を唯一の目

的となすものに非ず、然るに今日韓國の状態は全く内地と其趣を異にし土地は居留地以外に於ては我邦人は所有權并に抵當權をも有せざるなり、抑韓國に於ては其開發すべき事業は非常に多きを以て此等事業の經營をなし以て我利權を扶殖せんと欲せば勢ひ金融機關の助勢に俟たざる可からざるなり、然るに内地と全く經濟状態を異にする韓國に於て事業を經營せんか我内地普通商業銀行の作用に訴ふるは到底不可能の事と云はざるを得ず、韓國に於ては後述するが如く農業に山林に鑛山に我邦人の設備を俟つこと極めて多くなり、而して我移民を奨励し我利權擴張するを對韓政策の主眼となすも、之を助長するの金融機關なきに於ては常に其目的を達する能はざるのみならず、爲めに政事上の勢力も又振興せしむる能はざるなり、是れ日韓銀行なる特種銀行の設備をなすは蓋し急務中の急務なり

土地所有權并に農業開發に關すること

現時韓國に於ては我邦人は條約上居留地一里以外に於ては全く所有權并に抵當權をも有せざるなり、余の未だ韓國を見ざるに當つてや土地所有權并に抵當權を保有せざる場合に於ては到底移民を奨励し農業に従事せしめ以て

農業を開發すること能はず亦如何なる金融機關も此等の事業に従事する者に貸付をなす能はざるなりとは、一般世人の唱ふる所にして余も亦深く其至當なるを信じたりき、然るに事實は豫想に反し今日所有權并に抵當權なき場合に於ても仁川、京城、在留本邦人は其居留民全體の財産殆ど見積一百五十萬圓の三分の一、即ち五十萬圓は土地に放資し殆ど所有の事實を表せり、彼の京仁鐵道の沿道各地は元より木浦、群山に於ける最上の水田の如きは殆ど本邦人の占有する所に係れり、今茲に抑も如何にして斯くの如き事實を現出するに至りたるやを研究するに、韓國に於ては最上の水田は一反歩の價格二十三元前後なるも、普通の上田に至りては僅に十六七圓を以て賣買せらるゝなり、然るに地主は白銅貨の下落の結果租税は倍加し加ふるに郡守の誅求甚だしきが爲め其負擔に堪へず、且つ放逸遊惰坐食の結果、韓人間には土地の賣買頗る盛に行はれ、殊に本邦人に抵當となし以て金錢の借入を爲さんとするは殆ど渠等普通の状態なりと云ふも不可なきなり、而して本邦人の金錢貸付の法は普通賣買價格の三分の一を貸付け、金利は月五分期限は三箇月にして期限後は抵當流れとして之を保留するは一般の状況なり、茲に奇なる現象は本

邦人は三分の一貸付に依りて抵當流の後、事實所有權を得るに及ぶも渠等韓人は其儘に放擲し其以外何等の要求をも爲さずして黙々たり、斯くの如く變則の状態によりて土地を保留すと雖も、韓人の愚なる其得たる金錢を以て利殖し資産を増加するの途を講ずるにあらず、忽ち衣食住の用に費消し盡すが故に買戻しの念慮は當初より毫も有せざるなり、且つ又郡守も日本人の之に關係ありと認むるときは多少遠慮するの氣味あるが故に、土地抵當に就て争を生ずる場合は實際上殆どなしと云ふも可なり、故に我邦人の保留する抵當權は事實所有權を有すると毫も軒輊あらざるなり、又斯くの如き變則の状態を危険なりと思惟せば收穫を抵當とし貸付をなすも可なり、故に今日一步を進め條約上土地に所有權を得るに至らば最も妙ならんも、事他外國に關するの障害あらば現状の儘維持するも可なり、要は前次述べし如く特別銀行の設備をなし、是等土地に貸付をなす者に對し再貸付をなし、以て其土地を實際上把持するもの、増加を奨励せざるべからず、又一步を進め假令ひ貸付資金なしと雖も、農民移住し、其耕作に従事するに於ては、其收穫を増加するが故に韓人は喜んで之を委託し、收穫増加部分の分配を契約するが如く

適宜利益を收むるの方法も亦なきにあらず、今日韓國の水田は一般に肥沃にして彼等は一回の施肥をなすにあらず、又一回の耕鋤をなすにあらず、而も平均毎反八斗の收穫を見るが如きの状態なるが故に、我農民が移住し多少の注意をなすに於ては毎反一石五斗を得ること易々たるべしと信ず

茲に一の注意すべきの點あり、既に前に述べたるが如く日本人は韓國居留地一里以外に於ては土地の所有權を有せざるが爲め、今日に於ける事實上の所有は殆ど穩密の間に存するものなるのみならず、此等事實上の所有者は敢て農民の移殖し之を耕作するにあらず、又敢て農藝の改善を謀るにあらずして、唯投下せる資本に對し一定の利廻を得るを事とするに過ぎず、從て彼等は唯土地を事實上所有するに止まり、韓國農業の開發に毫も貢獻する所なし、斯くの如きは甚だ悲むべきの現象にして遂には韓人の信用を失するに至るべく、我終局の目的に乖戻するの虞なきにあらず、故に向後土地所有の事實を獲得すると同時に盛に農民を移殖し以て韓國農業を開發し、實利を増殖する眞正なる目的の爲め土地に對する投資に吝ならざる人士を獎勵すること今日の急務なりとす

山林の制度を設くべきこと

今韓國の山林の状態を見るに殆ど荒廢の極に達し、爲めに年々水害汎濫土地の荒廢を來すこと實に夥しく、河川は縦横に田間を流れ、今日の水田明日の河底たるを期す可からざるなり、然るに山林の如きは韓人濫突使用の爲め之を濫伐するに拘らず、濬かずして一面の小松繁茂し都會を去る稍遠くして伐截稍や頻繁ならざる所に於ては一面の小松繁生せるなり、故に若し一定の年限間伐截を禁せんか數十年を出でずして翁鬱たる山林を見るに至ること蓋し疑を容れず、從て洪水汎濫土地荒廢の患を除去するを得べし、山林制度設置の要亦急ならずや

鑛山採掘權を收得すること

韓國の金鑛に富裕なるは既に世の認むる所なるを以て、各國は之が採掘權を得るに汲々たるの状態なり、而して是等金鑛の若し夫れ資力に富み經驗を有せる外人の手裡に歸せんか、例へば雲山金鑛の如き米國人是れが採掘權を收得し以て事業の經營に従事せり、米人は是等の地方を以て全く地外法權の狀を現出し、非常なる計畫を以て之が採掘に従事せり、爾て本邦人の收得せる金

山を見んか資力乏しきが故に經營從て大なる能はざるが爲め利潤を得る能はず、幸に得たる権利も遂に之を放棄するの止むを得ざる状態に陥れり、而して唯第一銀行の砂金買収に従事するのみに止まれり、是に於てか資力に富める外人の手裡に歸せざるに先ち、前述せしが如き日韓銀行に由り此等の事業に投資し、大なる計畫に由りて採掘するの途を講せざるべからず

漁業移住獎勵のこと

韓國沿岸の漁族に富めるは夙に世人の唱導する所にして茲に記するの要なきなり、而して移住民の獎勵及び其他の方法に由り沿岸に漁民の移住を促し以て其之が利権を占有するは今日に於て比較的易々たるの事なり、斯くの如きは獨り利権占有に必要なのみならず、我國力の扶殖上著大なる効果あるは明なる所なり

政治

現韓廷は西曆一千三百九十二年太祖康獻王李成桂咸興府より起りて全國を統一して建設せるものなり、國政は君主專制にして皇帝の權威は殆ど無制限なし、現皇帝は名は李熙始めの名は李載晃と稱し李朝第二十六世の主なり、開國四百

六十二年嘉永五年七月を以て生る、大院君の第二子なり、母は閔氏驪興なり、西曆一千八百六十四年先王哲宗英孝王崩して繼嗣なし、群臣之を雲峴宮に迎へて位に即かしむ、時に年十三、閔致録の女を立て妃とす、是れ即ち故の閔后なり、一千八百七十四年(明治八年)皇太子生る、後閔台鎬の女を内れて皇太子の妃とす、一千八百七十八年(明治十一年)義和宮に生る、

一千八百九十八年(明治三十一年)大韓國國制を發布す、其要に曰く大韓國は世界萬國の公認したる自主獨立の帝國にして萬世に亙りて變せざる專制政治なり、大皇帝は無限の君權を享有する自立政權なり云々、而して開國五百五年を以て建陽元年と改む、今又年號を光武と改む

中央政治の組織は數々變革し所謂朝令暮改の弊あり、現時の政治機關組織は韓國政治の主腦を議政府と稱し、議政一人各部の七大臣及贊政五人參政一人を以て議政府を組織し、官房總務の二局議政府に屬す、而して其下に七部ありて庶政を分掌す、七部及其所屬局は次の如し、外部官房、交渉通商の三局、内部官房、地方土木、版籍、衛生、會計の六局、度支部、官房、司稅、司計、出納、會計、庶務の六局、軍部、官房、砲工、經理、軍法、醫務の五局、法部、官房、司理、法務、會計の四局、學部、官房、學務、編輯の三局、農

商工部、官房、農務、通信、商工、鑛山、會計の六局各部は大臣ありて之を總裁し、其下に協辦、局長、參書官、秘書官、主事其他の官吏あり。其外大闕内の事を司るを宮内府と云ふ、又中樞院ありて議政府に屬し、其組織は議長、議官、參事官、主事等を以て成る、何れも國家に功勞あり、又は政治法律理財に通曉する者を舉げて之に任す、其職掌は法律、勅令案を審議し各部の上奏案、人民の建議等を審査議定する所とす、其他平理院、裁判所、禮式院、鐵道院、通信院、平式院(度量衡)等あり、政府内部の情況は左の韓國通某顧問の演說の一節により察し得べし。

馬關條約以來の實相で表面は如何にも立派な獨立國であるが其實は支那の屬國たりし當時より一層非常な干渉を受けたのであります、内政も亦然り議政府、議政、參政、各國務大臣より成るあり、協辦、次官あり各局長ありて行政を形造り其他裁判の制度と云ひ表面の制度は我國の組織と格別變つた事もなく誠に立派でありますけれども、裏面に入つて見ますと

議政大臣は儀式的の置物、議政大臣は實權よりか家柄を尊ぶので何か發議する者があつても其席に一番立派な家柄の者が連らなければ議式

は濟まぬのであります、丁度議政府で會議をして陛下に上奏するのはお祭の時に祭主が居なければお祭が擧らぬと同様にドンナ場合でも家柄の人が興かり家柄の人が之を上奏すると云ふ例になつて居ます、それから郡主とか觀察使とか云へば誠に立派であるが是れも其裏面を窺へば金を儲ける爲めに金で買て任に赴くので、其官を受ける望みのある者には人が又金を貸します、表裏は何處にもあるけれども此の如く表裏の變つて居る處は恐らく世界中に比類があるまいと思ふ、何故人民が黙つて居るかと云ふのはモ一人民は雪隠詰めに遇つて啗しく云へば直ぐ牢に入れられるから泣寢入になつて居るのであります

地方制、地方制度は建陽元年(明治三十二年)全國を十三道に分ち各道に觀察使、或は監司と云ふを置きて之を治めしむ、道は更に三百四十一郡に區分す、郡の行政を司るを郡守と云ふ、又廣州、開城、江華、仁川、東萊、釜山、德源、元山、慶興、三和、鎮南浦、務安、木浦の九所は特に府と稱し、府尹を置きて之を治めしむ、濟州島には牧使を置く、各開港場には外部の下に監理なる者を置きて行政事務を司らしむ、京城は別に特立し、漢城判尹を置きて治めしむ。

朝鮮には古來自治制能く發達し郡の下には我市町村に比すべき面洞里の三階級あり。面は二千乃至七八百戸、洞は八百乃至五六戸より成り、面に面長或は風憲、檢督とも云ふ。洞に尊位或は執綱、上楔とも云ふ。里に所任或は里任ありて、其長は何れも人民の公擧より成る多くは名譽職なり。

各道に於ける主都觀察使の駐在地及其管轄を擧ぐれば左の如し

京畿道	水原	四府三十四郡
忠清北道	忠州	十七郡
忠清南道	公州	三十七郡
全羅北道	全州	二十六郡
全羅南道	光州	一牧一府三十三郡
慶尙北道	大邱	四十一郡
慶尙南道	晉州	一府二十九郡
黃海道	海州	二十三郡
平安北道	寧邊	二十一郡
平安南道	平壤	一府二十二郡

江原道

春川

二十六郡

咸鏡北道

鏡城

一府九郡

咸鏡南道

咸興

一府十三郡

裁判所は各地に地方裁判所ありて、民事事を裁判し、京城及各開港市場には別に外國人に關係ある民事事を裁判する所あり、以上の裁判に不服なる時は之を平理院に控訴することを得、又皇族の犯罪に關する裁判所を特別法院と云ふ、刑罰法は從來慘酷を極めしが、建陽元年刑律各例及賊盜處斷令を定め、少しく蠻風を改めたり、警察、司獄の内情に就き、韓國通は又其左の如く言へり

巡查も亦然り、法律上から云ひますと相當の手續を経なければ人を拘引することとも出來ず勿論牢に入れることは出來ぬのですけれども、それは表面のこととて裏面を見ると、髓分一寸來いを極められて牢屋に入れられると金輪際浮む瀬はない、散々警視廳で絞られた揚句裁判所に引渡すと其處で亦何個月間か或は何年間か獄屋に繋がれて、此處でも亦苛められソレから仕舞に民律の何篇何項に依て擬律すと云ふて上奏する、所で陛下が其奏聞に對し其通り實行せよと云はれます、其間が中々長い此長い間に餘程いろい

ろの事が行はれるものと見えますと云ふやうな譯で、其人が牢から出されて来る時分にはドンナ財産家でも乞食にならねばならぬと云ふ有様併し未だ命を取られないのが儲け物であると云ふて悦ぶと云ふ状態であります

軍制 韓國の軍制は上に元帥府ありて皇帝は軍機を總攬し陸海軍を統領する大元帥にして、皇太子之が元帥たり、而して兵丁募集の法は我が明治卅五年十一月詔勅を發して義務兵役の基礎を立てたれども、戸籍の不整理なる爲め未だ其實行を見る能はず、依然雇兵の法にして其給料は一人一ヶ月五六元なり、又兵役年齢も一定の範圍を定めたれども實際は不規則にして十四歳より四五十歳の間にあり韓國通は又兵役の裏面に就き左の如く言へり

兵隊株の賣買 兵制は外觀は立派であるが其實朝鮮の兵隊は月に六圓五十錢の雇兵で仕着せも賄も向ふ持で別に働く譯でもなく、只遊んで居るのですから中々好む株です、好む株ですから買人も多ひ、買人が多ひから三十圓や四十圓には賣れます、ソレで兵隊株の賣買は中々頻繁で其兵隊の屬して居る所の隊の士官即ち小隊長、中隊長、聯隊長に至るまで所謂株の賣買か

ら生ずる利益でズット潤ふて行くです云々

陸軍は侍衛聯隊、親衛聯隊、扈衛聯隊、砲兵隊、平壤隊、鎮衛聯隊の六に別つ、其外騎工輜重隊の特科隊を置く規定なり、侍衛親衛の兩聯隊は我が近衛に同じく各一個聯隊人員各三千人あり、扈衛隊は専ら宮中の警備に任ずる我が皇宮警察に似たり、人員約二百人なり、平壤大隊は二個大隊人員二千より成り、中一個大隊は京城に、殘部は平壤に在り、鎮衛隊は各地方に駐屯する韓國の主力にして五個聯隊一個大隊あり此聯隊も其編成は他の聯隊と同じく一個聯隊は三個大隊より成り、一個大隊の人員約一千人なり、而して其駐屯所は鎮衛第一聯隊は京畿道の江華を本營とし、仁川、黃州に各一大隊を分屯せしむ、第二聯隊は同道水原を本營とし、清州、全州に各一大隊を分屯せしむ、第三聯隊の本營は慶尙北道の大邱にして鎮南、蔚山に各一大隊を置く、第四聯隊の本營は平安南道の平壤にありて義州、江界に各一大隊を分屯せしむ、第五聯隊の本營は咸鏡南道の北青にして德源、鐘城に、各一大隊を置く、兵員の總計は約二萬七千人あり、軍費約二百萬元を要す

武官は大將、副將、參將、以上將官、正領、副領、參領、以上佐官、正尉、副尉、參尉、以上尉官の各階級に區別す

陸軍將校の養成は京城に士官學校あり、校長は參將之に任じ、教頭以下教官十數人あり、中には日本に於て軍事教育を受けたる者及露國的教育を受けたるものとあり、修業年限は三箇年にして、每期約三百人の卒業生を出す豫定なれども、卒業生の總てに職を授くるに至らず。

韓國の海軍は未だ建設するに至らず、古より水軍の名ありて、水軍統禦使等の官名設ありたれども、殆ど名義のみなり、近來勅令を以て全國府郡に要塞を設け海岸に砲臺を備へ、海口を防守するの件を規定せられたれども、未だ實際に設備するに至らず。

財政

韓國の財政は其基礎未だ確定せず、財政機關は度支部の專屬にあらずして、外國人監督の下にある有力なる税關に於て財政を支配せり、而して光武八年度(明治十七年)に於ける政府の歳入は租税一千四百〇一萬四千五百七十三元、雜收入二十萬元にして、一元は時價により不同なれども、近來は白銅補助貨濫發の爲め頗る下落して、約我二十錢に値す。歳出經常費の主なるものは皇室費百〇一萬元、内部九十九萬元、軍部五百十八萬元、度支部二百七十四萬元、通信院六十四萬元等に、し

て其他は總て五十萬元以下なり、試に之を表示すれば左の如し(外に歳出臨時費六十四萬元あり)

宮内所	三十三萬元	耆老所	二萬八千元
元帥府	八萬七千元	議政府	六萬一千元
外務部	二十九萬元	法務部	六萬三千元
警務廳	四十一萬元	學部	二十一元萬
農商工部	五萬一千元	中樞院	一萬九千元
扈衛隊	八萬二千元	歳出總計	一千二百十九萬一千元

歳入部の主なるは地稅四百五十萬元、港稅百萬元等にして、其他五十萬元に及ぶ。税源なし、特に地稅は韓國歳入の三分の一に居る(日本は地稅總額五千參百萬圓、總歳入貳億八千貳百四十萬圓)。韓國の通貨は從來葉錢と稱し一文錢五文錢の二種のみなりしが、新式貨幣發行章程により五兩銀貨(我圓銀に同じ)一兩銀貨(我廿錢)二錢五分白銅貨(我五錢)白銅貨五分赤銅貨(我一錢)銅貨五文赤銅貨(我五厘)銅貨二分黃銅貨(我二厘)に當るの六種を鑄造せり、而して五兩銀貨を本位とすれども、正貨準備常に缺乏せり、其計算法は最低位を分とし十分を錢とし十錢を兩とす(兩は後に元と改む)我國の貨幣は

頗る信用ありて韓人の間には自國貨幣よりも好んで、我貨幣を受取るの風ありて、日本銀行兌換紙幣、第一銀行手形及軍事手形の如きも甚だ信用あり、我貨幣の韓國に通用するは舊圓銀及各種の補助貨幣にして清國貨幣、墨西哥其弗も通用す

對外事情

抑、韓國は其位置、強大帝國の間に介立するを以て常に其隣邦強盛國の勢力範圍に籠絡せられ其鼻息を覗ふて國事を爲すを常とす、是れ則ち有名なる朝鮮の事大主義にして國家の事總て自國自己を捨て、他の強大國に事へて其歡心を失はざらんことを務むるは韓國の先天的國是とも謂ふべし、故に古より或時は支那に事へ、或時は日本に事へたること一再にして足らず、現李朝以來の事蹟に徴すれば當初太祖の高麗を亡して王位を踐むや、明朝之を以て王位篡奪となせしを以て、太祖即ち奏聞使を支那に遣はして其意を辨明して漸く明朝の納る、所となり、爾來支那の附庸國を以て遇せられ、又自ら之に甘せり、豐太閤征韓の時、明の援助によりて僅に滅亡を免れたるにより深く明を徳とし殆んど之に臣事す、清明廷を亡すに及びて再び清に誓ふて其正朔を奉じ、歲時貢獻を致すべきを以てす、然るに其後清國は内憂外患漸く繁多なるを以て復た韓國を屬邦視するの

餘裕なく、清廷は遂に外國に對し朝鮮は曾て中國の附庸たりしも今は中國の屬邦にあらずと聲明するに至れり、我國は朝鮮を初より獨立國を以て待遇し、切に其開發を獎勵し、明治九年二月遂に朝鮮を促して日韓修好條規を締結し、首として朝鮮を以て自主の邦にして日本國と平等の權を有することを宣言し、貿易港を開かしめ著々歩を進めて米、英、露其他の邦も亦此例に依らしむ、然るに清廷は之を快からずとなし再び半島の事に干涉を試み、公使袁世凱を遣はし陰に陽に日本の半島に對する事業に妨害を試み、韓廷を煽動して數々我邦に無禮を加へしが、其結果として天津條約なるものを結び、日清の半島に對する態度を規定せるに拘らず、清廷尙ほ韓廷に對する干涉を絶たざるを以て、遂に明治二十七八年日清の役を惹起するに至れり、其顛末は清國に對する宣戰詔勅に明白なり、然るに我軍大勝後は清國は前非を悔いて朝鮮を以て全く獨立國たることを是認し、韓廷も亦清國の干涉を却け一に我國に依頼し、國政も亦我が井上馨公使の力によりて専ら我制度に準して革新せり、既にして三浦梧樓公使となる、是より先き露國漸く韓半島に著目し、公使ウエバーを遣はして半島の事を經營せしむ、乙未事變(明治二十八年閏后横死事變)に乗じて露國公使大に手腕を振ひて其勢力を扶

植せんとし、遂に國王を誘致して其公使館に留むること約一年、此間勅令一に露國公使館より出づるの奇觀となり、盛に日本黨の大官を殺して専ら露國黨を任用し、軍隊の訓練も日本式を改めて一に露國式とし、露國崇拜時代となりしが、露國公使更任等に續きて所謂日露協商等の成立により、露國の政策も専ら滿洲經路に傾き、漸く其手を半島より引くに至れり、最近に至りウエバー露國特使として再び來任し其手腕を振ふを以て露國黨非常に勢力を得て、韓廷の大臣悉く其黨員を以て組織し、他の黨人は全く屏息するの止むを得ざるに至りしが、日露戰役後は復た日本黨内閣を組織するに至れり、抑韓半島が日本の側面に横はりて大陸との保障たることは本邦の存立上最も重要なるものにして、是を以て或は朝鮮は日本の藩屏國 (Buffer State) と云ひ、或は大陸との緩衝地と稱す、特に古來歴史上最も親密にして、我國の對韓政策は神功皇后以來或は其以前より現今まで宿題となりて存したり、凡そ我國が外國と事を構ふるに至る、導火線は常に概ね此の半島に係れり、近くは明治二十七八年清國と交戦の止むべからざるに至りしも、全く此半島問題たることは當時清國に對する宣戰詔勅によりて明白なり、左に之を捧掲す。

天佑ヲ保全シ、萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル、大日本帝國皇帝ハ忠實勇武ナル汝有乘ニ示ス、朕茲ニ清國ニ對シテ戰ヲ宣ス、

朕ガ百僚有司ハ宜シク朕ノ意ヲ體シ、陸上ニ海面ニ清國ニ對シテ交戦ノ事ニ從ヒ、以テ國家ノ目的ヲ達スルニ努力スベシ、苟モ國際法ニ戻ラザル限り、各權能ニ應ジテ一切ノ手段ヲ盡スニ於テ、必ズ遺漏ナカラムコトヲ期セヨ、惟フニ朕ガ即位以來茲ニ二十有餘年、文明ノ化ヲ平和ノ治ニ求メ、事ヲ外國ニ構フルノ極メテ不可ナルヲ信ジ、有司ヲシテ常ニ友邦ノ誼ヲ篤クスルニ努力セシメ、幸ニ列國ノ交際ハ年ヲ遂フテ親密ヲ加フ、何ゾ料ラム清國ノ朝鮮事件ニ於ケル、我ニ對シテ著々鄰交ニ戻リ、信義ヲ失スルノ擧ニ出ムトハ、朝鮮ハ帝國カ其始メニ啓誘シテ、列國ノ伍伴ニ就カシメタル獨立ノ一國タリ、而シテ清國ハ毎ニ自ラ朝鮮ヲ以テ屬邦ト稱シ、陰ニ陽ニ其内政ニ干涉シ、其内亂アルニ於テ口ヲ屬邦ノ極難ニ藉キ、兵ヲ朝鮮ニ出シタリ、朕ハ明治十五年ノ條約ニ依リ、兵ヲ出シテ變ニ備ヘシメ、更ニ朝鮮ヲシテ禍亂ヲ永遠ニ免レ、治安ヲ將來ニ保タシメ、以テ東洋全局ノ平和ヲ維持セムト欲シ、先ツ清國ニ告クルニ協同事ニ從ハムコトヲ以テシタルニ、清國ハ翻テ種々ノ辭柄ヲ設ケ之

ヲ拒ミタリ。帝國ハ是ニ於テ朝鮮ニ勸ムルニ其稅政ヲ改革シ内ハ治安ノ基ヲ堅クシ外ハ獨立國ノ權義ヲ全クセムコトヲ以テシタルニ朝鮮ハ既ニ之ヲ肯諾シタルモ、清國ハ始終陰ニ居テ百方其目的ヲ妨碍シ剩ヘ辭ヲ左右ニ托シ時機ヲ緩ニシ以テ其水陸ノ兵備ヲ整ヘ一旦成ルヲ告ルヤ直ニ其力ヲ以テ其欲望ヲ達セムトシ更ニ大兵ヲ韓土ニ派シ我艦ヲ韓海ニ要撃シ殆ント妄狀ヲ極メタリ。則チ清國ノ計圖タル明カニ朝鮮國治安ノ責ヲシテ歸スル所アラサラシメ、帝國カ率先シテ之ヲ諸獨立國ノ列ニ伍セシメタル朝鮮ノ地位ハ之ヲ表示スルノ條約ト共ニ之ヲ蒙味ニ付シ、以テ帝國ノ權利々益ヲ損傷シ、以テ東洋ノ平和ヲシテ永ク擔保ナカラシムルニ存スルヤ疑フ可ラズ。然々其爲ス所ニ就テ、深ク其謀計ノ存スル所ヲ揣ルニ、實ニ始メヨリ平和ヲ犧牲トシテ其ノ非望ヲ遂ケムトスルモノト謂ハザルベカラズ事既ニ茲ニ至ル朕平和ト相終始シテ以テ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚スルニ專ラナリト雖、亦公ニ戰ヲ宣セサルヲ得サルナリ。汝有衆ノ忠實勇武ニ倚賴シ、速カニ平和ヲ永遠ニ克復シ、以テ帝國ノ光榮ヲ全クセムコトヲ期ス。

然して事終局を告ぐるや三十三年北清に事變あり、露國は種々の口實の下に滿

洲を占領して清國へ還付せず、而して盛に軍事的設計を施し、永久併呑の意明になりたり。若し滿洲にして露國に併呑せられんか、韓國の領土保全亦望むべからず、從て我國の獨立を危くするを以て、我國は屢露國に對し善意的の交渉を重ねたるも、露國の到底之に應ずる意なきを以て、遂に露國と交戰の止むべからざるに至れり、其事情は亦露國に對する宣戰詔勅に明白なるを以て左に捧掲す

(前略)

帝國ノ重ヲ韓國ノ保全ニ置クヤ一日ノ故ニ非ズ、是レ兩國累世ノ關係ニ因ルノミナラズ、韓國ノ存亡ハ實ニ帝國安危ノ繫ル所タレバナリ、然ルニ露國ハ其ノ清國トノ明約及列國ニ對スル累次ノ宣言ニ拘ハラズ、依然滿洲ニ占據シ益益其地歩ヲ鞏固ニシテ終ニ之レヲ併呑セントス、若シ滿洲ニシテ露國ノ領有ニ歸センカ、韓國ノ保全ハ支持スルニ由テ時局ヲ解決シ以テ平和ヲ恒久ニ維持ス、故ニ朕ハ此機ニ際シ切ニ妥協ニ由テ時局ヲ解決シ以テ平和ヲ恒久ニ維持セムコトヲ期シ、有司ヲシテ露國ニ提議シ半歲ノ久シキニ亘リテ屢次折衝ヲ重ネシメタルモ、露國ハ一モ交讓ノ精神ヲ以テ之ヲ迎ヘズ、曠日彌久徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメ、陽ニ平和ヲ唱道シ陰ニ海陸ノ軍備ヲ増大シ以テ我ヲ屈

從セシメントス、凡ソ露國ガ始ヨリ平和ヲ好愛スルノ誠意ナルモノ毫モ認ムルニ由ナシ、露國ハ既ニ帝國ノ提議ヲ容レズ、韓國ノ安全ハ方ニ危急ニ瀕シ、帝國ノ國利ハ將ニ侵迫セラレムトス、事既ニ茲ニ至ル帝國ガ平和ノ交渉ニ依リ求メシトシタル將來ノ保障ハ今日之ヲ旗鼓ノ間ニ求ムルノ外ナシ、朕ハ汝有衆ノ忠實勇武ナルニ倚賴シ、速ニ平和ヲ永遠ニ克復シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全センコトヲ期ス

然るに我國の海軍は交戦の即下仁川旅順の兩所に於て露國艦隊を攻撃して大捷を得、特に仁川港に在りし露艦「ワリヤーク」^{ワリヤーク}「コーレツ」の兩隻を滅沈し、我が陸兵直に該港より上陸して速に京城に入りたるを以て、從來露國の壓迫を受けたる韓國は全力を傾注して我國に好意を表し、茲に日韓國防同盟の締結を見るに至り、久しく宿題たりし我國の對韓政策確立して、永年の疑問解決せられ、韓國は我國の指導の下に國運の發展をなすに至れり、左に日韓國防同盟議定書を掲ぐべし。

議定書

大日本帝國皇帝陛下ノ特命全權公使林權助及大韓帝國皇帝陛下ノ外部大臣

臨時署理陸軍參將李址鎔ハ各相當ノ委任ヲ受ケ左ノ條款ヲ協定ス

第一條 日韓兩帝國間ニ恒久不易ノ親交ヲ保持シ東洋ノ平和ヲ確立スル爲メ大韓帝國政府ハ大日本帝國政府ヲ確認シ施政ノ改善ニ關シ其忠告ヲ容ル、コト

第二條 大日本帝國政府ハ大韓帝國ノ皇室ヲ確實ナル親誼ヲ以テ安全康寧ナラシムルコト

第三條 大日本帝國政府ハ大韓帝國ノ獨立及領土保全ヲ確實ニ保障スルコト

第四條 第三國ノ侵害ニ依リ若クハ内亂ノ爲メ大韓帝國ノ皇室ノ安寧或ハ領土ノ保全ニ危險アル場合ハ大日本帝國政府ハ速ニ臨機必要ノ措置ヲ取ルベシ而シテ大韓帝國政府ハ右大日本帝國政府ノ行動ヲ容易ナラシムルタメ十分便宜ヲ與フルコト

第五條 兩國政府ハ相互ノ承認ヲ經ズシテ後來本協約ノ主意ニ違反スベキ協約ヲ第三國トノ間ニ訂立スルコトヲ得ザルコト

第六條 本協約ニ關聯スル未悉ノ細條ハ大日本帝國代表者ト大韓帝國外部

大臣トノ間ニ臨機協定スルコト

明治三十七年二月廿三日

日本帝國特命全權公使

林 權 助

光武八年二月廿三日

韓國外部大臣臨時署理

李 址 鎔

以上陳述せるが如き韓國に於ける外國勢力の消長は常に軍隊訓練式の改革によりて代表せらる。抑朝鮮の歐州式軍隊は明治十四年の頃専ら我國に依頼せる時我掘本(禮造)中尉の下に日本式の訓練を受けしを以て嚆矢とす。十五年の事變後清國の新勢力進張するに及んで支那式の訓練となり。十八年の天津條約の後は米國式に改め、日清戰爭以來は更に日本式の訓練となり。乙未事變以來は露國式の訓練と變じ、露國の引退以來は又々漸く日本式に復せんとす。即ち最近二十年間に六度軍隊の訓練式を改めしが如く、半島の事大主義も之に隨從して政策常に變革せり。

韓國の外交以來韓廷の有力家として事に當り或は國事に仆れ或は尙ほ現存する人物を擧ぐれば左の如し。

閔皇后(故閔致録の女年十六大院君夫人(即皇帝の生母)の推選により入りて王妃となる。而かも大院君と好からず性精悍書史に通じ好んで政治に容喙す。明治二十八年十月八日の變に薨去)

大院君(現皇帝の生父一時は攝政となりて韓廷の政權を握れり、屢機に投じて王位に登らんとし。明治十七年の變に清國の南陽及保定に幽囚せらる。後歸りて。明治二十七年再び其手腕を振ひしが。明治二十九年薨去)

義和宮(韓帝の寵姫張氏の出。明治十一年生る。曾て閔后の妬を受け城外の民舎に幽閉せらる。明治二十五年一月王子に冊立せらる。今米國に客遊す)

閔升鎬(閔后の兄大院君の隱退、皇帝の親政を主張せし人なり。一日大院君贈る所の一宮を開く其宮爆然破裂して死す)

李載先(大院君の妾腹の長男にして現皇帝の異母兄。明治十四年十二月守舊派の首領となりて不軌を企て事露れて藥死す。是より守舊派大に衰へ日本派(開化派)の勢力盛なり)

閔台鎬(支那黨。明治十七年の變に横死。現皇太子妃の父)

朴泳孝(大院君の變に特派大使として日本に謝罪の爲來朝。爾來日本黨の主領た

り、明治二十八年の變以來日本に客遊す
金玉均(大院君の變に謝罪副使、日本黨の領袖たり、二十七年五月反對黨の爲め米國に於て暗殺せらる)

閔泳翊(閔台鎬の子、現皇太子妃の兄、明治十七年の變に斃る)

趙寧夏(開國論者、後支那黨先王哲宗の崩に遭ひ王位の候補者に上る、十七年の變に横死)

金宏集(明治十五年の大院君の變に全權として花房公使と濟物浦條約を締結す、外務督辦たり)

金駒秀(明治九年使節として日本に來り始めて修好條規を盟締す)

洪英植(日本黨の領袖、明治十七年の改革に右議政たり)

李載元(明治十七年の改革に左議政たり、明治三十七年二月の革新に法部大臣兼宮内大臣たり)

閔奎鎬(明治七年我征韓論時代の執政者たり)

朴定陽(明治七年閔后の密使となり日本の態度を探り開國論を主張す、一時領議政となり、明治三十七年二月の革新に學部大臣たり)

朴齊純(明治三十四年軍部大臣、日露の間に滿洲問題交渉の當時駐清公使たり、明治三十七年二月の革新に外部大臣たり)

李址鎔(明治三十四年宮内大臣、副將、明治三十七年二月の革新に外部大臣署理兼憲兵司令官三十七年四月大使として來朝す)

尹雄烈(明治三十七年二月の革新に軍部大臣兼大藏院卿たり)

李道宰(明治三十七年二月の革新に度支大臣たり)

趙秉淳(明治三十七年二月の革新に内部大臣たり)

權在衡(明治三十四年農商工部大臣、明治三十七年二月の革新に農工商部大臣たり)

李容翊、李根澤、吉泳、朱(以上三名は親露主義の領主にして各々大臣たりしが、明治三十七年二月の革新に免黜せられて李容翊は日本に來遊せり)

處誌

韓國は政治區畫たる各道の外、自然の地形に隨ひ二三道を合稱して別名を唱ふることあり、中央部たる京畿道以南の三道即ち忠清—全羅—慶尙の三道を總稱して三南と云ひ、或は湖南と概稱することあり、又咸鏡—江原の兩道は京畿道よ

り山脈を踰へて東北に當るを以て關東或は關北と總稱す
 古昔朝鮮の各地に割據せし古國を知り置くことも亦處誌を學ぶ上に必要なり、
 其主なるものを擧ぐれば百濟は主として今の忠清全羅南道に割據し、新羅は慶
 尙道を本據となしたり、上古國を建てたる高句麗は平安、黃海の兩道に占據した
 り、左に各道に就き主要なる各地點の概要を記述すべし

京畿道

京城

京城(或漢陽又漢城)韓人は通常都と稱す、韓國の主府にして宮殿及中央政府の所
 在地にして殆ど半島の中央なる北緯三十七度三十分、東經百二十七度四分に位
 す、此府は今を距る凡そ八百年前即ち高麗の肅宗元年(西曆一千九十九年)都を此
 地にトし南京と名け尋で現朝の太祖康獻王李成桂、高麗王を滅し西曆一千三百
 九十二年朝鮮王位に即くや時柳觀なる者の漢陽之形勢土地道理水路與松都相
 若、以民心觀之、則漢陽なる建議を容れ其翌々年高麗朝の舊都なる松都(開城府)よ
 り此地に移りて都を經營せり、現今人口約二十萬ありて、市街は漢江の北畔と西
 江の間に挾まり、周圍連峰を以て繞らし實に東洋的封建時代に於ける防禦的都

を代表せり、即ち北に白岳山の連峯市街を壓し、南に鬱蒼たる木覓山横はり、東に
 駱駝山、天藏山、拜峯山等相聳へ、西に仁王山、白蓮山、蓮華山等簇立して天然の障壁
 をなし、只西南の一方のみ開けて黃海に瀕せり、其沿岸の仁川港へは七十五里(日
 本里程四里十六丁)ありて京仁鐵道(四十五軒)此間を通ず、京城は實に半島要扼の
 區たり。

京城の市街は東西三軒餘、南北約三軒ありて、其廣袤我が名古屋市と殆んど其市
 域を同ふす、市街の周圍は胸壁を備へ其延長十八軒、高約三米あり、又八個所に城
 門を設く、高三十尺、乃ち五十尺、厚二十尺内外にして疊むに悉く切石を以てし、鐵
 扉を以て其門を開閉す、崇禮門(南大門)與仁之門(東大門)、敦義門(西大門)、光熙門(水口
 門)、彰義門(北門)、東化門、東小門、照義門(西小門)、肅靖門(此門は白岳の稍中腹にありて
 平素開かず)等是れなり、崇禮、與仁之の二門は殊に壯大堅牢なり、孰れも夜中は閉
 鎖して市民の出入を嚴禁す

市内を東西南北中の五署に區劃し、東署には七坊四十三契、西署は九坊九十一契、
 南署は十一坊七十一契、北署は十二坊四十四契、中署は八坊九十一契あり、即ち通
 計五署四十七坊三百四十契に細分せり、署は日本の區と云ふに同しく坊は條(京

都或は通り(東京)と云ふに當り、契は町に當る。此の如く區劃整然道路は稍平坦なれども城外は不潔不規則にして毫も修理を加へず、王宮たる景福宮は市の北西部にあり其外廓は四軒餘にして壘壁の高四米餘あり、其周圍には河水を引き幅約四米の塹濠を通し、光化門(南)振武門(北)建春門(東)迎春門(西)等四個所に宮門を設く、光化門は其正門にして門前の大街の左右には官衙、公署、及貴族の邸宅軒を連ねて建てり、又此宮の南方なる貞洞の西南隅には明治三十年新に經營せる慶運宮あり、此宮は皇帝會て明治二十九年二月十一日露國公使館に幸し風釐を駐められしこと一歲遂に再び景福宮に還御せられずして新に建築せられし新宮闕なりしが、明治三十七年七月恰も日露戰爭中一夜火を失し其大半を烏有に歸せり、慶運宮の周圍には英、露、佛、米、獨の各國公使館あるを以て貞洞の市街は皇帝の露館駐釐以來遂に京城の政治的若くは外交上の中心となれり、日本領事館は京城中繁華の一なる南大門に近き所にあり、又木兌山(南山)麓の勝形なる地に日本公使館あり、又此近傍なる筆洞及芋洞に日本守備隊本部並に日本の諸官衙あり、京城に在留する諸外國人は日、清、兩國人最も多數を占め、米國人之れに次ぎ、其他英、露、獨、佛亦若干の居留民あり、在留日本人は最近の調査に依れば通計參千六百

七十三人の内男二千七十四人、女千五百九十九人、戸數九百二あり、山口長崎兩縣人其過半數にして是等は外國貿易を始め本市を中心として四方に行商を營むもの多し、其商品は金巾、絹、紡績絲、白木綿、摺付木、金屬、洋傘、絹織物、藥品其他の雜業に従事せり、居留地内には居留地役所、商業會議所、學校、病院、社寺等を有せり、京城は由來雜居地にして特定の外國人居留地あるにあらず、英韓條約第四條の規定は英國人に允許するに城内雜居權を以てせり、他の外國人亦之れに均霑して城の内外至る處を撰定して開店せり、然れども當初京城を外國人に向つて開放せし起因は清國商人が所謂大國の威を藉りて公然城内に開店せる狀況に對し、各國亦之れに均霑して各自其條約中明記するに至り、自然の慣例今日の狀態となれり、而して歐米人の居留地及歐米各國の公使館及領事館は重もに京城の西南貞洞にあり、此の如く貞洞及泥峴は共に商業の中心たるに係はらず、泥峴の通路殊に惡道なりしを以て日本居留民は約一萬圓の起債をなし、明治三十四年八月より改修に従事し、十一月落成せしを以て其面目を一新し、京城第一の街衢となれり、又電氣鐵道の通じたる鐘路街には六矣廳ありて織物、紙、魚類等を販賣せり、此附近は半島普通の矮屋とは其構造を異にし、悉く二階建の家屋軒を列ねて立てり、而



して南大門の朝市も亦甚だ盛なり
 京城には金融機關未だ發達せずし
 て僅に天一銀行漢城銀行及漢興銀
 行ありて其資本も甚だ少し天一銀
 行は資本金五萬圓に韓廷の補助金
 六萬圓を加へて成立する合資會社
 にして其他の二銀行は僅に資本金
 三萬圓内外の合資會社なり
 京城の内外に於ける名勝蹟頗る
 多きも其重なるものは○倭將臺
 なり此臺は文祿の役増田長政の築
 きし所にして當時一千五百の兵士
 此處に屯營せしと云ふ則ち南山の
 中腹にありて京城市街を瞰下し朝
 霞に雅にして月夜に麗なりと雖ど

も特に雪景の美最も賞すべし甲午の七月我軍の砲列を備へたる舊跡なり○蠟
 石塔は城内の中部塔洞にあり七百年前高麗元宗の朝其妃を明の皇室より迎へ
 し際明皇帝の寄贈せしものにして當時高麗には佛教盛に行はれ元宗の如きは
 殊に熱心なる信者なりしを以て塔と共に壯大なる寺院を立てたりしが後年李
 朝に至りて僧侶は悉く城外に放逐せられ之れと同時に寺院も悉く破壊せられ
 たりと云ふ塔は元と十三階なりしが文祿の役加藤清正之を戦利品として三階
 まで取下せしも重量に堪へずして其儘放棄せしと云ひ傳ふ○老人亭は南山の
 東南麓なる赤砂青芝の下静幽閑邃の地にある閔氏一族の別墅にして甲午七月
 十五日日清戦役開始前大島公使が韓廷の改革問題に付き改革委員と會合商議
 せし所謂老人亭會議を開きし處として有名なり其他南別宮關羽廟文廟清涼里
 石坡亭孔德里等の舊蹟別墅及獨立門南漢北漢の兩山嶺の絶景漢江河畔の風景
 等あり圖に示す迎恩門は京城の西支那街道に建てる有名の門なり
 龍山は京城に近く漢江畔にあり曾て京仁鐵道の竣工前は海岸より京城に入る
 旅客貨物は皆仁川より此地に於て上陸したる地にして三南の米穀多く集る○
 麻浦は仁川に往復する小汽船の發著所なり○清涼里には故閔后の陵洪陵あり

廣州府は京城の東南四里半にあり、古の百濟王溫祚の都せし古跡なり、四方山を繞らし要害の地なり、府に九個の古刹あり、僧徒は専ら弓矢を執りて獵を業とす、自ら言ふ國家干城の資となすと

水原は京畿道觀察使の治所なり、京釜鐵道線に當り京城より二十哩の南にあり、商業稍行はる將來開市場たるべき地なり

素砂河畔に安城あり、此邊は征清役の始め我陸軍の始めて清兵と砲火を交へて清兵を一掃せし處なり

開城は京城の西北十三里にあり、或は松都と稱し高麗四百年間の舊都にして城廓堅固の名あり、玄化寺と稱する古刹あり、金、煙草、紙、大豆、人參等の産あり、將來開

市場となすべき地なり、今や京義鐵道此地に開通せり、此府と京城との間に碧蹄館あり、文祿の役、明の李如松が我兵の爲め大敗せし古戰場なり

江華府は江華島にありて京城咽喉の要地なるを以て別に留守を置く、又皇帝の避難所として離宮あり、明治九年始めて我國と修好條約を結びし所なり、石材、莞草等を産す

仁川

仁川港(即ち仁川府、濟物浦)は半島の西南岸なる江華灣内漢江の海口にあり、月尾島及小月尾島港前に横はりて内港を扼す、内港は狭くして二千噸以上の船の繫泊に堪へず、其以外を外港とす、主要の貿易港にして京仁鐵道京城より四十五浬此地に通ず、我長崎より四百五十餘浬あり、其位置北緯三十七度二十八分、東經百二十六度三十七分に位し、恰も福島縣若松市と同緯度にありて、冬期は氷點下四度、北海道壽都夏期は二十五度二分(千葉縣銚子)を平均溫度とす、雨量は九五二耗(北海道根室)を示し我邦に比し甚だ少量にして氣候頗る健康に適す、沿岸には六個の砲臺を築き海防に備ふ、又燈台ありて航海に使せり、港の前面に横はる月尾島(周回四浬)の北岸に日本海軍貯炭庫あり、南岸に露國の貯炭庫ありしが、今我占領に歸せり、永宗島は明治九年我軍艦雲揚が砲撃を受けし所なり、京城へは常に漢江に依りて小蒸汽船往復す、此營業は主として日本人若くは英人の手に經營せらる、港内には沿岸貿易に従事する小船を碇泊すべく、港外は海底深くして巨艦商船絶へず、輻湊す、明治卅七年二月八日我海軍は日露役戰の開戰第一に於て露國軍艦二隻を此港外に撃沈せり、本港は明治十六年一月(一八八一年)開港せり、當時漢江の下流に於ける寂漠たる一小漁村なりしが、明治廿年以來貿易業長

足の勢を以て進歩をなし近年著く増加せしは蓋し水陸の便宜く殊に京城の咽喉に當るに因る故に内外國人の雜居及商業の隆盛貨物の集散釜山を凌ぎ遂日繁華の趨勢あり市街は其形勢我神戸に類似せる所ありて朝鮮町外國人居留地に分る日本居留地は露清兩居留地間にありて其地域最も廣く東西二百六十餘米南北百八十餘米面積九千坪にして内に帝國領事館は二千坪の敷地を占む然ども各國居留地と雖も其九割以上は本邦人の居住地なり最近の調査に於て本邦人此地に在留する者は戸數千三百三十一人口五千九百七十三内男三千四百十三女二千五百六十其他清韓及歐米人を合計すれば戸口四千七百五十九人口二萬九千九百四十二人此地に在留せりと雖ども清韓貿易を除き他に優勢のものなし而して日韓貿易殊に阪神貿易の發達と居留民の増加とは居留地の擴張を促し遂に海岸埋立工事を起すの必要となり既に竣工するに至り其長五十七米に達せり是以て日本人が日韓貿易に如何に熱心なるかを知るべし在留日本人の多くは小賣商店にあらざれば力役に從事するの徒にして汎く各國人に販賣し若くは貿易製造工業と名づくべき程の規模組織の大なる者に至りては銀行業

(三)運送業(一〇)貿易商(一四)取引所(一)雜貨商(一四五)仲買商(一五)穀物商(二四)等にし

て其他は雜業に從事せり而して本邦人が毎月外國人に支拂ふべき地料家賃は一箇年約四萬二千圓にして本邦居留民自治經費の歳出入合計額は三萬三千五百三圓以上に達せり其他警察署商業會議所郵便電信鐵道病院公園夜學校小學校等の設備ありて多少の經費を要す郵便は日本政府の設置にして萬國郵便と連絡し電信は京城より此地を経て釜山に至るもの日本の專有に屬し鐵道は此地より四十五軒漢江南岸に沿ふて京城に達する京仁線ありて交通機關稍完備せり而して三十五年中に於ける當港出入の船舶は汽船千六十二隻五十七萬三千八百一噸帆船九百九隻三萬五千二百九十二噸合計千九百七十一隻六十萬九千九十三噸にして三十四年度に比すれば汽船に於て百三十五隻十三萬二千五百五十一噸を増加したるも帆船は二百二十四隻二千三百七十五噸を減せり蓋し社會の進運漸く當國の形勢を驅りて發著不定の帆船に慊らず快輪速達の汽船に就かしむる交通上の趨勢を示すに外ならず此航運上の實權を有するは日本船舶にして敢て従前と異なることなし即三十五年中日本國旗の下に出入せし汽船は五百九十九隻三十五萬三千八噸之を各國汽船の出入數に比すれば約六割強を占め又日本帆船の出入四百九隻二萬五千九百五十六噸も亦同様の

割合に居れり、若し沿岸の貿易の都合上國旗變更の日本汽船を算入せば恐らく優に七割を占むべし、左すれば三十五年當港税關の徵收せし噸税一萬二千餘圓に對する七割則ち八千四百餘圓は日本船舶の負擔に屬す、當港出入日本汽船の主なるものは大阪商船會社所有船にして同社は特に當國航路に力を注ぎ定期臨時に銳意益擴張に努め、又日本郵船會社も引續き神戸、天津線及神戸、牛莊線の定期船を往復、共本港に寄港せしめて貨客の利便を與ふることに努めり、當地回漕者堀力太郎も八隻千六百八十九噸を以て重に當地沿岸航路に従事し時々當地日本間の來往をもなせり、船其他の設備に於て勿論以上兩會社の比にあらざるも當地貨客の利便決して尠しとせず、要之に當港出入の各國船舶に付ては日本船舶と對比論述すべき價值なしと雖も三十五年露國汽船の出入八十二隻十一萬三千六百七十四噸之を三十四年度に比すれば四十八隻七萬七千八百九噸を増加せしことは多少の注意を要す、這は即ち同國東清鐵道會社が浦鹽、上海線の汽船二隻を以て一は凡そ二週一回一は凡そ一箇月一回往復共に當港に寄港せしめたるものにして而かも壯麗なる其事務所と附屬倉庫を當地京仁鐵道鐵驛附近に竣工し將來益爲す處あるが如くに見え、日露開戰間際迄は一際低廉な

る運賃を以て貨客集收に努め居しも其の貨物は上海より來航の際綿布類の搭載をなすを目的とする位のものにして本邦汽船に對し格別之が影響として認むべきものなしと雖も一時は大に警戒を要したり

忠清道(南道)
(北道)

京畿道の南に隣り或は湖西と別稱す昔は全羅道と共に百濟の故地なりき故に古跡多し京釜鐵道全道を貫通するを以て將來最も有望なり

公州府は忠清南道の治所にして京城の南九十里にありて京釜鐵道の大停車場を置く地なり南に錦江を帯び水陸交通の便あり、附近平原廣く綿の産すること當國第一たり春秋兩期の大市には各方面より來集する商賈多く朝鮮最大の市場と稱せらる將來開市場たるべき地なり其東南に當りて永同あり京釜鐵道の中央驛たる地なり、扶餘は公州の西南錦江の下流にあり昔百濟の都城を置きし古跡なり

江景は尙ほ其下流なる全羅道境に近く朝鮮南部の商業地にして木綿、米穀、牛骨等の錦江を下りて來るもの多し故に京釜鐵道は魯城と珍山との兩驛の中間なる論山より七哩の支線を出して此地に達せしむれば將來大に發達すべく又開

市場として指定されたる地なり

素砂河下流に成歡の京釜鐵道の停車場あり此驛は征清の驛に我兵の始めて銃火を開きし所なり河口の牙山は清兵の據りて我兵を防ぎし所なりしが我歩兵第九旅團の撃破する所となり其根據地を奪はれたり○近海の豊島附近は征清の役我海軍の大捷を得せし所なり○成歡に近く(東)有名なる金鑛稷山あり淺野澁澤兩氏の經營に係る

忠清北道の治所を忠州とす本道の東北部なる釜山街道に當り烏嶺を其南に負ふ將來開市場たるべき地なり壬辰の役に我兵の勝利を得せし地なり○其西南本道の中央部に清州あり是又釜山街道に當り交通要樞たり其東南に峙つて車嶺とす綿の産地たる沃川は其南の平原に在り小白聯脈の支出する有名なる秋風嶺は慶尙道の境に蟠まり其南に亘る徳大山との峽路は慶尙道の金山驛により永同に通過する京釜鐵道線中の難路たり

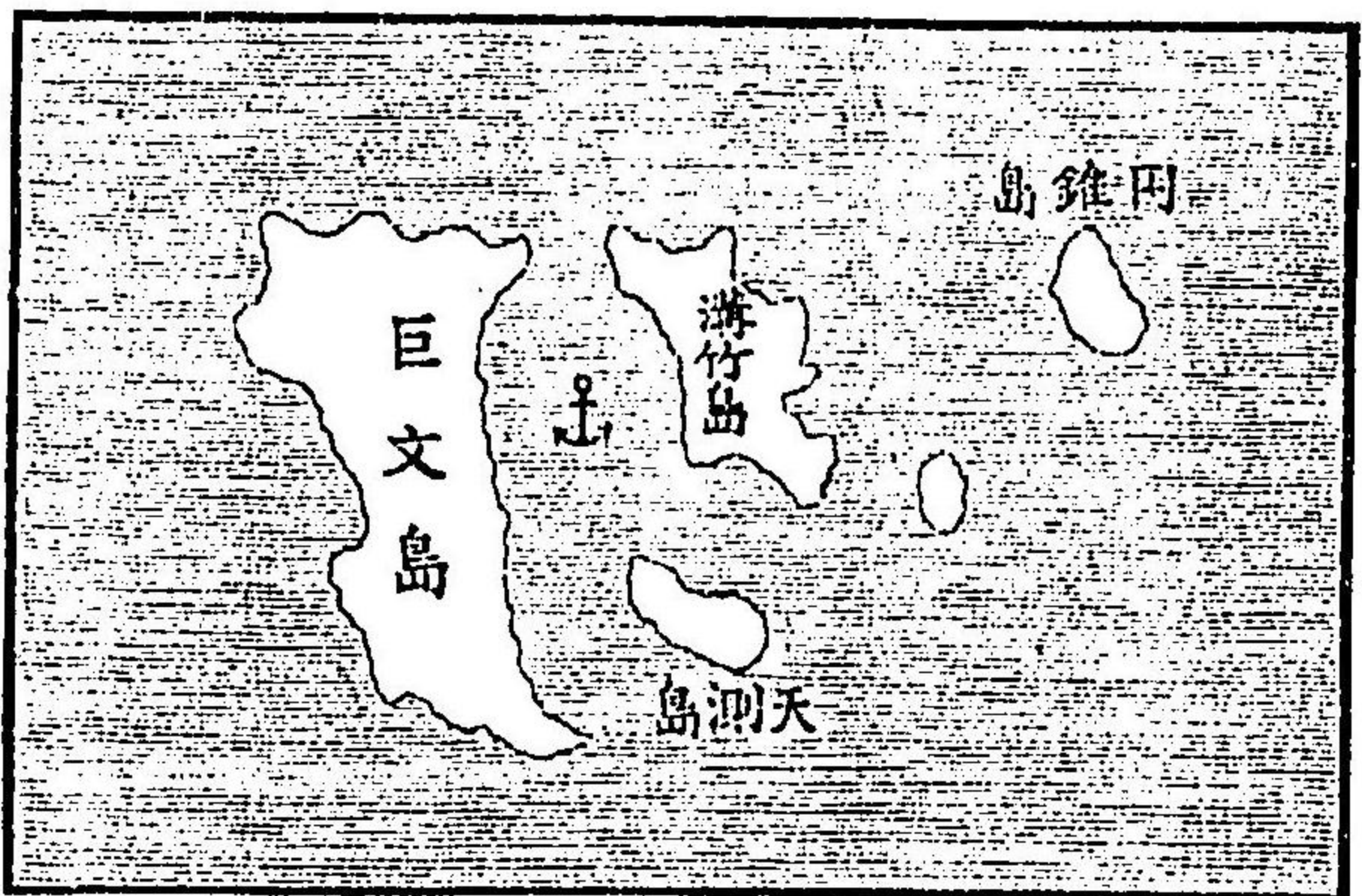
全羅道(南道)

本道は韓半島の西南角を占め沿岸に港灣多く蟾津江榮山江錦江等の流れありて形勢佳良なり古百濟の古據せし所なり

光州は南道の治所にして榮山江の上流平原にありて米穀木綿紬生絲の産あり將來開場たるべき地なり榮山江を下れば南平あり其下に羅州あり米穀竹器扇簾等を産す是れ亦開市場たるべき地なり榮山江口は巨大の三角江をなし碇船安全の良港なり其北角に開港場たる木浦あり

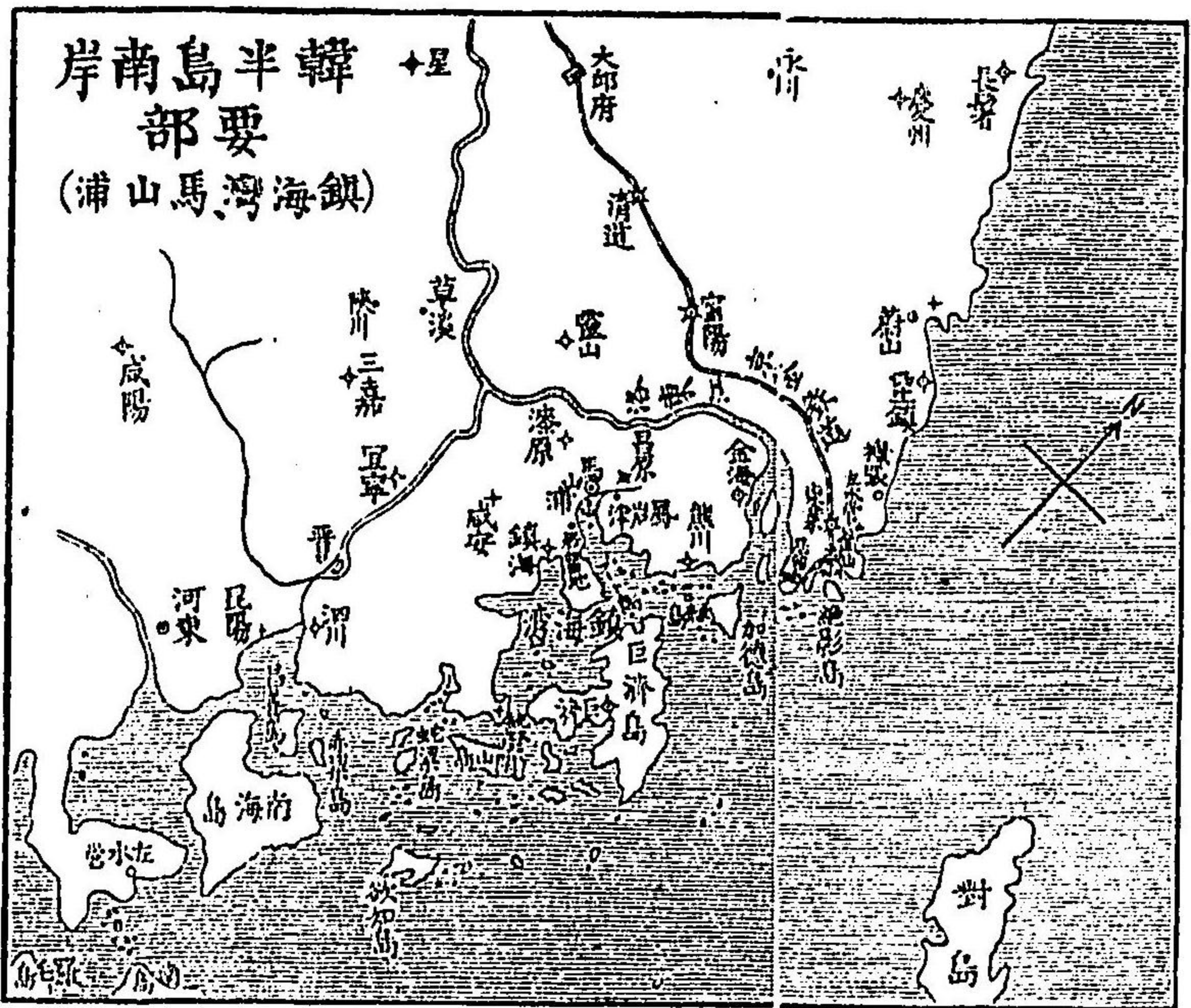
木浦は明治三十年の開港にして港内水深く六七尋に及び大船も横著けするを得べく港口は右水營の突角南より出て、之を抱し水道には達里列島横はりて風浪を遮り頗る安靜なる良港なれども港門狹隘にして潮流急に船を容る、頗る困難なり故に商勢は漸々群山浦に奪はる、の傾向あり然れども羅州光州平原の産物たる米大豆綿の輸出所なるを以て次第に繁榮し本邦人の在留一千人に達す○近海には港灣島嶼多く西海上に八口灣の良泊を有する雙子列島あり右水營半島と珍島との間是有名なる碧波亭水道にして潮流急にして渦流をなし我が鳴門及伊太利のメシナ海峡のカブリデースと併稱せらる、所なり壬辰の役我水軍の大敗を取りし處なり南岸に古今島あり其東岸は古今島錨地なり古今島と其南なる助藥島との中間は有名なる長直路碇泊地なり此泊地の東口には馬島を控へ西口に莞島ありて四方の風を防ぎ波浪穩に潮流急ならざる安

穩の錨地なり征清の役に我海軍の根據地たりき
濟州島耽羅は朝鮮第一の大島にして島形楕圓に近く長徑四十里短徑十七里あり全島火山岩を以て構成せられ殆ど中央に漢羅山(漢羅山)あり高度六、五五八尺



に及ぶ火山なり松柏森然として全地を蔽ひ遠望甚だ佳なり島の東及北側は大概開墾せられて田圃となる沿岸深き凸凹なく大船の碇泊に堪へずと雖も小泊地多く近海は海鼠、鮑、海草の好産場なるを以て我漁船の泊地となる所なり島の治所たる濟州は北岸にあり西南岸の大靜は第一の泊地なり
巨文島は濟州島の北々東にあり巨文、溝竹、天測の三島より成る韓人は三島と云ふ其中間に良泊所あり一時英國艦隊の占領せしことあり之を波見敦港(Port Hamilton)と云ふ島内良水ありて量多く人口二千餘あり黒山島は朝鮮の南西界をなす島にして高さ二千尺に達す樹木密茂し住民若干あり

北道の治所を全州と云ふ京城の南五十六里本道の北部蘆嶺の北側平原にあり後百濟の都せし地なり又祖陵太祖康獻王の墳墓あり産物は精工なる籐あり將來開市場たるべき地なり其北六里に益山あり古馬韓の占據せし所なり海岸に近き古阜は日清戦役の導火線となりし東學黨の起りし處なり
群山浦は錦江口に近き南岸にある良港なり明治三十一年開港せし貿易港なり港口西南に向つて開け大船の出入碇泊自在なり故に木浦の繁榮を奪ふの傾きありて貿易年を遂ふて發達せり錦江を下り來る米、桐材、牛皮、麻布、紙等を輸出す又陸路は江景停車場と連絡せし本邦の在留する者五百餘あり是より以南の海岸に新倉津、沙津浦の錨地あり近海に隔音群島あり十坐の主島と數小嶼より成る皆高嶼なり隔音山島最も高く此島とムイイン島との間に各方の風を遮る好錨地あり○又竹島附近は好漁場にして我漁船の集まる島なり
慶尙道(北南道)
本道は半島の東南角を占め洛東江流域の南韓東部の段落平地に當り最も我邦に近邇し古來彼我の關係最も深く日本人を主位として建設せりと云ふ新羅の占據せし地なり



南道の治所を晋州と云ふ南海岸に近く位置し綿麻紙等の産あり將來開市場たるべき地なり其南に島津義弘の捷戦せし泗川あり

鎮海は同灣に臨める一都會なり鎮海灣は南岸の諸良灣中の良灣にして澳廣く水深く巨濟島前面に當りて波浪を遮り碇泊安全なり且つ朝鮮海峡の要路に當るを以て交通上兵要上我竹敷港と相待ちて海峡の鎖鑰たるべき要點なり

馬山浦は鎮海灣頭に於ける開港場にして明治三十一年之を

開けり米大豆砂金牛皮の輸出地なり日本の專管居留地あり馬山に近く昌原の金鑛地あり又其東に古加羅國或は駕略國の都を置きし金海あり洛東江口に近く水運の便あり

釜山

釜山港は北緯三十五度六分東經百二十九度三分に位し慶尙道の東南角にありて朝鮮海峡に面し絶影島周回約八里其口を扼し龍臺冬栢の二島相對して自ら港門をなして東南に開く港内四里に亘り半島の要港にして又最近距離の外國貿易港たり我對島の北端を距る三十裡にして長崎へ百六十五裡馬關(百二十二裡より航するときは十一時間にして達すべく又仁川港(三百三十一裡へは約六十時間にして達すべし氣候は我滋賀縣彦根と同緯度の地にありて冬期は平均温度二度八分(岡山)夏期は平均二十五度九分(新潟)全年の平均十四度六分(大阪)にして雨雪量七百七十四耗(綱走)を示し頗る健康に適せり古來朝鮮と交通するもの一に此港に依る二百年前既に日本人在留して幾多の經營をなし千八百七十六年即ち明治七年公然日本と通商を開き千八百八十年即ち明治十五年に外國貿易港となれり而して西岸の海峡は海底淺くして吃水深き船舶は航通するを得

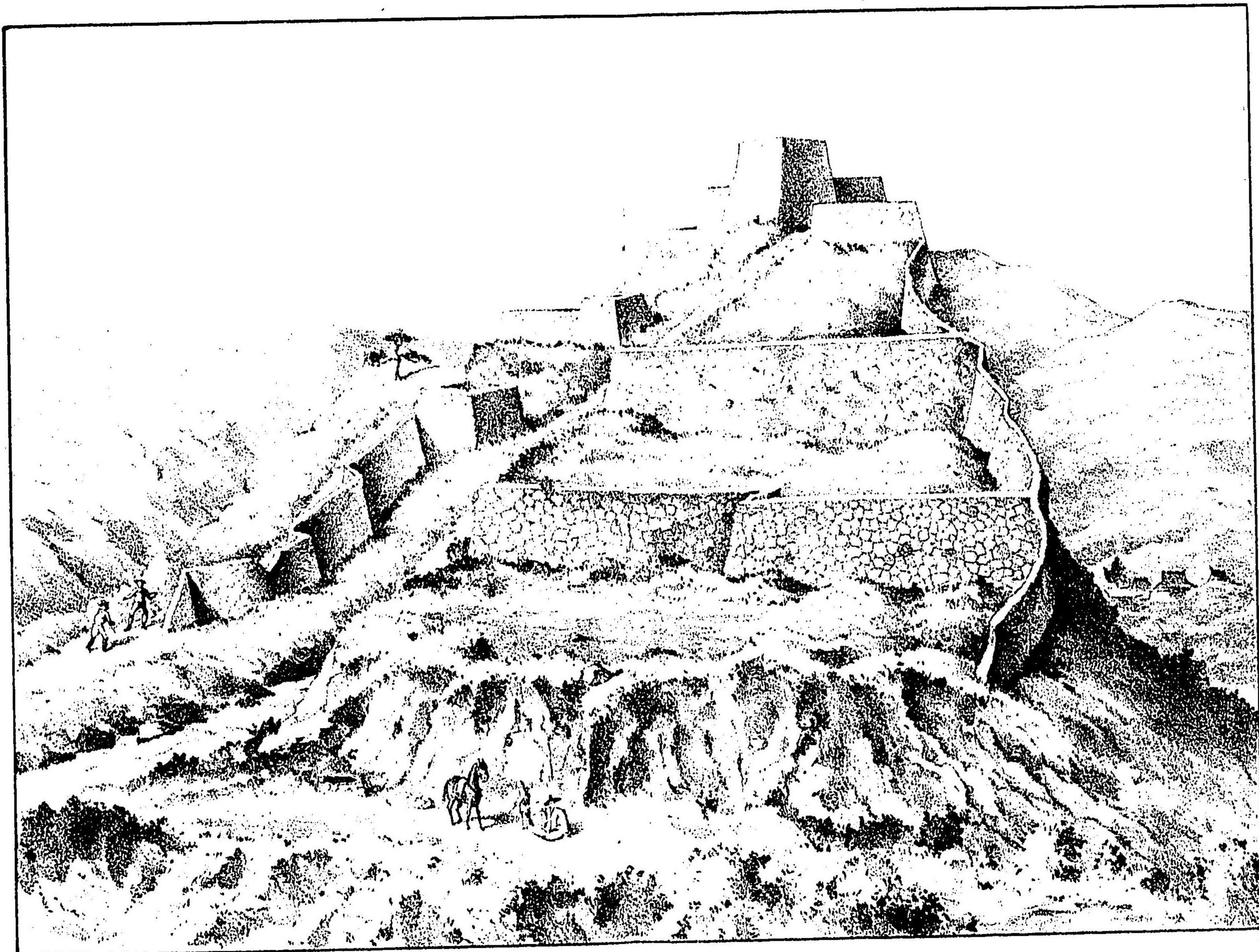
ざるを以て巨艦大船は悉く東方より出入す北邊の海岸に釜山鎮あり海軍巨鎮の營あり東西丘陵に據りて城廓を環らし石を疊みて胸壁となし海水を引て塹濠とす周圍約三里餘其四周は人家稠密商工群集せり外國貿易場たる釜山港は其西南に距りて貿易甚だ盛なり實に八道第一の埠頭と稱す市街は龍首龍尾の兩山の間において區劃整然頗る清潔なり日本領事館は龍首山の半腹にあり其他税關警察署郵便電信局等あり龍尾山上に加藤肥州社あり社畔の一亭を晃朗臺と稱し附近に公園あり祥風園と名く眺望甚だ佳絶にして櫻川の一運松櫻之を挾み翠嵐重疊櫻雲爛熳の好景更に一段の風趣を添ゆ日本居留地は北に烽臺山を負ひ南に絶影島を控ゆ内に日本居留民人口一萬三百四人内男五千七百八十七人女四千五百十七人千八百四戸又釜山鎮へは五百三十七人内男三百四十一人女百九十六人百六十七戸最近の調査あり是等の居留民間には自治體の組織になる居留民役所ありて居留地に關する一般の事務を取扱ふ其議決機關には居留民會あり其經費は明治三十六年度に於て居留民役所に九千七百六十四圓商業會議所に六千七百圓教育費に一萬一千九百圓衛生費に一萬二千七百六十四圓(釜山病院一萬二千七百七十圓 釜山病院五百九十四圓)其他水道雜事等に多額を消費せり釜山小學校は工

費四萬一千圓を費して明治三十五年九月其工事落成し現に在校生八百十八人(男四百八十三人 女三百七十三人)を收容せり又水道は其布設工事費十萬七千圓を以て明治三十五年一月竣工し現に居留民使用しつゝあり又朝鮮海産組合なるもの、設備ありて沿海水産事業に従事し其漁獲頗る多額に達せり日本居留民の事業の擴張其進歩發達せること斯くの如きを以て釜山は宛然日本の一都會の觀あり韓人は姿微振はず漸く其周圍の村落に蟄居するの狀態なり故に港内の商權殆んど日本人の掌中にあるを以て仁川の日清兩國の競争地たるに反し本港は全く日韓貿易獨占の地なり

釜山に近き草梁は鐵道起點の停車場あり其北に東萊あり附近に梵魚寺の古刹及金井溫泉あり鐵道線に沿ふて梁山密陽あり密陽は洛東下流平原を占め將來開市場たるべき地なり其東岸に左水營機張西生浦蔚山等壬辰の役の古戰場あり蔚山は加藤清正の苦戰籠城せし所にして城趾尙ほ屹然として存せり又大豆陶器等同地より産す蔚山沖は日露の役我が上村艦隊が浦鹽艦隊を邀撃して大捷を得し所なり次に余が蔚山紀行の一節を録し城趾の概略を示すべし

八月一日午後五時一峯を踰えて一盆地に出つれば前面に突起せる山頂に規

模の頗る壯大なる舊城趾あるを認む是れ則ち余等此行の目的なる西生浦城
 趾にして世に蔚山城と唱へ慶長二年十二月藤肥州の據りて以て明の三十三
 將韓の七將の合圍を受け糧盡きて紙を嚼み壁土を煎じ馬を刺し其血を飲む
 馬盡く乃ち溺を飲むと傳ふる有名の蔚山籠城は即ち是なり余等覺えず踴躍
 し忽ち勇を鼓して城趾の下に至り熟々是を視るに凡そ七百尺計の高さある
 一丘陵を圍繞して石壘を築き頂上に天守臺を置き甚だ壯大の觀あり直に登
 臨を試む路峻にして斜傾急峻往々三十五度以上の傾きある所あり城壘其上
 に聳ゆ此阪此壘は是れ明兵の蟻附して上りたるものならん築城の法は級築
 法にして斜面に沿ひ級々石垣を以て圍み突角毎に櫓臺あり頂點に至りて一
 層突起したる壘を牙城とす余屢々熊本城に登りて其規模の壯大なる其築城の
 巧智なるに感せり今蔚山城を見るに其形勢其築城頗る熊本城に髣髴たるも
 のあるを覺ゆ聞く熊本城の起工は慶長三年にあり左れば蔚山籠城の翌年な
 り藤肥州の聰明なる孤軍且つ飢渴の兵を以てして能く明韓の大軍を挫折せ
 しものは城壘の要害大に其功を助けしことを察せしなるべし故に征韓の役
 既に終るや蔚山の土工を提げて歸朝し熊本市中特に蔚山町の一廓を設けて



行印學小京華

嶺山廢城

彼等を住ましめ以て熊本城の築城を助けしめられしならん何ぞ其れ蔚山城の熊本城と相似たるや牙城に登りて其形勢を見るに北は回夜と稱する一大流を帯び南は回夜支流の盆地によりて隔てられ西は山脈に連る東は即ち直に海に迫る此海は清正の機張にあり蔚山の急を聞き海路赴援するや明兵要して海中に戦ふ山陽の所謂清正自蒙銀兜整杖雄刀立船首指麾士卒明韓諸軍指目莫敢近者遂入蔚山なるものなり數百歳の下威風凛々尙ほ其狀を見るが如し只々蔚山城の缺點は飲料水の缺乏にあらんか韓地は湧泉乏しきに加ふるに此邱は火山性の岩石にして全山湧泉なし僅に丘の東前面に涓滴の泉あるを見るのみ故に汲道は回夜河一方あるなり彼の役や虜兵直に我が汲道を斷つ城兵輒ち苦む清正已に親しく此困苦を嘗む是れ熊本城内處々(天守臺に)鑿井を設けられし所以ならん乎登臨萬感の餘日已に暮れんとするを以て城を降りて西生浦の酒幕鄭某の家に投ず

北道の治所を大邱とす洛東江中流に近き平原の中央にありて米穀大豆等農地の集落にして南韓第一の盛邑たり且つ釜山より京城を経て義州に通する國內縦貫の要路に當り全羅忠清江原諸道の重要州邑に對し四通八達の形勢を保ち

又洛東江流域の水運を利して更に此等の要地を聯絡交通に便益すると尠からず今鐵道線路の中途に當り京城へ二百十五哩にして釜山へ七十二哩あり四方山を以て圍まれ中央の曠野東西五里南北二里に亘り琴湖江其間を流れ人口三萬餘米大豆小豆等農産物の集ること多く商業稍活潑なり又二月と十月(曆陰)の大開市には雜沓甚しく全國の産物悉く集り遠く清國に輸出す特に十月の開市には取引高六七十萬圓に達すと云ふ又毎月二七四九の十二回開市す此地は將來開市場として開くべき地なり鐵道線に沿ふて倭館扶桑驛金山あり秋風嶺の嶮によりて忠清道と境す

慶州は釜山の北二十里にあり新羅の都せし地にして鶴林君子國の稱ありき其北方迎日灣に近く迎日あり尙州は道の西邊忠清に近く洛東江上流水域を占む其東に洛東山峙ち下流に洛東驛あり又其下流に善山あり古來朝鮮の人物輩出せし地と云ふ星州は大邱の西にあり古の星山伽耶國にして景勝の地と稱せらる

江原道

本道は日本に海濱し關東の一部にして古穢貊の本據なり山深く北境に金剛山

の山榮あり山脈南に亘りて五臺山大關嶺となり南境に至りて太白山となる日本海は水清く碧海の名を得たり全般に風景に富み關東八景の稱あり

春川は本道の治所にして漢江の上流に建ち古穢貊の都を置きし地なり往々京城政治家の隱退する處なり附近に白金鑛あり漢江を溯れば金城に金鑛あり其西南に鐵原あり鐵及細の産あり

原州は本道の南邊京城の西二十五里にあり田圃稍拓けたり海岸に近く江陵あり後に大關嶺を負ひ前は日本海に臨み風景に富めり

鬱陵島は一名を松島と稱し本道海岸を距る八十里隱岐島の西北西百四十里の海中に孤立せり全島嵯峨たる圓錐山の集合より成り最高四千尺あり島岸嶮岨にして登り難く全島樹木密生し良材を出す韓船の材料は多く此島に仰く沿海は魚類多し島の周圍十八里にして幾と半圓を成す島の中央は北緯三十七度三十分東經百三十度五十三分なり此島の東に竹嶼あり

咸鏡道(南道北道)

咸興は南道の治所なり東朝鮮灣岸に近く建てり人口一萬あり咸興大野の中央に位し三面繞らすに墻壁を以てし東西南の三門を設け一面に山を負ひ前に大

河を控へ而して西湖の海口に通ずる崖に四里、元山居留地を距る三十里稍、要害の地なり現朝の祖李氏の發祥地なり其近郊に李太祖の微賤なりし時の古宅あり今尙ほ其畫像を藏せり居民は性質慍悍にして從來排外思想極めて盛なる所なり此府の北に北青あり北部に通ずる要路に當り又汽船の發著する所なり北青の北に利原あり南の沿海に馬養島あり征露の役に金州丸露艦の爲めに濼沈せられ其殘兵の避難せし所なり馬養島と本陸との間を新浦、錨地とす

元山津

元山港は半島の東海岸なる咸鏡道の南端プロットン灣内にありて釜山、浦鹽斯徳間の航路の中點にして北方に通ずる要衝に當り半島中最も樞要の要港たり其位置北緯三十九度十分、東經百二十七度二十六分にして千八百七十九年則ち明治十三年五月日韓條約に依りて開かれ尋て明治十七年十一月一般諸外國との貿易港となれり釜山へ三百十里長崎へ四百六十里馬關へ三百八十里浦鹽斯徳へ三百四十里あり港内は起浪の恐ありと雖ども廣濶にして海底深く冬期は海水の氷結を見るも船舶の碇泊に差支なし又京城よりは大路を通じ且郵便電信の交通あり近來京元線の鐵路の豫定線に當れるを以て交通益便を極む四境

は肥沃の地味を有するのみならず銅金其他の礦物を産するを以て貿易は長足の進歩をなせり而して此地の氣候は磐城の白川町と同緯度にありて冬期平均溫度零下四度一分(根室)夏期平均溫度二十四度五分(宇都宮)全年平均十度九分(石卷)雨量千二百四十九耗(壽都)あり

在留日本人は三十四年に於て千五百四人内男八百二十九人女六百七十五人三百五十四戸、清國人は百十九人内男百十八人女一人二十一戸、歐米人は二十一人内男十二人女九人十戸なりしが最近に至りては在留日本人は千六百六十八人内男八百五十七人、女七百七十三人、三百九十四戸となれり

右の如く日本在留民の數遙に他國人に超へ商業上の地位も亦決して釜山港に讓らす而して我居留地内外の施設經營に係るものには帝國領事館始め帝國駐劄隊兵舎(内一個中隊を收容す)及帝國海軍貯炭庫、其他帝國郵便局、公會堂(居留地所及商業會議所此内ニアリ)元山公立小學校、元山公立病院、元山公立避病室、源興學校(居留地)監理署、郵便司、電報司、海關、元山公立警務署等なり、外に農具其他金物類を製作して韓人向きに組織せられたる元山鐵工合資會社(職工日本人十九名)あり

元山の附近に德源あり、其西に馬息嶺の嶮あり日清の役に元山に上陸せし佐藤

枝隊が平壤の包圍攻撃に参加する爲め困苦缺乏に堪へて諭へし地なり元山の東南に安邊あり李太祖の建立せる有名なる古刹釋王寺あり元山より北に向へば文川及永興あり共に金鑛あり鴨綠江上流の深流域には甲山三木、長津等あり甲山は銅産地にして海岸の端川も亦銅鑛あり

北道の治所を鏡城と云ふ沿岸街道の要街に當る是より沿岸街道を北に進めば造山灣あり北西風及南西風外各方の風を防ぐ内に瑪丁灣、雄基灣あり雄基灣には良泊地を有す將來開港場たるべき所なり慶興は豆滿江畔にある商業根據地なり又韓國東北境防禦上の要地たり豆滿江を溯れば文祿の役加藤清正の遠征して二王子を擒にせし會寧あり其上流に茂山あり會寧、鐘城、穩城、慶源、慶興と共に朝鮮北境の六鎮の一たり

鏡城より南に進めば明川あり其南に吉州あり此沿海は明太魚及海鼠の好漁場にして我漁船の常に來往する所なり尙南に城津あり

城津は明治三十一年の開港にして元山を距る七十五里にあり我在留民ありて貿易に従事す征露の役露兵來襲して一時我居留民を引揚げ露兵掠奪を恣にしたり其南に摩天嶺あり虎多きを以て名あり

平安道(南道)

本道は朝鮮中最も古く發達せる地方にして歴史上の要地郡邑も少からず南道の治所たる平壤は北韓第一の大都會にして全韓に於て京城に亞く大都なり人口三萬を有し前に大同江の流を帯び後に大城山を負ひ頗る要害の地なり府廓によりて圍まれ五門を設け市街は内城、中城、外城、及東北城の四區に分る市街の最も繁盛なるは大同門通り朱雀門通り等なり此府は明治三十一年來開市場となり本邦在留人目を逐ふて加はる重要産物は米穀大豆にして輸出品は紡績糸、綿布、石油、燐寸等なり雲山金鑛の發掘以來又商業の活潑を加へたり此府は天然の要害なるを以て往昔箕氏、衛氏は夙に此地に都したり是れ即ち王儉城なり又古より兵を被りしこと數にして我國に關しては文祿の役には小西行長が祖承訓を破り後李如松に破られたり日清の役には我軍の包圍攻撃して清兵を撃退せし地にして牡丹臺、玄武門の如き頗る著はる日露の役には七星門外に於て我兵の始めて露兵と兵火を交へしを以て有名なり其對岸に船橋里あり日清の役平壤包圍攻撃の正面軍たりし大島旅團の苦戰場なり大同江下流に鐵島、錨地あり平壤、載寧、二水の合流地にして江水淺からず大同江口には日露の役第一

軍大部の上陸地點たりし鎮南浦あり
 鎮南浦北緯三十八度東經百二十五度四十分は千八百九十七年即ち明治三十年十月貿易港となれり地勢大同江の北岸にありて平壤より三十七哩の下流にあり二千噸内外の巨船は容易に碇泊し得べし然れども冬期二三ヶ月間は結氷するの不便あり抑當港在留の日本人は開港の當初即ち三十年及三十一年の初頃は重もに仁川京城等より移住し若くば支店を開設せし者にして當時雇に三十人(五戸)の日本人ありしのみにて居留地經營の事業たる諸般の設備も亦實に幼稚の域にあり殊に交通運輸亦不充分にして金融の機關備はらず資本家少くして微々として振はざりき翻て當時清國人には當國の各港にありて最も有力なる同順泰及裕盛仁等の大資本家は何れも多額の資金を投じ三十一年六月各支店を設け多數の地區を買受け遠大なる設備を加へ盛んに米穀を買入し沿岸貿易或は外國貿易を擴張し輸出入とも殆んど獨占の姿なりしが三十三年に至り日本人の資本家の注目する所となり漸次投資せられたる結果貿易は長足の進歩を以て發達し同時に又日本及韓國各開市場より續々來住して開業する者益多く貿易其他諸種の營業を開始するに従ひ自然清國人と競争の状態なりし

が彼等は貿易上大阪其他に於て日本人と直接の關係を有せざるが故勢輸出穀物は日本人に買占められ殊に三十四年六月第一銀行は瀾當港に出張所を設け開業するに至り彼等は非常の打撃を蒙むるに至りたり於是乎爾來米穀貿易は全く日本人の獨占到歸し清國商を壓倒し當初優勢なりし同順泰の如きは此歲支店を閉鎖するに至りたり爾來今日に及び清國人の米穀を買入る、を見ず然りと雖とも是れが爲め當港に於ける清國人の勢力の消滅せしにはあらず目下日本の人口五百四十七内男三百三十一女二百十六百十九戸にして清國の人口八十六、二十一戸、獨逸は人口四人、一戸、韓國海關吏米國人口二人、一戸、雲山金鑛會社代理店長あり而して清國人の二十一戸の内六七戸は商店にして盛に絹布を販賣し金巾、寒冷紗染料、庫緞、絹緞、絹紗等は悉く清國商の專賣に屬し輸入品の約五分の二は則ち清國商の奪ふ處なるを以て輸入品も亦輸出米穀貿易の如く有力家の遠大なる目的を以て相當の資本を投じ相競争するあらんには優に彼等を凌駕するに至るや蓋し遠きにあらざること疑を容れざるなり
 如上在留者の大多數が日本人なるを以て觀光者をして日本國の開港場裏を遊覽するの感あらしめ大に疑惑を生ずべき奇觀を呈すべし先づ第一に港内には

斷へず日本國汽船十數隻日章旗を翻し陸には日本領事館あり警察署あり郵便局あり居留民役所、小學校、病院、銀行、寺院、日本人墓地ありて道路溝渠等も在留日本職工の手に成り市街整然たる宛然日本國の觀あるか如く在留日本人の家屋も日本大工の手によりて建築せられ居留地内最良の位置に羅列し衣食住共に日本に於けると異なる所なし故に殆んど自國にありて外國に居住するの觀念なきが如し

鎮南浦の西に大豆地なる三和あり其北に鎗地たる甌山あり

平壤より北に義州街道を進めば順安、肅川、安州等あり日清日露兩役に我軍の困苦缺乏に堪へて進軍し屢敵の偵騎と衝突をなせし地なり安州は日露の役に露軍コサツク騎兵が我兵站を奇襲せし地なり此等街道の東に金鑛なる价川及殷山あり殷山は英人稼業に屬す其南に煙草、人參の產地なる成川あり

北道の治所を寧邊と云ふ清川江中流の右岸近くにあり其北に米人稼業なる雲山、金鑛あり義州街道に沿ふて定州あり日露の役敵の騎兵を撃退せし所なり北に進めば宣川、車榮館を経て義州に至る

義州は鴨綠江に臨める朝鮮極北の一都會にして人口一萬あり江を隔て、滿洲

の九連城を望むべく海東第一關たり古來支那人との互市場にして毎月六回開市す一六日特に殷賑なり日清日露兩役とも我軍の渡江動作の爲め滯陣せし地にして丘陵上にある統軍亭は滿洲を一望すべく日清の役山縣大將登臨指令したり前面の江は砂洲多く九里島、於赤島、黔定島、中江臺等我軍の勇士が大膽なる動作を以て軍橋を架し永く戰史に其功を留むべき所なり

義州より江を溯れば水口鎮あり日清役には佐藤支隊之を徒涉し日露役には第十二師團軍橋によりて渡江して九連城に大捷を博したり其上流に昌城あり江口より六十湮江は此地まで汽船砲艦を溯らせ得べし尙ほ上流に李世梁の祖地と稱する渭原あり其上流に慈城あり小舟の終航點にして北韓防禦上の要地なり其東北に人參及銅の產地たる江界あり

義州より下流には近來著名なる龍巖浦あり明治三十七年開港を宣言す其位置は江口を距る約十里の北にあり龍巖山と對山との間に亘る延長七町の河岸なり滿洲の大東溝及蚊子溝其對岸にあり江を溯る船の必ず寄港すべき地點なり元と葭爾たる一漁村なりしが明治三十六年春末より露兵妄りに此港を占領したるより漸く世の物議に上り我國及韓國の抗議となり遂に開港するに至れる

ものなり日露役中より漸く本邦人の在留する者あるに至れり將來鴨綠江口の主要なる根據地となるべし

鴨綠江は本道の北界をなす大江にして厚昌慈城渭原楚山碧潼昌城義州彌勒洞(中砂洲)安東縣(岸對)龍巖浦を経て大東溝(岸對)の港口に注ぎ其支流として有名なる渾江は盛京省伊爾哈雅範諸山の間に發し滿洲の通化懷仁を経て楚山に至りて本流に合す其支流を合すれば舟筏交通の區域百數十裡に達し其關係は清韓兩國に亘り交通不便なる該地方の運輸交通は全く此河流による之を上下する船舶約一千五百隻に下らず此等の船舶は本流に於ては慈城附近を境とし又渾江に於ては通化を以て終航點とす古來有名なる材木伐採地は尙ほ上流にあり河畔には此外山繭米穀の産あり日露戰役前は露國専ら材木伐採に従事して其利源を壟斷せんと勉めたり將來此江畔は經世家の最も注意を怠るべからざる地方なり

黃海道

海州は本道の治所なり南部の海灣に臨めり灣内に龍塘の錨地あり日露の役第一軍の先鋒の上陸點なりし其東南に延安あり又那津清と稱する泊地を有す其

北に黒田長政の明兵を破りし白川あり此附近は最も大豆の産する地にして米穀も亦産す禮成江は其主要なる灌溉界たり黃州は本道の北邊大同江畔に近く農産物の集まる所なり特に大豆は良品にして黃州大豆の名を博せり其北に中和あり日清役我偵騎敵兵と衝突奮闘せし處なり長淵金川等皆大豆の産地なり

般粟(西北海岸)豐川(同上)等は鐵產地なり
黃海半島の突角兩山脈の並行峽間に海水浸入して深き峽灣をなすを大東河口とす大東河此に注ぐ此河上流は水深しと雖ども河口淺洲多く大船の通行不便なり
沿海に島嶼多く白翎島は最も大に古來流滴地なり其南に大青島小青島あり

今や韓國地理を終るに當り以上述べし諸項を總括し結論として朝鮮の殖民的資格に就て述べんとす

朝鮮の殖民的資格

朝鮮半島は由來受動的半島なり其國民も殖民的國民にして或は移民的國民と言ふも妨げざるべし其現今の住民が悉く實際に他の地方より殖民し移民したるは歴史の示す所にして最も著しき事實は其土地と住民との間に密接の連繫を有せざること是なり語を換へて言へば朝鮮國民には先天的に愛國的感念若しくば國家的精神に乏しきは殖民的國民或は移民的國民たるの例證なりと謂ふべし朝鮮現今の住民は幾千年來各方面より殖民移住したる混合種族にして朝鮮興亡の歴史は各種族の消長史として見るを得べし抑も朝鮮半島土著の原住民は江原道を根據とせし穢貊種或は夷貊即ち「エミヤク」種族と咸鏡道を根據とせし沃沮種となりき穢貊種は北清地方より侵入せし燕の衛滿の裔の爲めに其領土を蠶食せられ遂に遼東に追はれたり又沃沮種は北阪に蟄居したり然るに半島四圍の各優勢種族は續々此地に向つて殖民移住を企て盛に侵入し來れり數世紀の間朝鮮半島に於て最も優勢の地歩を占めし

扶餘種は三千年前滿洲地方より侵入して咸鏡及び平安地方に移り遂に高句麗國を建て、開城(松都)に奠基し其後裔益々繁殖して黃海京畿忠清全羅の各道に及び京畿道に於ては文物發達したる彼の百濟國を建て、廣州に都し種族愈々繁榮して後世半島種族の骨子たるに至れり然るに此の種族は唐の爲めに滅ぼされ或は我日本に逃れ或は支那江淮の間に移され或は留りて亡國民となれり又支那本部よりも古來大に漢人種の殖民を受けたり般末には箕子數多の移民を率ひて遼東に移り次第に東南進して其子孫遂に平安道の王儉城(平壤)に都して大に勢力を振ひたり又秦代に至りては大工事の苦役に堪へず之を避けて此半島に隱退せんとし山東角より全羅に渡航し遂に慶尙道に於ける洛東江上流を占居して三韓の一なる秦韓即ち辰韓を建てたり或は南清地方よりは平安道に移住し來り後遂に慶尙道に移りて卞韓即ち辨韓を建て又箕子の裔は燕の衛滿の爲めに追はれて海を渡りて全羅道に移り來りて馬韓を建てたるが如き北來の侵入其勢頗る盛なりき其他地方種族の機會あらば此半島に侵入したるもの少なからず契丹靺鞨女眞の各種の如き是なり

北方の種族の以上の如く半島に殖民移住したると同時に半島と一帯帶水を隔